

幕末・明治初期雑誌目次集覧

藤 元 直 樹

はじめに

逐次刊行物には、短いスパンで同時代の事象を記述するという特質があり、歴史の記録として、その時々と言説を伝える貴重な資料である。しかしながら、同時代的には、その多くが消耗品として扱われ、意識的に次代に残されることの少ない資料でもある。また、その種類の多さも、収集保存を困難とする要因となって立ちはだかっている。雑誌・新聞・単行本が未分化で、産業としての出版も現在に比すればきわめて小規模であった明治初期における逐次刊行物も、まとまって伝存する事例は少なく、多くが散逸し、その全体を通覧することが困難となっている。そうしたこともあり、国立国会図書館では幕末から明治初期にかけての雑誌新聞を積極的に収集保存し、その多くを準貴重書に指定している。様々な史的研究の源泉たるべきこのコレクションが、不断に拡充されることによってはじめて、逐次刊行物という新しいメディアが登場した、その草創期の様相も明らかになってゆくはずである。

しかしながら、単独の図書館ですべての逐次刊行物を揃えることは事実上不可能であろう。将来的にはデジタル化とリンクによって新たな資料利用の方策が開かれることと思われるが、そのような段階への第一歩として、本稿は当館所蔵資料に限定せず、各図書館の御協力を得て、できる限り網羅的な目録とすることを目指した。対象範囲としたものは幕末から明治9年中にかけて創刊され、かつ明治9年までに終刊したと考えられる雑誌である。編者の力不足により行き届かない点多々あるかと思われる。今後も機会を作ってデータを充実させて行きたいと考えている。御指摘、御意見をぜひお寄せいただきたい。

幕末・明治初期の雑誌—全体像を求めて

本邦において逐次刊行物が刊行されるについては、西洋におけるその影響を考えないわけにはいかない。西洋の動向、そして西洋との接触によってもたらされた国内の動揺が、幕末の逐次刊行物の主題であった。

形態および刊行間隔から見る時、幕末期における逐次刊行物は、現在の感覚からすれば、その大半が「雑誌」に区分されるだろう。ただ、時事を報じるという性格に着目して、それを「新聞」ととらえることも間違いではない。そうした観点が、幕末から明治初期の逐次刊行物を集めた全集を、『幕末明治新聞全集』（大誠堂、1934-1935/世界文庫、1961-1962）、あるいは『日本初期新聞全集』（ペリかん社、1986-2000）と題した所以であろう。後者は、明治6年末に至る現存する「新聞」をほぼ網羅的に影印している。大変有用な資料であり、これによって、初期の新聞の全体像を見通すことが可能になっている。

なお、ここには、日本における雑誌の嚆矢とされる〈西洋雑誌〉は、収められていない。たとえば、『「事件と報道100年」展』図録（朝日新聞社、1979）において紹介されている「為御覧流行競」と題された慶応四年の新聞一番番附には、〈西洋雑誌（志）〉もその名を連ねており、同時代的には、同誌は「新聞」というジャンルを形づくる一部分として認識されていたと考えられるが、今日的な視点は、ここに至って初めて時事報道を主眼としない、新聞から区分される逐次刊行物が誕生したと見ているわけである。ただし、同誌においても主題は海外情報の紹介にあった。

さて、これに続く雑誌は何か。そもそも、明治初期の雑誌は何種類あるのか。これに応える基礎資料としてまずあげるべきものは、現在でもやはり麁姓外骨（宮武外骨）の「明治雑誌年表」（『明治文化全集19』（日本評論社、1992）所載。以下「年表」と略記）となろう。外骨は、〈西洋雑誌〉に続く雑誌として〈俳家新聞〉〈謳歌新聞〉を置く。現物を前にした時、これらを雑誌と見るのは、現在の目からすれば少々抵抗があるかもしれない。しかも、改めて調査してみると、〈俳家新聞〉は〈西洋雑誌〉よりも早くから刊行されている事実に行き当たる。ともかく「年表」には、明治9年までの項に106点の誌名が掲げられている。ここから明治10年以降も続刊されているもの（「年表」では終刊とされているが、実際は続刊されていたものを含め）を省いた61誌を、まず調査対象とした。

これに、様々な書誌や広告から、雑誌と見なすことができる資料を加え

ていくことで、幕末から明治初期の雑誌の全体像を検討し、本稿では73誌について立項し、伝存が確認できなかったものと見出しのない雑誌とを除いた、56誌についての目次を作成した。

ところで、凡例によれば、外骨の「年表」は、「数年以来着手せる明治元年より同二十二年に至る三千余種の新聞雑誌年表中から抜記したもの」であり、様々な資料から機会あるごとに外骨がメモをした記録を元に作成されたものである。これには、大本となる典拠というものには存在していなかったのであろうか。記述の過半は、外骨が収集した現物によったものと思われるが、それを今に伝える東京大学法学部の明治新聞雑誌文庫に存在しない資料も散見され、また、原資料には明示されていない終号データがどのようにして得られたのかという疑問も出てくる。

これについては、現物と「年表」の乖離がその答えとなろう。たとえば〈警世新聞心のしるべ〉は、「年表」では14号が終号とされているが、実際には15号が存在する。一方、内務省の蔵書目録『図書局書目』（内務省図書局、1883）は14号までの所蔵を記録している。そこで、現物によって「年表」の記述が誤っていることを確定できる事例について、同書と対照すると、その多くが、『図書局書目』の記述を転載したことによって発生していることが確認される。「内務省は検閲のために出版物を網羅的に収集していた。それ故、内務省に所蔵されているものがその雑誌の揃い（コンプリート・ラン）であると見て、間違いないはずである。」おそらく外骨は、このようなロジックで雑誌の終号を確定していたと考えられるのではないだろうか。実際、宮武外骨が昭和5年から15年にかけて、自らの収集活動を報告する媒体として刊行していた〈公私月報〉には、内務省の目録云々という記述が散見される。ただし明確な書名は記されず、「内務省で調査した総目録」「内務省の新聞雑誌目録」（8号）といった書き方が大半を占めており、ここから典拠資料を確定することはできない。同誌29号では〈開知新報〉にふれて、「内務省ノ目録ニ見エズ文部省ノ調査表ニモナク原稿本ノ日本新聞歴史ニ…」と記し、宮武の参照している文献がかいま見えるが、「文部省ノ調査表」については不明。「日本新聞歴史」は、『明治文化全集18』（日本評論社、1992）に翻刻が収められている小池洋二郎『日本新聞歴史』（巖々堂、1882）の稿本と思われる。

また、内務省が出版統制を担う以前の出版物のリストとして、文部省、教部省の〈准刻書目〉も利用されていたようである。これは、33号で〈布教新聞〉を紹介した際に、「当時の文部省、教部省の記録にも内務省の新聞

目録にも出て居ない珍物」と記していることと、「年表」にあげられる〈成通新書〉について言及している文献が、今のところ文部省の〈准刻書目〉以外には全く確認できないためである。ただし、教部省の〈准刻書目〉に見える逐次刊行物の一部は、「年表」に出ておらず、作成時点では利用できなかった可能性も考えられる。

さらに〈内務省年報〉も、基礎資料として欠かすことができない。年報では、逐次刊行物がリスト化され、その部数が統計として発表されていた。年間の部数であり、その対象期間の刊行号数を正確に把握することが困難であること、また、数字の精度も不確かではあるが、一応の目安として参考になるだろう。

また、今日では、外骨の時代には利用できなかった「明治期出版広告データベース」という非常に有用なツールが、国文学研究資料館のウェブサイトで提供されている。これにより、現存が確認出来ない資料についての出版状況を知ることも、一部可能となっている。また、ここでの区分によって、従来単行本と見られて来た資料を、「雑誌」として見直す機会ともなった。記して感謝の意をあらわすとともに、今後さらにデータが充実されることを期待したい。

官庁出版物と教部省准刻出版物

ここでは、官庁出版の逐次刊行物について考えてみたい。まず何をもって雑誌と認識するかが、基本的な問題となってくる。外骨も「官令、布達の類、物価表、引札広告の類はこれを除外した」とする。

達/布達/御達、布告/御布告、指令/御指令といったものが号数を付けて発せられ、印刷物として残っているが、これを雑誌として収集整理することは困難であろう。これらは、「全書」というかたちでまとめられているものを除くと、網羅的に通覧することは難しい。明治初期からすでに、官庁資料は灰色文献であったわけである。

一方、雑誌として認識される代表的なものは、〈太政官日誌〉をはじめとする「日誌」と題されたそれであろう。これはすでに新聞のカテゴリーに含められ、『日本初期新聞全集』が収録対象としており、これを雑誌のカテゴリー外におくと、官庁出版の雑誌は極めて少ない。

逐次に刷行される報告書類は、おそらくこの時期にもある程度存在したはずであるが、雑誌として認識される形で残るものではなかったようである。日誌類似のそれを除いた時、「年表」に見える、明治10年以降の続刊

が確認されない雑誌の中で、官庁出版物の範疇に入るものは、〈日講記聞〉(大阪医学校)、〈明治月刊〉(官版)、〈文部省雑誌〉、〈駒通寮年表〉、〈郵便月報〉、〈医事雑誌〉(大阪府病院)、〈統計雑誌〉(統計寮)の7誌となる。この中で、〈駒通寮年表〉という題名の出版物は、今のところ存在が確認できておらず、おそらく、明治10年以降も続く〈駒通寮年報〉を指すものではないかと推測される。年次報告の類も確かに逐次刊行物であるから、この種の出版物を発見することは可能であろうが、一般的な雑誌のイメージを考え、ここではそれについても追求しないでおこう。

このように対象を絞ると、以上にあげた出版物に加えられるのは、調査の基本資料である文部省及び教部省の〈准刻書目〉、内務省の蔵書目録に見える〈筑摩県師範学校報告〉(筑摩県師範学校)、〈教育雑報〉(大阪府第五課)、〈山口県第五課雑報〉(学務課)、および〈医院雑誌〉(東京医学校)に限られてしまう。〈筑摩県師範学校報告〉については1号が存在するのみであるが、このように見てくると、同誌は、地方官庁の出版した逐次刊行物の嚆矢としても、注目すべき存在のようである。他の二誌については、現存が確認できていない。

こうした資料は、なんらかの書類の簿冊の中に合綴されて残っていることが考えられる。既に刊行されている数多くの近世～近代文書目録に記録されていないか、細かに見ていく作業を進めるとともに、今後の各種文書調査の進展にも期待したい。

もうひとつ今回の調査で光を当てる必要を感じさせられたのが、教部省准刻出版物である。内務省が出版統制を所管する以前の時期には、文部省が出版物に対する許認可を行っていた。ただし、兵部省(陸海軍省)関連の出版物については別扱いであったようであるが、その対象となった出版物の書目は見いだされていない。同様に、教部省関連の出版物に関しても、文部省の統制外にあった。これに関しては、〈准刻書目〉(教部省)が刊行されており、その対象となっていた出版物が明らかである。ここには、「年表」に見えない逐次刊行物として、〈説教志留倍草(説教するべ草)〉(一/二/三号、四/五編、六号)、〈訓導道志留倍〉(初/二篇、三/四/五編)が記録されている。両者とも、現代の観念からすると、雑誌と見るには多少無理があるが、参考のため前者の細目を採録した。後者については、翻刻および解題が『明治仏教思想資料集成第2巻』(同朋舎、1980)(4、5編は原本ではなく謄写本を底本とする)にあるので、そちらを当たられたい。

調査の過程で改めて気づかされたのは、文部省が准刻した書物について

は前身の図書館を通して当館へと伝わっているが、この教部省によって准刻された出版物に関しては、当館の蔵書はきわめて貧弱だということである。これは、当時の図書館と同省との協力関係が確立されていなかったため、教部省准刻出版物の収集がなされなかったためであろうか。ともかく、〈准刻書目〉1～4号に記録される約340点の過半が、現在、当館のOPACで見いだせないものであり、国立の図書館として、なんらかの形でコレクションすべき資料群として認識されねばならないことは確かである。

ヴァリエント

今回の細目では、著者表示の部分では、表記の過半を新字にあらためたが、題目に関しては、実際に使用されている漢字表記を出来る限り再現するように努めた。残存が稀なことや、貴重書扱いされることもあり、実際に資料を対照する機会は極めて限られており、丁付のレベルで異版が確認できる事例もあるものの、漢字の字体の違いによって、初めて異版が確認される場合が存在するからである。

冒頭に記した通り、当館においては、明治初期の雑誌は準貴重書として扱われ、複本はそれぞれ別の請求記号を付されて整理されている。まず、これらを対照することでヴァリエントの存在は見えてきた。

幕末から明治初期にかけ外国製品流入に反対を唱えた僧侶として知られる、佐田介石（1818-1882）が論陣を張った〈世益新聞〉。当館では残念ながら全号は揃っていない。それにもかかわらず、2号附録は3点所蔵されている。一見無駄なコレクションにも見えるが、表紙に「明治八乙卯三月」とあるこれらの資料の内、請求記号WB43-138の二丁裏には、4月24日付の「建白御指令」が赤で刷られている一方、WB43-138-2として整理されている同号は、この部分が全くの空白で、頁の中央に「左院御中」と刷られている。この四文字は御指令が刷り込まれるようになったWB43-138では頁の右側に移動している。さらにもう一冊のWB43-138-4は、WB43-138同様「建白御指令」が赤で刷り込まれ、「左院御中」の文字が移動しているが、頁の中央に刷られた「左院御中」はそのまま残り、上から白紙を貼って消した状態にしてあるという中間の形態を示している。印刷物は決して静的なものではなく、多少おおげさに言えば、生きていて日々変化し、異本を発生させているのである。

初期の博物館行政を担ったことで知られる田中芳男（1838-1916）が中心となって、大阪で刊行された〈明治月刊〉の1号も、3点の所蔵がある。請

求記号 WB42-18-3 は題簽が不完全ながら、「一號」と見える。WB42-18-2 には「一號」とあり、残る WB42-18 は「一號」である。「一號」の緒言は「嗜好者の便に其（ママ）ふ」で終わっているが、「一號」の緒言は「其ふ」が「具ふ」と改まっております、さらに「鏤行月毎に一冊或は二冊を以て率となす因て名けて明治月刊と云」の一文が加わっている他、本文にも小さな差異を見出す事ができる（巻首部分の余白、18 丁裏 5 行目の「為志」→「為し」）。

当館の所蔵が部分的であることから、欠号部分を補う調査を行ったことで見いだされた異本もある。

今回の調査で、日本における雑誌の嚆矢とされる〈西洋雑誌〉についても、明らかな異本の存在が確認できた。東京大学総合図書館本の巻一の、「西洋雑誌」と題された序文相当箇所における匡郭の高さは 152 ミリである。一方、国立国会図書館所蔵本のそれは WB42-32、WB42-32-2 とも 149 ミリ。字形の異同は見いだすことができなかったが、序文相当箇所のみ版木が伸縮して差異を発生させたとは考えにくい。さらに巻三についてみると、巻末の出版者表記を東京大学総合図書館本は欠く。これは、単に版木の一部が削られたものかとも思われたが、大半の字形が一致するにもかかわらず、13 丁裏 1 行目にある「製」の字の「制」の左側が「缶」と刻されており、また 2 行目「少からず（ら須）」の「ら」と「須」が国会本では切れているが、東京大学総合図書館本では連続している。このことから、ほとんど寸分違わず彫られた異本が〈西洋雑誌〉には存在していたことが判明した。

細目上の丁付が異なってくることから異本の存在が判明したのは、〈報四叢談〉である。当館所蔵の同誌 2 号の本文は各半丁 13 行×30 桁で活字が組まれているが、明治新聞雑誌文庫所蔵の同号は 12 行×30 桁となっており、そのため細目に対応する丁数にずれが生じていたのである。

〈報四叢談〉については、活字の組み方が異なることから生じた丁付の変化であるが、整版と活字版の二種類が刊行されているため、所蔵館によって、掲載丁に異同が見出されることが想定されるのが、〈教院講録〉である。調査の最初の段階では、この雑誌は、手配した印刷所が一定していなかったために、号によって整版/活字印刷の変化が生じているものだと判断していた。ところが、当初の前提を覆す事実を、金光図書館に御指摘いただいた。同誌については、それぞれがセットとして伝存しており、明らかに増刷（再刊）に際して、印刷方法が変更されていたのである。

以上、管見の範囲から実例を幾つか紹介させていただいた。今後、伝存するそれぞれの雑誌が独自の存在である可能性を念頭において調査がなされていけば、黎明期の雑誌における異本のひろがりも明らかとなり、テキストの分析も深化していくはずである。

末筆となったが、御多忙中にもかかわらず、問い合わせに御回答いただいた各機関並びに貴重な資料を快く閲覧させていただいた諸機関に対し、深甚な謝意を表したい。

収録誌一覧（五十音順）

*細目を採録したものは☆を付す。

あ行

- ☆〈医院雑誌〉（東京医学校）1（明 8.11）-11（明 9.12） → 118 ~ 120 頁
- ☆〈医事雑誌〉（坪井信良）1（明 6.11）-43（明 8.12） → 49 ~ 61 頁
- ☆〈医事雑報〉（大阪府病院）1（明 9.5）-4（明 9.12） → 130 ~ 132 頁
- 〈絵新聞日本地〉（神奈垣魯文）1（明 7.6）- → 79 ~ 80 頁

か行

- ☆〈海外雑誌〉（翰林堂）1（明 6.1）-3 → 32 ~ 33 頁
- ☆〈開化之栞〉（公明社→清遵社）1（明 8.11）-9（明 9.3） → 120 ~ 121 頁
- 〈開化ノススメ〉（集成舎）1（明 9.10）-2（明 9.11） → 146 頁
- ☆〈会館記事〉（華族会館）1（明 8.3）- → 93 ~ 96 頁
- 〈会館雑誌〉（華族会館）1（明 8.10）-8（明 9.？） → 118 頁
- 〈雅俗日新録〉（可以觀）1（明 8.9）-10（明 8.？） → 117 頁
- ☆〈寄笑新聞〉（寄笑社）1（明 8.3）-11（明 8.5） → 96 ~ 97 頁
- ☆〈教院講録〉（建本堂）1（明 6.7）-34（明 9.5） → 46 ~ 48 頁
- 〈教会新聞〉（大教院→明教社）1（明 7.4.13）-147（明 8.8.5） → 75 頁
- 〈教義新聞〉（正心社）1（明 5.9）-106（明 8.4.29） → 29 頁
- ☆〈教場必携〉（轉新社）1（[明 7.5]）- → 76 ~ 77 頁
- ☆〈教導新叢書〉（聞信社）1（明 5.6）- → 27 ~ 29 頁
- ☆〈教法集説〉（三省社）1（明 9.4） → 130 頁
- ☆〈教門雑誌〉（大内青巒）1（明 8.6）-4（明 8.11） → 113 ~ 114 頁
- ☆〈教林雑誌〉（敬愛社）1（明 7.1）- → 63 ~ 65 頁
- ☆〈教林新報〉（日報社）1（明 5.10）- → 29 ~ 32 頁
- ☆〈近世医説〉（開拓使）1（明 7.5）-3（明 7.9） → 77 ~ 79 頁

- ☆〈警世新聞〉(魁春社) 1 (明 9.9) - 15 (明 9.12) → 139 ~ 143 頁
- ☆〈講筵雜誌〉(東京府下病院) 1 (明 8.9) - 2 (明 8.12) → 117 ~ 118 頁
- ☆〈講学余談〉(共和舎) 1 (明 9.2) - 2 (明 9.4) → 123 ~ 124 頁
- ☆〈湖海新報〉(參全社) 1 (明 9.3) - 15 (明 9.7) → 126 ~ 128 頁
- ☆〈五洲雜報〉(毎日新聞会社) 1 (明 7.6) - → 80 ~ 83 頁

さ行

- 〈集論新聞〉(集論社) 1 (明 9.2) - 7 (明 9.7) → 124 頁
- 〈准刻書目〉(教部省) 1 (明 6. [10]) - 4 ([明 8.2]) → 48 ~ 49 頁
- 〈准刻書目〉(文部省→内務省) 明 4 年 10 月 - 明 7 年 12 月 → 26 ~ 27 頁
- ☆〈掌珍新論〉(枕流社) 1 (明 9.10) - 2 (明 9.11) → 146 頁
- ☆〈信敬雜記〉(信敬社) 1 (明 8.11) - 9 (明 9.9) → 121 ~ 122 頁
- ☆〈真宗説教叢録〉(静霞堂) 1 (明 9.2) - ? → 124 ~ 125 頁
- ☆〈新塾月誌〉(北門社) 1 (明 2.3) - 2 (明 2.4) → 18 ~ 19 頁
- ☆〈新聞小学〉(報知社) 1 (明 8.3) - → 90 ~ 91 頁
- 〈成通新書〉(西村隼太郎) 1 (明 7.10) → 90 頁
- ☆〈西洋雜誌〉(開物社) 1 ([慶 3.10]) - 6 (明 2.10) → 14 ~ 15 頁
- ☆〈世益新聞〉(山口屋佐七) 1 (明 8.2) - 9 (明 9.4) → 91 ~ 93 頁
- ☆〈説教しるべ草〉(大野木市兵衛) 1 (明 6.12?) - → 61 ~ 63 頁
- ☆〈草莽雜誌〉(自主社) 1 (明 9.3) - 6 (明 9.7) → 128 ~ 129 頁

た行

- ☆〈対梅宇日涉〉 4 (明 3.1) - 6 (明 3.11) → 25 ~ 26 頁
- 〈筑摩県師範学校報告〉(筑摩県師範学校) 1 (明 8.6) → 114 ~ 115 頁
- ☆〈中外医事新聞〉 1 (明 8.6) - 4 (明 8.8) → 116 ~ 117 頁
- ☆〈中外評論〉(集思社) 1 (明 9.8) - 28 (明 9.10) → 132 ~ 136 頁
- ☆〈統計雜誌〉(統計寮) 1 (明 9.12) → 147 ~ 148 頁
- ☆〈東洋紀聞〉(橋爪源太郎) 1 (明 9.2) - 2 (明 9.3) → 125 ~ 126 頁

な行

- ☆〈日講記聞〉(大阪医学校) 1 (明 2) - → 20 ~ 25 頁
- 日本地 → 絵新聞日本地

は行

- ☆〈俳諧新聞誌〉 1 (明 2.夏) - 3 (明 2.冬) → 19 ~ 20 頁
- ☆〈俳家新聞〉(竜尾園活板所) 慶応 2 ? - 慶応 [4] → 12 ~ 14 頁
- ☆〈万国雑話〉(弘容館) 1 (明 9.9) - 13 (明 9.12) → 143 ~ 146 頁
- ☆〈万国叢話〉(報知社) 1 (明 8.6) - 3 → 115 ~ 116 頁

- ☆〈評論新説〉(伊勢屋安兵衛) 1 (明 7.9) - → 89 ~ 90 頁
- 〈評論新聞〉(集思堂) 1 (明 6.1) - → 33 頁
- ☆〈評論新聞〉(集思社) 1 (明 8.3) -109 (明 9.7) → 97 ~ 111 頁
- ☆〈平仮名絵入名誉新誌〉(大来社出張所) 1 ([明 9.8]) -6 (明 9.10)
- 137 ~ 138 頁
- 〈諷歌新聞〉1 (明 1.4) → 16 頁
- 〈風月社談〉(神戸新聞社) 1 (明 9.8) -3 (明 9.11) → 138 頁
- ☆〈文園雑誌〉(田代家塾) 1 (明 6.6) -5 (明 7.2) → 44 ~ 46 頁
- ☆〈報国雑誌〉(報国社) 1 (明 9.7) -4 (明 9.8) → 132 頁
- ☆〈報国新誌〉(淡山社) 1 (明 7.8) - → 83 ~ 84 頁
- ☆〈報四叢談〉(報知社) 1 (明 7.8) -21 (明 9.2) → 84 ~ 89 頁
- ☆〈法理雑誌〉(正明社) 1 ([明 7.7]) - → 83 頁

ま行

- ☆〈三田演説筆記〉(報知社) 1 (明 8.5) → 111 頁
- 〈美濃教義新聞〉(撃桃社) 1 (明治 [7.4]) - → 75 ~ 76 頁
- ☆〈民間雑誌〉(慶応義塾出版社) 1 (明 7.2) -12 (明 8.6) → 65 ~ 67 頁
- ☆〈明治月刊〉(開物新社) 1 (明 1.9) -5 (明 2.5) → 16 ~ 18 頁
- ☆〈明七雑誌〉(衆医会議所) 1 (明 9.1) -3 (明 9.3) → 123 頁
- ☆〈明六雑誌〉(明六社) 1 ([明 7.3]) -43 ([明 8.11]) → 67 ~ 75 頁
- ☆〈莽草雑誌〉(自主社) 1 (明 9.8) -5 (明 9.9) → 138 ~ 139 頁
- ☆〈目耕余録〉(吉松四郎 [ほか]) 1 (明 8.5) -9 (明 8.9) → 111 ~ 113 頁
- ☆〈文部省雑誌〉(文部省) 1 (明 6) -明治 9 年 8 (明 9.3.25) → 33 ~ 44 頁

や行

 〈郵便月報〉(駅通寮) ? → 122 ~ 123 頁

ら行

- 〈立憲記事〉(東京書林) 1 (明 8.7) -3 (明 8.12) → 117 頁
- ☆〈論衡雑誌〉(自省社) 1 (明 9.11) -5 (明 9.12) → 147 頁

※なお「年表」に見える〈西京煥文新誌〉は、新聞として扱うのが妥当と思われるので、今回の調査の対象からははずした。

凡 例

- 1 採録対象は、幕末から明治 9 年にかけて創刊され、かつ明治 9 年までに終刊したと考えられる雑誌 73 誌である (うち細目掲載は 56 誌)。

- 2 排列は創刊年月の順。はじめに五十音順の「収録誌一覧」を付す。
- 3 各項目は原則として、解題、当館及び他機関の所蔵状況、細目から成る。
- 4 雑誌名、新聞名は〈 〉で括った。
- 5 図書名は『 』で括った。
- 6 細目において、各記事の著者名は【 】で括った。[]内は、現物の内容から作成したもの、または現物以外の情報源により補った記述で、現物そのものからの転記でない部分である。なお、現物で[]が使用されているものは〔 〕を使って補記と区別した。また、現物の字体が「ㄱ」等の合字は、[コト]の様に表記した。
- 7 細目の作成にあたっては、国立国会図書館蔵書を基本とし、未所蔵分については、東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫の蔵書によって補った。この二機関以外の蔵書を典拠とさせていただいたものは、以下の通りである。

〈俳家新聞〉慶応2春 早稲田大学中央図書館

〈西洋雑誌〉4-6 東京大学史料編纂所図書室

〈俳諧新聞誌〉2 影印復刻『日本初期新聞全集』

〈対梅宇日渉〉4-6 天理大学附属天理図書館

〈准刻書目〉(文部省→内務省) 明治6年12月、明治7年1-3、5-12月 国立公文書館内閣文庫、及び影印復刻『明治前期書目集成』

〈教導新叢書〉9-10、5 附録 天理大学附属天理図書館

〈文部省雑誌〉 影印復刻『明治前期文部省刊行誌集成』(歴史文献)

〈文園雑誌〉2 山梨県立図書館(国会本欠丁部分)

〈教院講録〉(建本堂) 8、31 静岡県立中央図書館/20-30、33-34 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/16-19 金光図書館

〈准刻書目〉(教部省) 1-4 国立公文書館内閣文庫

〈説教しるべ草〉1-3 東京経済大学図書館三橋文庫/4-6 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫

〈教林雑誌〉3、5 同志社大学人文科学研究所/6 附録 個人蔵

〈教場必携〉8 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫

〈五洲雜報〉4、8 横浜開港資料館

〈報国新誌〉2 一橋大学附属図書館

〈報四叢談〉19-21 香川大学附属図書館神原文庫

〈評論新説〉3 宮城県図書館

- 〈会館記事〉1 学習院大学華族会館旧蔵和漢書/2-3、1-4 附 京都市
学附属図書館
- 〈教門雑誌〉1 龍谷大学学術情報センター大宮図書館
- 〈講筵雑誌〉1-2 静岡文化芸術大学
- 〈開化之栞〉7 一橋大学附属図書館
- 〈信敬雑記〉1 一橋大学附属図書館
- 〈明七雑誌〉2 高松市歴史資料館
- 〈湖海新報〉15 早稲田大学中央図書館（明治新聞雑誌文庫本最終丁欠
丁のため）
- 〈教法集説〉1 一橋大学附属図書館
- 〈万国雑話〉7、8、11、12 個人蔵
- 8 細目は、本文の見出しを優先して作成し、目次相当箇所のデータを使用
したものについては、★で明記した。
- 9 題目については、ヴァリアントの検出の便のため、できうる限り現物通
りの漢字形を再現するようにつとめたが、著作者については、検索の便
を優先して現行の漢字形に改めている。
- 10 末尾に著者索引（五十音順）を付した。

俳家新聞（慶応2?-慶応[4]／竜尾園活板所）

表2に刊行趣意として以下の文が掲げられている。「此書は諸俳士の新調
を集て四季に活字板に摺立三都は云に及はす遠近諸國に送り猶其土の俳士
の句をも乞て書中に載ん事を欲すされは各家の新什海内に傳播して編輯摺
物等に稗けあらん事を祈るになん諸風子必らず秘惜なく玉什を洩し玉はん
事を希ふ而已」 実見できた範囲では〔慶応3冬・慶応4春〕号のみ「孤山
人卓郎」の名が付されている。『俳文学大辞典』（角川書店、1995）は、卓
郎が企画し、その没後、同志が遺志を継いで慶応3年に刊行したとするが、
実際には「慶応二年春季」号が存在している。巻末に記された訃報を見る
と、早稲田大学中村俊定文庫蔵書では「同〔寅〕三月九日江戸長江没」と
刷られた後の余白に、「同四月十六日 卓郎没」と墨書されており、卓
郎存命中に印刷は完了していたと考えられる。また巻末には「丑年冬季ノ
内」として正誤が示されていることから、「慶応元年」の号も存在していた
可能性が高い。

当館所蔵：慶2.秋、慶3.夏・秋、〔慶3.冬-慶4.春〕（WB42-23）、慶2.冬、
慶3.春（WB42-23-2）

他機関所蔵：刊年不明 春 宮内庁/慶3.春 九州大学中央図書館/慶2.春、慶3.秋 香川大学附属図書館神原文庫/慶3. 松宇文庫/慶2.秋 神奈川県立図書館/慶2.春 早稲田大学図書館中村俊定文庫/慶3.夏・秋、〔慶3.冬-慶4.春〕 天理大学附属天理図書館綿屋文庫/慶2.夏,慶3.春・夏・秋、〔慶3.冬-慶4.春〕 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

慶応2年春季

「江戸之部」(1表-5裏)

「他國之部」(6表-15裏)

慶応2年夏

「東都之部」(1表-7裏)

「他國之部」(8表-17表)

慶応2年秋

「文音之部」(文1表-文8裏)

「東都之部」(1表-5裏)

「追加」(6表-6裏)

「夏分正誤」(6裏)

慶応2年冬

「東都之部」(1表-5裏)

「秋分正誤」(5裏)

「文音之部」(文1表-文6裏)

慶応3年春

「文音之部」(文1表-文4裏、追加5表-追加6裏、7表-11裏、1表)

「東都之部」(1表-〔7〕表)

慶応3年夏

「文音之部」(1表-12裏)

「東都之部」(12裏-16表)

「追加」(16表-18裏)

慶応3年秋之部

「文音之部」(1表-11裏)

「東都之部」(11裏-16表)

「遅来夏之部」(16表-17表)

「追加秋之部」(17表-19裏)

[慶応3年冬・慶応4年春]

- 「文音春之部」(1表-9表)
- 「東都之部」(9表-13表)
- 「文音冬之部」(13裏-21裏)
- 「遅来秋之部」(21裏-25表)
- 「追加冬之部」(25表-25裏)
- 「春之部」(25裏-30表)
- 「卯秋之部正誤」(30裏)
- 「没故」(30裏)

西洋雑誌 (1 ([慶 3.10]) - 6 (明 2.10) / 開物社)

本邦雑誌の嚆矢とされる。解説として尾佐竹猛「『西洋雑誌』 解題」(『明治文化全集 19』日本評論社、1992)、西田長寿「西洋雑誌」(『複製日本の雑誌』講談社、1982)、植田満文「柳河春三資料解説」(『柳河春三資料』湖北社、1985)がある。『明治文化全集』に1～6巻の翻刻が、『複製日本の雑誌』に1巻の複製がある。また、『柳河春三資料』は、1～6巻を尾佐竹猛の『柳河春三』と併せて影印刊行したものである。またCD-ROM『大宅壮一文庫創刊号コレクション 明治編』(紀伊国屋書店、2000)にも1巻が収録されている。

当館所蔵：1-3 (WB42-32/巻一表紙、[緒言]を欠く)、1 (WB42-32-2)

他機関所蔵：1-6 茨城大学教育図書室/横浜市中央図書館/1 関西大学図書館/1-5 京都大学文学部 日本史/1-5 香川大学附属図書館神原文庫/6 秋田県立図書館/1-3 神奈川近代文学館/1-5 早稲田大学中央図書館/1-6 筑波大学附属図書館中央図書館/1 東京経済大学図書館三橋文庫/1-6 東京大学史料編纂所図書室/1-5 東京大学総合図書館/1-2、4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-6 福井県立図書館保管松平文庫/1-5 名古屋大学附属図書館神宮皇学館文庫

巻一 (慶応3年10月序)

- 「[緒言] 西洋雑誌 慶應三年冬十月」(1表-1裏) 【柳河暎】 ※ [本文とは別の丁付] WB42-32はこの丁を欠く
- 「西洋諸國近代盛衰の大略」(1表-2裏)
- 「オロシヤ國帝の系図」(2裏-7裏)

「國を富ますにハ先づ學術を開くべきの論」(8表-10表)
「ダイヤモンドは天下第一高價の物なる話」(10表-13表)
「新銀并にアリユミニウムと名くる金属の説」(13表-15裏)
「伏啓」(附表-附裏)

卷二

「オランダ國王の世系」(1表-4裏)
「兵士食量の定則」(4裏-10表)
「化學沿革の話」(10表-13裏)【宇都宮鉞之進訳稿】
「附 新出書目」(14表-14裏)

卷三

「萬國曆元考略」(1表-11裏)
「アメリカ合衆國大統領年譜」(11裏-13裏)
「医家にて用る蟻の考」(13裏-15裏)

卷四

「各國在位帝王の名并に即位の年曆略表」(1表-2裏)
「北部同盟國プロイスを盟主とす」(2裏-4表)
「南部同盟國」(4裏-5表)
「褒功私記」(5表-14表)【神田孝平述】

卷五

「英吉利王并噠王系譜」(1表-4裏)
「糖楓の説」(5表-8表)【田中芳男訳述】
「石腦油を以て石炭に代用するの説」(8表-9裏)
「石腦油の効用并にアニリ子と名くる画料の説」(9裏-11裏)
「地中海のジブラルタルに建る哥倫波の像并に碑文の話」(11裏-13裏)
※東京大学総合図書館本は卷末に「柳河先生著述目録」(表一裏)を収める。

卷六(明治2年10月10日官許) ※卷首には「九月」とあり。

「續刻西洋雜誌小引 明治二年八月」(序表-序裏)【柳園外史】
「欧羅巴洲近代の沿革」(1表-4裏)
「本草家「リニウス」先生略傳」(4裏-6表)
「「シーボルト」氏の略傳」(6表-9表)
「伊豫白目分析鑑定の説」(9表-11裏)【宇都宮義綱述】
「西洋酒史」(11裏-13裏)【喫霞仙史訳】

諷歌新聞 (1 (明 1.4) / 大神御牧)

幕府側に同情的な落首新聞。新政府により弾圧を受け1巻のみで廃刊となった。影印が『日本初期新聞全集』にある。『幕末明治新聞全集5』(世界文庫、1961)に翻刻および宮武外骨による「『諷歌新聞』解題」がある。見出しがないため細目は作成せず。

当館所蔵：1 (WB43-98)

他機関所蔵：1 国立歴史民俗博物館奈良暦師吉川家旧蔵資料/1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1 東京都立中央図書館/1 毎日新聞社新屋文庫

明治月刊 (1 (明 1.9) - 5 (明 2.5) / 開物新社)

大阪で発行された海外知識紹介雑誌。参考文献として小野秀雄、小林馨『『明治月刊』解題』(『明治文化全集17』日本評論社、1992)、伊藤正『『明治月刊』の著者と思想』(伊藤正、1978)がある。前者に翻刻が収められている他、影印が『日本初期新聞全集』にある。田中芳男(1838-1916)の識語「緒言追加」が付された同誌が東京大学総合図書館にあり、そこに出版時の状況が記されている。以下の細目で、田中芳男の著述と明記したものはこの記録による。この資料は、文献としてあげた伊藤正の著述に翻刻があるが、一部脱落が認められるので注意されたい。また、4号掲載の「舎密学を興すの記」も田中が執筆したものであり、稿本が田中家に伝わっていることが、上田穰「大阪舎密局についての二、三の問題点」(『日本洋学史の研究IV』創元社、1977)で紹介されている。

当館所蔵：1-4 (WB42-18)、1-5 (WB42-18-2)、1 (WB42-18-3)

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 貴重資料室/1-2 一橋大学附属図書館 明治文庫/1-5 関西学院大学図書館/1-5 関西学院大学図書館社会学部/1-5 関西大学図書館/1-3 京都大学文学部 日本史/1-3 九州大学中央図書館/1-4 香川大学附属図書館神原文庫/1-2 神戸市立中央図書館/2-5 早稲田大学中央図書館/1-5 相模女子大学附属図書館/1-3 天理大学附属天理図書館/1-4 東京大学史料編纂所図書室/1-5 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/2 東京都立中央図書館特別文庫/3 内藤記念くすり博物館/2-3 福井県立図書館保管松平文庫/1-2 毎日新聞社新屋文庫/1 立教大学新座保存書庫/1-5 和歌山大学附属図書館紀州藩文庫

第1号 (明治1年9月)

「緒言 戊辰九月」(緒言表-緒言裏)

「通盟諸邦強弱一覽」(1表-13裏)

「合衆國」(1表-1裏)

「和蘭國」(1裏-3表)

「英吉利國」(3表-5表)

「魯西亞國」(5表-6表)

「佛蘭西國」(6表-7表)

「葡萄牙國」(7裏-8裏)

「孛漏生國」(8裏-9裏)

「瑞西國」(9裏-10表)

「白耳義國」(10表-10裏)

「伊太利國」(10裏-11裏)

「丁抹國」(11裏-12表)

「西班牙國」(12表-13裏)

「政体畧論」(13裏-17表)

「英政畧記」(17表-20裏)

第2号 (明治1年10月)

「條約三個國記」(1表-9裏)【[田中芳男]】

「西班牙國」(1表-3裏)

「瑞典國」(3裏-6表)

「奧地利國」(6表-9裏)

「合衆國新添の條約」(10表-11表)

「器械富國之說」(11表-13表)【[田中芳男]】

「人壽の說」(13表-14裏)

「生物の数」(14裏-15表)【[田中芳男]】

「植物の数」(15表-15裏)

「地球の太陽を周る速勢の說」(15裏-16裏)

「日月兩光の比較」(16裏)

「人運開化の高下」(16裏-19表)

「[小車]」(19表)

「小車六種」(19裏-20裏)

第3号 (明治1年11月)

「西班牙國亂の始末」(1表-5裏)

「合衆國鉄道の里数」(5裏-7裏)
「梅毒説」(7裏-12裏)
「電気魚の説」(12裏-16裏)【田中芳男】
「牛の要用なる説」(16裏-19表)【田中芳男】
「哺乳器」(19表-19裏)
「雷魚」(20表)
「雷鱒 雷鯪」(20裏)

第4号(明治1年12月)

「ガラントの勲業」(1表-7裏)
「舎密学を興すの記」(7裏-10表)
「雷の遠近を知る説」(10表-10裏) ※10丁が繰り返されている。前の10丁は「ロ十」とあり。
「ベンガル、ヤンビーの説」(10表-11表)【田中芳男】
「英國の内閣」(11裏-15裏)
「亜麻布の説」(15裏-[19]表)【田中芳男】
「金毛狗背の図」([19]裏)

第5号(明治2年5月)

「ガランド勲業二」(1表-7表)
「佛蘭西國帝紀」(7表-11表)
「國憲」(11表-15表)
「執政名録」★(15表-17裏)
「警世明言 無益の殺生を慎むべき事」(17裏-21裏)
「塩説」(21裏-22表)【田中芳男】
「製塩説」(22表-23裏)

新塾月誌(1(明2.3)-2(明2.4)/北門社)

『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に神代種亮「『新塾月誌』解題」及び翻刻が収められている。

当館所蔵：1(WB42-37)

他機関所蔵：1 神戸大学附属図書館住田文庫/1-2 東京経済大学図書館三橋文庫/1-2 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1 立教大学新座保存書庫大久保文庫

第1号(明治2年3月開板)

「新塾月誌序 明治二己巳三月」(序1表-序3表)【山東一郎撰】

「牧牛の説」(1表-11表)【小幡篤次郎訳】

「綿羊を牧するの説」(11表-19表)【小幡篤次郎訳】

第2号(明治2年4月開板)

「英國頑児院の説」(1表-3表)【安田次郎吉訳】

「糞料故亞諾の説」(3裏-6表)

「海上請合證書の譯并に緒言」(6裏-12裏)

「支那各港交易畧説」(13表-22表)

「廣東」(13表-15表)

「汕頭」(15表-15裏)

「厦門」(15裏-16表)

「福州」(16表-17表)

「寧波」(17表-17裏)

「上海」(18表-18裏)

「鎮江府」(19表-19裏)

「南京」(19裏)

「九江」(19裏-20表)

「漢江」(20表-20裏)

「登州」(20裏-21表)

「天津」(21表-21裏)

「牛莊」(21裏-22表)

俳諧新聞誌(1(明2.夏)-3(明2.冬))

〈俳家新聞〉(12~14頁)の改題後誌にあたる。投稿された作品と記事からなる。記事部分の細目については、明確な見出しがないため作成していないが、広告として作成された目録にあたれば、主要な内容は見てとれる。題簽、凡例には「再編」の、巻首には「重編」の角書がある。翌3年に〈対梅字日涉〉(25~26頁)と改題され4集が刊行され、同年11月の6集まで続いた。本誌については、影印が『日本初期新聞全集』にある。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：2 京都大学経済学部上野文庫/2 香川大学附属図書館神原文庫/1 神奈川県立図書館/1、3 天理大学附属天理図書館綿屋文庫/1、3 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1集(明治2年夏)

「俳諧新聞誌再編凡例 明治二歳次己巳夏日」(表2)【萩原乙彦】

- 「夏の部」(1表-夏9裏、10表-10裏)
「春の部」(10裏-13裏)
「[記事]」(14表-15表、附1表-附9裏)
「新聞附録龍蛇吟行」(附1表-附6裏)

第2集(明治2年秋)

- 「俳諧新聞誌再編凡例 明治二歳次己巳夏日」(表2)【萩原乙彦】
「秋の部」(1表-20裏)
「追加秋之部」(21表-22裏)
「俳諧新聞誌第二編事之部」(事1表-事13表)
「初編中正誤」(事13裏)
「本編脱稿後晩着之新声附録」(付表-付裏)
「初編目録」(表3?)

第3集(明治2年冬)

- 「俳諧新聞誌再編凡例 明治二歳次己巳夏日」(表2)【萩原乙彦】
「冬の部」(冬1表-冬20裏)
「後聞秋の部」(21表-29裏)
「俳諧新聞誌第三編事之部」(事1表-事6裏)
「晩春追加秋冬混季」(追加1表-追加3裏)
「初編目録」(1表)
「二編目録」(1裏-2表)
「正誤」(2表)
「晩春重追」(2表)

日講記聞(1(明2) - /大阪医学校)

〈日講記聞〉もしくは〈日講紀聞〉と題して分冊刊行された医学書については数が多く、また現代の目で見ると「雑誌」の範疇に入れることに疑問も残る。そのため今回、その類書総てについて調査することは断念し、参考のため宮武の年表に見える、大阪医学校一抱独英の〈日講紀聞〉のみ細目をおこした。見返しの表題に「官版」の角書がついている大坂医学校版と、角書のない医学校版の二種類が確認され、後者は後年にまとめて再刊されたものか。

当館所蔵：1-5(大坂医学校版・特37-608)1-11(医学校版・YDM59724)

他機関所蔵：1-11 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新

聞雜誌文庫/1-11 東洋文庫藤井文庫/陰具編・梅瘡編 内藤記念くすり博物館/1-4 陰具編 内藤記念くすり博物館大同薬室文庫

第1卷 (明治2年12月序)

「題言 明治己巳冬十二月」(題言表-題言裏)【緒方少博士】

「日講記聞卷之一目次」(目次表-目次裏)

「陰具編」

「泌尿器」(1表-27裏)

「腎藏内景」(1表-5裏)

「腎藏官能」(6表-12表)

「腎藏ノ病理治法」(12表-25表)

「腎藏充血病」(12表-14表)

「腎藏出血」(14表-15裏)

「〔急性〕貌麗都腎病」(15裏-17裏)

「慢性貌麗都腎病」(17裏-20裏)

「真腎焮衝」(20裏-21裏)

「脂肪腎」(21裏-22裏)

「腎癌」(22裏-23表)

「腎蟲」(23裏-24表)

「畸腎」(24表-24裏)

「副腎病」(24裏-25表)

「腎盂及輸尿管之疾病」(25表-27裏)

「水腎」(25表-25裏)

「腎盂焮衝」(25裏-26表)

「腎盂結石所謂腎疝」(26表-27表)

「腎盂、輸尿管之癌腫、結核腫」(27表-27裏)

第2卷

「日講記聞卷之二目次」(表-裏)

「陰具編」

「泌尿器」(1表-6表)

「膀胱尿道内景」(1表-5裏)

「尿之排洩機」(5裏-6表)

「男子生殖器」(6表-19表)

「辜丸内景」(6裏-9裏)

- 「睪丸衣膜ノ内景」(9裏-11裏)
- 「精系内景」(11裏)
- 「精囊、射精管内景」(12表-12裏)
- 「攝護腺、格烏布兒腺ノ内景」(12裏-14表)
- 「陰莖内景」(14表-17裏)
- 「精液」(17裏-19表)
- 「膀胱病」(19表-29裏)
 - 「膀胱加答流斯」(19表-25裏)
 - 「格魯烏布性及ヒ地弗的里性膀胱焮衝」(25裏-26裏)
 - 「膀胱結組織焮衝」(26裏-27裏)
 - 「膀胱ノ結核腫及ヒ癌腫」(27裏-29表)
 - 「膀胱出血」(29表-29裏)

第3卷

- 「日講記聞卷之三目次」(目次表)
- 「陰具編」
- 「膀胱病」(1表-24裏)
 - 「膀胱結石」(1表-15表)
 - 「膀胱過敏」(15表-16表)
 - 「膀胱癡鈍、即遺尿」(16表-18表)
 - 「膀胱瘻」(18表-20表)
 - 「膀胱麻痺」(20表-24裏)
- 「尿道病」(24裏-37表)
 - 「淋疾」(24裏-37表)

第4卷

- 「日講記聞卷之四目次」(目次表)
- 「陰具編」
- 「尿道病」(1表-33表)
 - 「尿道變窄」(1表-21裏)
 - 「尿閉」(22表-33表)

第5卷

- 「日講記聞卷之五目次」(目次表)
- 「泌尿器病」(1表-21表)
 - 「水尿崩」(1表-3裏)
 - 「糖尿崩一名蜜尿崩」(3裏-21表)

第6卷

- 「日講記聞卷之六目次」(1表-1裏)
- 「男子生殖器病」(2表-31表)
 - 「遺精附陰痿」(2表-8表)
 - 「攝護液漏」(8表-13表)
 - 「攝護腺焮衝」(13表-16表)
 - 「攝護腺肥大」(16表-22表)
 - 「副辜焮衝」(22表-24表)
 - 「辜丸焮衝」(24表-27裏)
 - 「辜丸癌」(27裏-28裏)
 - 「辜丸結節腫」(28裏-29裏)
 - 「辜丸截除法」(29裏-31表)

第7卷

- 「日講記聞卷之七目次」(表-裏)
- 「男子生殖器病」(1表-34裏)
- 「辜丸水腫」(1表-9表)
 - 「天稟辜丸水腫」(7裏-8表)
 - 「辜丸囊水腫」(8表-8裏)
 - 「小兒辜丸囊水腫」(8裏-9表)
- 「辜丸血腫」(9表-10表)
- 「陰囊病」(10表-13裏)
 - 「陰囊創傷」(10表-10裏)
 - 「陰囊焮衝」(10裏-11表)
 - 「陰囊鱗屑瘡」(11表-11裏)
 - 「陰囊肉樣腫、一名象皮腫」(11裏-13表)
 - 「陰囊靜脈腫」(13表)
 - 「陰囊癌」(13表-13裏)
- 「精系病」(14表-19裏)
 - 「精系毀傷」(14表)
 - 「精系焮衝、膿腫」(14表-14裏)
 - 「精系水腫」(14裏-16表)
 - 「精系血腫」(16表-16裏)
 - 「精系靜脈腫」(16裏-19裏)
- 「鼠蹊貌僂窟」(19裏-34裏)

「拊頓貌僂窟」(26 表-33 裏)

「陰囊貌僂窟」(33 裏-34 裏)

第 8 卷

「日講記聞卷之八目次」(表-裏)

「梅瘡編」

「總論」(1 表-4 表)

「布里麻乙列症」(4 表-33 表)

「下疳」(4 表-15 表)

「硬性下疳」(7 裏-8 表)

「軟性下疳」(8 表-10 裏)

「焮衝性下疳」(10 裏-11 表)

「壞疽性下疳」(11 表-11 裏)

「蝕削性下疳」(11 裏-12 裏)

「頑癬樣下疳」(13 表)

「地弗的里性下疳」(13 表-15 表)

「治法」(15 表-33 表)

「出血」(27 裏-28 表)

「病性勃舉」(28 表-28 裏)

「包莖腫閉」(28 裏)

「翻皮箝窄」(28 裏-29 表)

「尿道下疳」(29 表-31 裏)

「婦人下疳」(32 表-33 表)

第 9 卷

「日講記聞卷之九目次」(表-裏)

「梅毒編」

「布里麻乙列症 二」(1 表-9 表)

「鼠蹊腺腫、便毒」(1 表-9 表)

「設裙韃乙列症」(9 表-29 裏)

「總論」(9 表-13 裏)

「皮病」(14 表-21 表)

「禿髮」(21 表-22 裏)

「膿腫」(22 裏-23 表)

「頸腺焮衝」(23 表-24 表)

「粘膜症」(24 表-29 裏)

第10卷

「日講記聞卷之十目次」(表-裏)

「梅瘡編」

「的尔質遏乙列症」(1表-29表)

「總論」(1表-3裏)

「口内、咽頭、粘膜症」(4表-4裏)

「鼻症」(4裏-5裏)

「喉頭症」(5裏-7裏)

「眼症」(7裏-8裏)

「耳病」(8裏-9表)

「皮症」(9表-11裏)

「骨症」(11裏-16表)

「辜丸腫」(16表-17裏)

「昆地魯麻」(17裏-19表)

「治法」(19表-29表)

第11卷

「日講記聞卷之十一目次」(目次表)

「的尔質遏乙列各症治法」(1表-25裏)

「初生兒梅瘡」(8表-12裏)

「内外 撰方」★(13表-20表)

「梅瘡預防法」(20表-25裏)

対梅宇日涉(4(明3.1)-6(明3.11))

〈俳諧新聞誌〉(19～20頁)の改題後誌にあたる。投稿された作品と記事からなる。記事部分の細目については、明確な見出しがないため作成していない。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：4-6 天理大学附属天理図書館綿屋文庫

第4編(明治3年1月序)

「〔序〕 明治三歳次庚午春正月下旬」(口ノ1表-口ノ2裏)【萩原乙彦】

「春の部」(四ノ1表-四ノ20表)

「去冬晚来之部」(四ノ20裏-四ノ21裏)

「前編正誤」(四ノ21裏)

「対梅宇日涉即新聞誌四編事之部」(事1表-事7裏)

第5集(明治3年) ※題簽第五編

「[序] 明治三歳次庚午春正月下旬」(口ノ1表-口ノ2裏)【萩原乙彦】

「春の部」(五ノ1表-五ノ10裏)

「夏の部」(五ノ10裏-五ノ21表)

「春季重出」(五ノ21表-五ノ21裏)

「前編正誤」(五ノ21裏)

「対梅宇日涉即新聞誌五編事之部 四編二月十一日ニ終ル」(事1表-事7裏)

「重編俳諧新聞誌每編事之部目録」(尾付表)

「対梅宇日涉 [広告]」(尾付裏)

第6集(明治3年11月序) ※題簽第六編

「對梅宇日涉第六編附言 庚午霜月旬日」(六ノ附表-六ノ附裏)【萩原乙彦】

「松筠堂中なる對梅宇にあそひて…」(六ノ1表-六ノ5裏)

「夏之部」(六ノ6表-六ノ8裏)

「秋之部」(六ノ8裏-六ノ18裏)

「遅着夏之部」(六ノ18裏-六ノ19裏)

「冬之部」(六ノ19裏-六ノ25裏)

「対梅宇日涉即新聞誌六編事之部 五編五月十五日ニ終る」(六ノ1表-六ノ4裏)

「五編正誤」(六ノ4裏)

「重編俳諧新聞誌每編事之部目録」(尾付表)

「対梅宇日涉 [広告]」(尾付裏)

准刻書目(明4年10月-明7年12月/文部省)

当初、出版統制を担っていた文部省が、許可を与えた書目を公報したものの、『明治前期書目集成 第六分冊』(明治文献、1972)に影印復刻がある。現在確認できる最古の号である明治4年10月分は、〈出版書目〉の題で出ていた。本誌については、影印復刻に際して朝倉治彦氏が付した解題が詳しい。同書刊行時点で判明していたものは、明治4年10月分から明治7年11月分であった。「文部省は八年六月まで准刻事務を扱ったのであるから、七年十一月で終りとは考えられない。この書目に続く、内務省の『版權書目』は、八年十月分から起こしているのであるから、内務省の引つぎ当初

の火災による文書焼失があるとはいえ、七年十一月分で終わる筈がないであろう」と同解題にはあったが、『公文録』をみれば書目の出版は、その対象年月とは乖離しており、明治7年11月分が刊行されたのが、明治8年6月であったことが知れる。そして翌7月、明治7年12月分は内務省より進上されている（文部省所管時に印刷まで終了しており、現物の表記も文部省となっている）。以下に『公文録』での進上の日付を記す。

明治6年6月分、同7月分（明治7年2月28日）

明治6年12月分（明治7年4月17日）

明治7年1月分（明治7年5月8日）

明治7年2月分（明治7年5月12日）

明治7年5月分（明治7年7月25日）

明治7年6月分（明治7年10月4日）

明治7年7月分（明治7年11月17日）

明治7年8月分（明治7年12月24日）

明治7年9月分（明治8年4月29日）

明治7年10月分（明治8年5月19日）

明治7年11月分（明治8年6月7日）

明治7年12月分（明治8年7月20日）

当館所蔵：明7年9-11月（YDM101556）

他機関所蔵：明4年12月、明5年1-2、4-11月、明6年1-12月、明7年1-8月 宮内庁書陵部※/明6年1月-5月 香川大学附属図書館神原文庫/明6年12月、明7年1-3、5-12月 国立公文書館内閣文庫（公文録）/明4年10月、明5年1、3月 東京大学総合図書館南葵文庫※

※は『明治前期書目集成』の解題による。同解題によれば国立国会図書館に明治5年8、10月分も所蔵されていることになっているが、確認できていない。

教導新叢書（1（明5.6）-）/聞信社）

出版所の聞信社は浅草本願寺境内におかれていた。各号の表2におかれた緒言は「…教義ニ関スル百般ノ事件及ヒ風俗品行勸懲警誡ニ係ルコトヲ蒐羅シ之ヲ教導新叢書ト名ケ次第ニ刊行シテ徧ク門末ニ布キ僻地遠陬マテモ朝意ニ服従セシメ以教化ノ一助ニ備ント欲ス」と結ばれている。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-2、4-5、7、1 附録 国学院大学日本文化研究所河野省三

博士記念文庫/1-10、1-5 附録 天理大学附属天理図書館/1-10、1-5 附録 東京経済大学図書館三橋文庫/1-8、1-4 附録 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号 (明治5年6月) ※天理本表紙には「七月」とあり (版心「六月」)

「皇太偶大麻并守札之事」(1表-3表)

「宗名之事」(3表- [4] 表)

第1号附録 (明治5年7月) ※天理本は表紙、版心とも「六月」

「宗名之義ニ付東京府へ指出候哀訴状寫」(1表-3裏) ※文中に出てくるのは京都府

第2号 (明治5年7月)

「[[両本願寺盟約]]」(1表-3表) ※天理本 (-3裏)

第2号附録 (明治5年7月)

「明治五年壬申三月於大藏省戸籍寮曹洞宗兩本寺へ御演達有之候要領」(1表-3表)

第3号 (明治5年7月)

「御布告御達書等寫」(1表-6裏)

第3号附録 (明治5年7月)

「諸宗諸派本山并末寺員數概表」(1表-10裏)

第4号 (明治5年8月)

「[[教部省・太政官布告]]」(1表-8裏)

第4号附録 (明治5年11月)

「諸宗管長ヨリ説教ノ義ニ付教部省へ差出候伺書」(1表-2裏)

「諸宗開闢年表」(2裏-3裏)

「真宗開祖親鸞聖人履歴」(3裏-4表)

第5号 (明治5年10月)

「[[太政官・教部省御達]]」(1表-7裏)

第5号附録 (明治6年2月)

「[[府県布達]]」(1表-5表)

第6号 (明治6年1月)

「[[太政官・教部省御達]]」(1表-8表)

第7号 (明治6年1月)

「教導職管事々務章程」(1表-2表)

「[[太政官・教部省御達]]」(2表-7裏)

第8号 (明治6年2月)

「[[太政官・教部省御達]]」(1表-7裏)

第9号 (明治6年3月)

「[[教部省・太政官御達]]」(1表-6裏)

第10号 (明治6年4月)

「[[太政官・教部省御達]]」(1表-9裏)

教義新聞 (1 (明5.9) -106 (明8.4.29) /正心社)

宗教雑誌の嚆矢といわれる。1～40号および36号附録の影印が『日本初期新聞全集』にあり、1～106号(附録15点を含む、欠号：94、95、100)の翻刻が『明治仏教思想資料集成別巻』(同朋舎、1982)にある。見出しのない記事が多いため。今回改めて細目を作成することは行っていないが、後者の二葉憲香、福嶋寛隆による解題では細目が作成されているので、そちらを利用されたい。「年表」では確言されていなかったが、同解題は106号で廃刊としている。

当館所蔵：8 (WB43-159-2)、22 (WB43-159)

他機関所蔵：1、5、7-9、11、12、14-33、37-48 刈谷市立中央図書館村上文庫/6-10 京都大学附属図書館谷村文庫/1-8 香川大学附属図書館神原文庫/1-10 高知市立自由民権記念館/2-5、14、18、19、25、101 附国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/1 神戸大学附属図書館住田文庫 /1-93、96-99、101-106 成田山仏教図書館/[24] 附録 静岡県立中央図書館/11-20、31-50、61-80 大谷大学図書館/1-17、19-28 東京女子大学図書館/1-106 (欠あり) 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/11-40 同志社大学文学部文学研究科社会学科研究室/1-2、4、8-10、15-16、19、37-38、43 毎日新聞社新屋文庫/1-4、29、65 附、105 附 明治仏教史編纂所/70-72 立教大学池袋本館/1-10 立教大学新座保存書庫海老澤文庫/1-59、62-80 龍谷大学学術情報センター大宮図書館

教林新報 (1 (明5.10) -/日報社)

影印が『日本初期新聞全集』にある。各号の表2に「教林新報緒言」が記されている。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：3、4、6-8 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文

庫/1-8 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫
/1-7 同志社大学人文科学研究所/1-3 日本大学総合学術情報センター/1
-6、8 毎日新聞社新屋文庫

第1号（明治5年10月）

「皇太神宮大麻頒布之儀ニ付窺」（1表-2表）
「〔川本清一事件〕」（2表-3表）
「〔度会県事比羅神社の説教〕」（3表-3裏）
「童蒙理言」（3裏-5裏）
「横濱刊行シヤパンヘラルト新聞抄譯」（5裏-8裏）

第2号（明治5年10月）

「足羽縣管下越前國丹生郡和田村仰明寺住職蓑輪對岳ヨリ管長江差出候書
面ノ畧」（1表-2裏）
「吉備曲奏樂之義ニ付岡山縣ヨリ伺ノ畧」（2裏-3裏）
「〔片桐省助〕」（3裏-5裏）
「清國同治十一年九月十八日耶蘇降世千八百七十二年十月十九日記號教會
新報抄訳」（5裏-6裏）
「〔建言〕」（6裏-8裏）
「童蒙理言」（8裏-9裏）

第3号（明治5年11月）※発行月は表紙による、巻首10月

「〔群馬県よりのお札発行伺への指令〕」（1表）
「〔石川県より廃寺についての指令〕」（1表-1裏）
「〔諸宗管長御届〕」（1裏-2表）
「〔岐阜県下濃州大野郡石徹白村〕」（2表-2裏）
「〔山形県管下左沢御免町医師塚本信齋〕」（3表-3裏）
「支那刊行教會新報鈔訳」（3裏）
「測勢上篇」（3裏-5裏）【青霞子】
「〔アイルランドにおけるプロテスタントとカトリックの衝突〕」（5裏-6
表）
「〔入間県下柳下元良、秋場太玄兄弟への褒賜の伺い〕」（6表）
「童蒙理言」（6裏-7裏）

第4号（明治5年11月）

「〔新田社新造の伺〕」（1表-3裏）
「〔愛知県より教部省への伺〕」（3裏-4表）

- 「[伯靈第九月九日土曜日の大騒動]」(4 裏)
- 「香港刊行中外新聞二千二百八十六号の抄訳」(4 裏-6 表)
- 「[勢州向河崎町商高橋権栄門]」(6 裏)
- 「[修験宗之者帰籍ノ儀建言への教部省回答]」(6 裏-7 裏)

第5号 (明治5年11月)

- 「佐渡國説教發行ニ付西部教導職へ御届ノ寫」(1 表)
- 「新治縣説教ノ儀ニ付西部管長へ御届ノ寫」(1 裏)
- 「測勢下篇」(1 裏-4 表)
- 「英國新聞抄譯」(4 表-7 表)
- 「童蒙理言」(7 表-8 表)
- 「[新聞縦覧所]」(8 表-8 裏)

第6号 (明治6年1月) ※発行月は表紙による、巻首「明治五壬申年」

- 「[京都府より教導職管事の義御届]」(1 表-1 裏)
- 「香港刊行中外新聞抄譯」(1 裏-2 裏)
- 「電信報抄譯」(2 裏-3 表)
- 「教部省より官幣社大少宮司へ御布達の写」(3 表-4 表)
- 「深川榎本氏の別荘に於て神官僧侶集會の事」(4 表-5 表)
- 「童蒙理言」(5 表-6 表)
- 「加藤九郎教部省へ建白ノ写」(6 表-7 裏)
- 「[世話掛籤引きの噂について]」(7 裏)

第7号 (明治6年2月) ※発行月は表紙による、巻首「明治六年一月」

- 「除一害説」(1 表-3 裏)
- 「[料理について]」(3 裏-5 裏)
- 「[勢州山田町寺院教会の景況]」(5 裏-6 表)
- 「[浜松県下花屋惣作の宿]」(6 表-6 裏)
- 「北京ガゼット新聞ノ抄譯」(6 裏-7 裏)
- 「童蒙理言」(7 裏-8 裏)

第8号 (明治6年2月)

- 「[久松勝慈より邸内大明神を参詣させることについて伺]」(1 表)
- 「[豊岡県より妙見社処置の伺]」(1 表-1 裏)
- 「[大教院への献金]」(1 裏-2 表)
- 「[尾州知多郡乙川村竹内喜兵衛妻への褒賞]」(2 表-2 裏)
- 「新治縣下鹿野郡磯濱村戸長坂場熊太郎同商渡邊精作両名ノ願書ニ云」(2 裏-3 裏)

- 「[開化丸 効驗書]」(3裏-5表)
「童蒙理言」(5裏-6表)
「[福岡県における学資献金]」(6表-7裏)

海外雑誌 (1 (明 6.1) - 3/翰林堂)

初集の序文によれば、〈西洋雑誌〉を継ぐ出版物として構想されている。
〈准刻書目〉明治6年1月には「海外諸國當時ノ形勢」という梗概が見える。
12冊の刊行が予定されていたようである。

当館所蔵：1-3 (WB42-34)

他機関所蔵：1、3 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

初集巻1 (明治6年2月序)

「海外雑誌初集序 癸酉二月三日」(序1表-序2表) 【源仲甫彝】

源仲甫彝 = 石川寧静

- 「卷一之目録」(序2裏)
「各國帝王畧傳」(1表-7裏)
「各國軍艦ノ多寡」(8表-12表)
「米國黒白人口ノ事」(12裏-14裏)
「佛國新政法畧」(14裏-17裏)
「諸國鑛道ノ長延」(17裏-19表)
「諸國傳信線ノ長延」(19表-20裏)
「白耳義國鑛道ノ事」(20裏-22表)

初集巻2

- 「海外雑誌初集巻之二目録」(目録表-目録裏)
「米佛大統領畧傳」(1表-3裏)
「欧羅巴諸國幅員ノ順序」(3裏-7表)
「欧羅巴諸國民口ノ順序」(7表-10裏)
「佛國徴兵ノ法」(10裏-16表)
「李佛戦争前後佛國陸軍ノ隊数」(16表-17表)
「佛國陸軍兵隊ノ現数」(17表-19表)
「北獨乙帝國ノ軍制」(19表-21表)
「北獨乙帝國陸軍ノ兵員」(21表-24表)
「石川氏蔵板目録」(24裏)

初集巻3

「海外雜誌初集卷之三目錄」(目録表-目録裏)

「北獨乙同盟二十二ヶ國王公」(1表-5裏)

「白露國誌畧」(6表-8裏)

「孛漏生國軍制」(8裏-16表)

「英國海軍費用」(16表-18裏)

「魯國幅員民口ノ事」(18裏-21表)

「海外諸國民口ノ比例」(21表-23表)

評論新聞(1(明6.1)-/集思堂)

「年表」によれば1月創刊、評論雑誌の祖とされている。〈准刻書目〉明治6年1月には「出板 本城規矩造 何事ニヨラス善惡是非ノ世評ヲ記載シ或ハ毀譽ヲ誤レハ其人ノ辨解又ハ忠告ヲ得テ其趣ヲ記載スル書ナリ」とあり、〈東京日日新聞〉明治6年5月18日には「東京日々新聞ハ江湖上の事實を早く衆人に報ずる処にして世に益あるや大ひなり爰に我社の新聞ハ方今の事情を評論する処にして其可否得失を明にする亦世に裨益なしとせず故に事情を日報する新聞に就て其事の可否を論ずる者を全國中に廣告す冀くハ四方の君子其論説の是非を叩論し又新説の投書を賜へ是表題に適當する処にして亦社中の本懐[なり]」という広告が見える。『日本初期新聞全集』所載の解題は、明治8年創刊の同題の新聞とは関係がないとする。見出しがないため細目は作成せず。2号の影印が『日本初期新聞全集』にある。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：2 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

文部省雑誌([1](明6)-明治9年8(明9.3.25)/文部省)

明治9年以降も〈教育雑誌〉と改題されて刊行されているが、改題に際し号数が改められていることと、本稿が収録対象外とした日誌系統の逐次刊行物の様相を初期の本誌が伝えていることから、参考のために細目を採録した。本誌掲載の主要記事を集めたものが、同題で明治9年12月に刊行されている。『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に海後宗臣「『文部省雑誌』解題」及び、明治6年[2]-[3]号、明治7年1-3号の翻刻が収められている。また、マイクロフィルム『明治前期教育史料集成』(雄松堂書

店、1965)に内閣文庫の所蔵本が収録されている。ただしマイクロ版には欠号、欠頁があり、その後の調査を踏まえた影印復刻が『明治前期文部省刊行誌集成』(歴史文献、1981)として刊行されている。〈文部省雑誌〉の刊行状況、内容等については、同書所載の佐藤秀夫による解題が詳しく、目次、索引も整備されている。

当館所蔵：明治8年1-3、12、18 (YDM50829)

他機関所蔵：9 (5-8) 一橋大学附属図書館 明治文庫/7 (1-3、5-12、14-27) 岐阜県立図書館/6 (6-9)、7 (1-27)、8 (1-20) 京都大学人間・環境学研究所・総合人間学部図書館/6 (1-9)、7 (1-27)、8 (1-20)、9 (1-8) 京都大学附属図書館/7-9 弘前大学附属図書館/8 (1-20) 国立教育政策研究所 教育図書館/6 (1-9)、7 (1-27)、8 (1-20) 国立公文書館内閣文庫/6 (1、3-9)、7 (1-27)、8 (1-15、17-20) 国立公文書館内閣文庫(公文録)/6 (1-5、7-9)、7 (1-27)、8 (1-20)、9 (1-8) 滋賀県庁/8 (14、16-18)、9 (5、6) 首都大学東京 人文：教育学専攻/9 (5-7) 昭和女子大学図書館近代文庫/6-9 西南学院大学図書館/6 (1、2、4、6、7)、7 (1-7、10-18、20-22、24-27) 大分県立図書館/7-9 東京大学史料編纂所図書室/7 (1-3、5-19、21、23-27)、8 (1-14、16) 東京大学総合図書館/7 (20-21、23-24、26-27)、8 (5、9-17)、9 (5-8) 東京大学大学院教育学研究所・教育学部図書室/6 (2-3)、7 (24-25)、8 (1-3、5-11、13、18)、9 (1-5、7) 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/7 (27)、8 (1、3) 奈良女子大学附属図書館/7 (7-27)、8 (1-8、10-20) 日本大学文理学部図書館/7 (27)、8 (1、3、4、6-9) 立教大学新座保存書庫大久保文庫

第 [1] 号 (明治6年)

「明治六年二月獻金納物ノ部」(1-30)

「四月二日敦賀縣雇入外國教師「ワイコーフ」獻金願」(30-32)

第 [2] 号 (明治6年3月)

「生徒養生ノ法」(1-7)

「[明治六年三月 第一学区東京開成学校英仏上下等中学及独逸下等中学生徒の試験結果による等級]」(7-24)

「四月九日岐阜縣貫屬土族千村五郎米國留學中病氣ニ付歸朝届書畧」(24)

「[十七日 東京府貫屬華族東久世通暉歸朝届書畧]」(24-25)

第 [3] 号 (明治 6 年 7 月 24 日)

「理學校教則」(1-8)

「法學校教則」(9-16)

第 [4] 号 (明治 6 年 9 月 10 日)

「改正専門鑛山學生徒等級并日課表」(1-14)

「今般獨下等并豫科生徒ヲ語學教則ニ移ス」(15-16)

第 [5] 号 (明治 6 年 10 月 27 日)

「[[第五大学区长崎広運学校退学生三名ノ再入学許可]]」(1)

第 6 号 (明治 6 年 11 月 18 日)

「第一大學區東京師範學校附屬小學ニ於テ下等小學第七級及ヒ第八級卒業証書ヲ與ヘシ人員」(1-6)

第 7 号 (明治 6 年 11 月 27 日)

「文部少丞西潟訥第六第七大學區巡視功程開申」(1-20)

第 7 号 (明治 6 年 12 月 17 日)

「東京開成學校諸藝學生徒人員及ヒ教師授業分課」(1-7)

第 8 号 (明治 6 年 12 月 23 日)

「[[東京開成学校放校生徒一名ノ再従学許可]]」

第 9 号 (明治 6 年 12 月 24 日)

「今般第三大學區大坂師範學校ニ於テ學業ヲ試験シ入校ヲ許ス生徒」(1-3)

第 1 号 (明治 7 年 1 月 10 日)

「文部少丞西潟訥第六第七大學區巡視功程開申」(1-20)

第 2 号 (明治 7 年 1 月 17 日)

「第一大學區東京開成學校御雇教師ジー。エフ。ウエルベツキ明治六年十二月滿期雇止ノ節贈賜」(1-2)

「明治六年十二月廿三日第三大學區大坂師範學校ニ於テヲ試験ノ上入校ヲ許ス生徒」(2-3)

「[[第一大学区東京医学校本科生富永恒放校]]」(3-4)

第 3 号 (明治 7 年 1 月 25 日)

「去明治六年十一月第七大學區宮城師範學校ニ於テ學業ヲ試験シ入校ヲ許ス生徒」(1-5)

第 4 号 (明治 7 年 2 月 17 日)

「[[明治六年六月以降開板許可ノ新聞誌目録]]」(1-2)

「第五大學區長崎醫學校ニ於テ昨明治六年十月ヨリ十二月マテ内外患者ノ員數」(2-10)

「第一大學區東京醫學校ニ於テ客歲六年一月ヨリ十二月マテ解剖セル死體及ヒ内外患者ノ總員」(10-11)

第5号(明治7年2月27日)

「[明治六年九月以來病院建設寄附者人名申報]」(1-21)

第6号(明治7年3月5日)

「[第五大學區長崎廣運學校退學生徒ノ官公私立學校再入学許可]」(1)

「[二月十四日 第七大學區宮城師範學校進級生徒氏名]」(1-2)

「[二月十七日 第七大學區宮城師範學校入校許可生徒氏名]」(2-5)

第7号(明治7年4月30日)

「官學生徒罰則」(1-6)

「第一大學區東京醫學校ニ於テ明治六年冬半期學科大試問ノ際應答拔群ニ付目錄通褒賞ヲ與フル生徒」(7-8)

第8号(明治7年5月22日)

「第一大學區東京外國語學校ニ於テ本年二月定期試業ニ依テ生徒等級ヲ定ル」(1-24)

「明治七年三月第一大學區東京師範學校附屬小學生徒試験之上卒業ノ證書ヲ與フル者」(24-31)

「第一大學區足柄縣管下小學教員及ヒ生徒ノ件同縣申報ノ趣ヲ以テ督學局ヨリ開進」(31-34)

「[第一大學區東京開成學校ヲ事故有テ退校シタル生徒氏名]」(34-38)

「[第七大學區宮城師範學校追加入校許可生徒氏名]」(39)

「[正訂 第六号雜誌中ノ人名]」(39)

第9号(明治7年5月24日)

「學校督務米人ダウ井ツド、モルレー學事ノ概畧ヲ開申」(1-23)【ダウ井ツド、モルレー】

第10号(明治7年6月15日)

「明治七年五月十八日東京師範學校へ臨幸」

「文部省長官奏詞」(1)

「學校督務モルレー奏詞」(2-3)

「教師スコット奏詞」(3-4)

「優等生徒へ賞賜」(4-8)

第 11 号 (明治 7 年 6 月 23 日)

「本年二月第一大學區東京開成學校ニ於テ定期試験ニ因テ生徒等級ヲ定ムル」(1-9)

「[東京開成学校公選生徒級長]」(10-11)

「今般第七大學區宮城師範學校附屬小學開業ニ因テ入學ヲ許ス生徒」(11-15)

「[足柄県庁ヨリノ賞金]」(15-17)

「[筑摩県管下ニテ洋算習字用石盤煉造法ノ發明]」(17-18)

「第一大學區東京開成學校生徒各般ノ事故有テ退學スル者四名」(18-19)

第 12 号 (明治 7 年 7 月 15 日)

「[第一大学区東京医学校冬半期試験結果開申]」(1-12)

「第四大學區廣島師範學校ニ於テ試験ノ上入學ヲ許ス生徒」(12-19)

「[第一大学区東京師範学校退学生徒]」(19-20)

「[第一大学区東京医学校退学生徒]」(20-21)

「[第一大学区東京医学校冬半期学課大試問優秀生徒へ褒賞]」(21-22)

「本月一日第七大學區宮城師範學ニ於テ學業ヲ試験シ上等生ニ昇等セシムルモノ」(22-23)

「[第一大学区東京外国語学校降等及ビ退学生徒]」(23-24)

「今般第三大學區大坂師範學校學ニ於テ學力試験ノ上入學ヲ許ス生徒」(25-26)

第 13 号 (明治 7 年 7 月 18 日)

「[種痘]」(1-7)

第 14 号 (明治 7 年 8 月 4 日)

「[第二大学区筑摩県伊那諏訪二郡学校資本特別献金人名]」(1-6)

「[第一大学区東京開成学校退学生徒官公私立学校へ再入学許可]」(6)

「[第五大学区三瀨県小川亀二郎自宅提供への褒賞]」(6-7)

「本年六月第一大學區東京師範學校ニ於テ小學師範學科卒業證書ヲ與フル者」(7-9)

「本年七月第七大學區宮城師範學校ニ於テ小學師範學科卒業證書ヲ與フル者」(9-10)

「同月同校ニ於テ学力ヲ試験シ入學ヲ許ス生徒」(10-11)

「本年七月第六大學區新潟師範學校ニ於テ学力ヲ試験シ入學ヲ許ス生徒」(12-14)

「[第三大学区大坂師範学校退学生徒]」(14)

第 15 号 (明治 7 年 8 月 28 日)

「本年七月第一大學區東京開成學校ニ於テ夏期學業試験ニヨリ生徒ノ等級ヲ定ムル」(1-16)

「本年七月第二大學區愛知師範學校ニ於テ学力ヲ試験シ入學ヲ許ス生徒」(16-23)

「本年七月第六大學區新潟師範學校ニ於テ学力試験ノ上入學ヲ許ス生徒」(23-24)

第 16 号 (明治 7 年 9 月 7 日)

「[生衛ノ法ヲ改メ医学ヲ進ムル建言]」(1-20) 【ジエーシモンズ】

第 17 号 (明治 7 年 10 月 3 日)

「丹氏鑛泉畧説」(1-10) 【石井信義訳】

第 18 号 (明治 7 年 10 月 5 日)

「第一大学区東京開成学校教授グリフィス満期雇止ニ付讃辞ト賞与」(1-2)

「[[第一大学区東京女学校教師グリフィス婦満期雇止ニ付讃辞ト賞与]]」(2-3)

「[[第一大学区東京師範学校教頭スコット満期雇止ニ付讃辞ト賞与]]」(3-5)

「[[第一大学区東京開成学校御雇佛人マイヨ病死ニ付追賛]]」(5-6)

「[[第一大学区東京医学校御雇字人ミユルラル、ホフマン満期雇止ニ付讃辞ト賞与]]」(6-8)

第 19 号 (明治 7 年 10 月 20 日)

「各國學校統計畧表」(1-21)

第 20 号 (明治 7 年 11 月 7 日)

「ジエー・バルドウキン氏學校管理説 學校規則」(1-14) ※米国教育日誌ヨリ抄訳ス

「英國小學校建築規則」(14-28)

第 21 号 (明治 7 年 11 月 9 日)

「[[熱海鑛泉定性定量表]]」(1-2) 【マルチン】

「[[熱海鑛泉功能書]]」(2-6) 【ホフマン】

「學校責罰論」(6-14) 【ジエー、バルドウキン撰】 ※米国教育日誌ヨリ抄訳ス

第 22 号 (明治 7 年 11 月 9 日)

「明治五年新刻書籍納本之數」(1-4)

「明治六年新刻書籍納本之數」(4-7)

「文部省蔵版書籍府縣翻刻之數」(8-20)

「明治四年各地輸入書籍表」(21)

「明治五年各地輸入書籍表」(21-22)

第23号(明治7年12月3日)

「明治七年十二月九日 金星實測ノ説」(1-6)【ダビッド、モルレー】

第24号(明治7年12月7日)

「先般我文部長官ト佛國文部教部兼雅藝卿等ト文學ノ通接ヲ成サンガ為メ往復セル顛末」(1-6)

「米國教育日誌抄譯 學校建築及ヒ教員ノ事」(6-11)

「静岡縣石盤發明ノ届」(11-12)

「アメリカン・エデュケーショナル・モンスリー・ガゼット抄譯 魯國教化ノ進歩」(12-20)

第25号(明治7年12月17日)

「[本年六月上旬宮城県管内痢病流行についての県庁開申]」(1-7)

「東京醫學校ニ於テ取調タル醫案」(7-13)

「アメリカンジヨウナルヲフエデュケーション抄譯 牢獄會議」(13-18)

第26号(明治7年12月22日)

「[明治六年中各大学区府県管下人民学資納付ノ総計表申報略記]」(1-40)

第27号(明治7年12月28日)

「米國教育寮年報書抄譯 幼穉園ノ説」(1-36)【イリザベスピーポーボデー女】

第1号(明治8年1月28日)

「昨明治七年十二月第七大學區宮城師範學校ニ於テ卒業生徒ノ学力ヲ試験シ證書ヲ與フル者」(1-3)

「米國教育新聞抄譯 學校管理 教場指令法」(3-12)【ジェー・バルドゥウ井ン撰】

「正誤 [明治七年第二十七号幼稚園ノ説の脱字]」(13)

第2号(明治8年1月29日)

「勸種痘説」(1-10)【石井信義撰】

第3号(明治8年2月14日)

「獨乙教育論摘譯 愛國心ノ教育」(1-6)

「同教育書摘譯 幼穉園 兒童看護舎 幼穉學舎 改良舎 右四舎ノ畧記」(6-12)

「正誤 [明治七年文部省雑誌第二十六号大坂府学資献納寄付人員中ノ脱字]」(12)

第4号(明治8年3月8日)

「獨乙教育論摘譯 學校論」(1-38)

第5号(明治8年3月10日)

「明治七年文部省第二十七號報告ヲ以テ廣布セル理事功程四五二冊 佛國ノ部 刻成セリ」(1)

「獨乙教育新聞抄譯 獨乙小學校教授ノ景況及論說」(1-9)

「督學局申報 明治八年一月四日」(9-16)【野村素介】

「獨乙教育新聞抄譯 獨乙中學校教授方法ノ弊害ヲ論ス」(16-21)【フラン、グルーベル撰】

第6号(明治8年3月14日)

「獨乙教育論摘譯 姦詐ヲ戒メテ正直ヲ教フル事」(1-5)

「米國教育事務局年報摘譯 國民犯罪ノ多寡ハ人智ノ開否ニ關涉シ其品行ノ正邪ト風俗ノ良慝トハ則教育ノ及不及ニ由ルナリ」(5-12)

「獨乙教育論摘譯」(13-18)

「聾啞說」(13-15)

「聾啞院」(15-16)

「聾啞教授ノ方法」(16-18)

第7号(明治8年3月29日)

「本年一月ヨリ六月迄半年分小學扶助委托金ヲ府縣ニ配付スル其數」(1-8)

「米國教育新聞抄譯 學校事務局ニ於テ婦人ヲ舉用スル [コト] ヲ論ス」(8-11)

「獨乙教育論摘譯 盲院」(11-14)

「米國教育新聞抄譯 教授ノ成功ヲ論ス」(14-19)【ジエー、エー、クーブル撰】

第8号(明治8年4月19日)

「米國教育新聞抄譯 活教授論」(1-5)

「獨乙教育新聞摘譯 教員ノ集會ハ教育ヲ廣布スルニ於テ緊要ナリトスルヲ論ス」(5-9)

「露西亜國アリキセイアリキサンドロウイチ親王ヨリ同國書籍百十九冊ヲ寄贈セラル」(9)

「明治七年中各地人民ヨリ病院へ寄付セル金額」(10)

「獨乙「ドクトルリーケ」教育論摘譯 希臘ノ碩儒「プラトオ」及「アリ

ストテルス」教育原因論」(11-17)

第9号(明治8年5月9日)

「米國紐育改良院規則」(1-5)

「獨乙教育論摘譯 教育歴史中記載スル所ノ羅馬教育ノ景況」(6-12)

「米國普通教育論抄譯 兒童就學セサル可カラサルノ論」(13-30)

第10号(明治8年6月4日)

「獨乙教育論摘譯 癡狂院ノ記」(1-3)

「獨乙醫事雜記抄譯」(4-7)

「人民死生ノ概算」(4-5)

「醫士ノ數」(6-7)

「米國教育寮報告書抄譯」

「コン子クチカット州強促就學法」(7-11)

「[ニューハヴン] 府不就學ノ景況」(11)

「兒童ヲシテ無學ナラシムルコト」(11-13)

「不就學ハ學校建築ノ制宜シカラサルニ由ル」(13-14)

「[インヂアナ] 強促就學法説」(14-15)

「教育ノ強促ハ罪惡ヲ平治スルノ論」(15-17)

「[メーン] 強促就學法」(17-19)

「[マサチュセツト] 州強促就學」(19-21)

「[ミシガン] 州強促就學法」(21)

「[附表] 明治七年全國醫事ノ大畧」

第11号(明治8年6月14日)

「獨乙教育論抄 數學ノ教方」(1-5)

「獨乙教育新聞抄譯」(5-15)

「一千八百七十三年九月二十八日ヨリ三十日ニ至リ獨乙諸藝學校教員

「ゲラ」地名ニ於テ初回ノ集會ニ決議セル條件」(5-10)

「一千八百七十四年十月一日ヨリ三日ニ至リ「ブロンサワイヒ」地名ニ於テ第二回集會決議ノ條件」(10-15)

「米國教育新聞抄譯「ミッソリー」州出板 學制及學監等ヲ論ス」(15-28)

第12号(明治8年7月8日)

「明治七年文部省雜誌第七號中ニ掲ケルトコロノ官學生徒罰則ハ這回廢止ニナリタリ」(1)

「獨乙教育書摘譯 小學校新築ノ論」(1-4)

「英國教育新聞抄譯 大學校及學位稱號」(4-21)

第13号(明治8年7月19日)

「[学校教員人事]」(1-8)

「英國教育月誌抄譯 教育學原理」(8-17)

「改補 [文部省雜誌第十号明治七年全国医事表中訂正]」(17-18)

第14号(明治8年8月8日)

「合衆國教育理論官版」(1-23)【小林儀秀訳】

「今般海外へ差遣セシ貸費留學生徒人名」(23-26)

第15号(明治8年8月31日)

「獨逸教育新聞 中學校學制改正會議ノ議案 一千八百七十五年第一月」
(1-8)【オスキンドルフ/近藤鎮三訳】

「獨逸棄兒院論」(8-13)【近藤鎮三訳】

「獨逸教育新報 學制改正論」(13-18)【近藤鎮三訳】

「米國教育雜誌學校管理法 郡學監」(18-32)【ジェー、バルドウ井ン/大塚綏次郎訳】

「正誤 [第十四号海外貸費留學生徒肩書]」(32)

第16号(明治8年9月14日)

「[学校教員人事]」(1-5)

「米國ボストン教育新聞紙抄 身體教育」(5-12)【小林儀秀訳】

「英國教育新聞抄 大學校及學位稱號 第十二號ノ續」(12-31)【小林儀秀訳】

第17号(明治8年10月5日)

「米國教育新誌抄 國家主トシテ幼童ヲ教ヘサルヘカラサル [コト] ヲ論ス」(1-13)【デキストル、エ、ホーキンス/高良二訳】

「米國新英蘭教育雜誌抄 ヴェルモント大學校長バックハム氏兒童ヲ教育スルニ於テニ親ト教師ト協力セサル可ラサルヲ論ス」(13-20)【大塚綏次郎訳】

「獨逸教育論抄 平民學校ハ何人ニ屬スルヤ」(20-25)【近藤鎮三訳】

第18号(明治8年11月9日)

「獨逸教育論抄 教授ノ方法」(1-8)【近藤鎮三訳】

「米國教育月報抄 兒童ノ寂寥ヲ覺エテ驚怖スルノ弊害ヲ論ス」(8-12)
【小林儀秀訳】

「獨逸教育論抄 薄命兒ハ當ニ政府ニ於テ之ヲ教育スヘキヲ論ス」(12-20)
【近藤鎮三訳】

第19号 (明治8年12月12日)

「獨逸教育月報抄 教則論」(1-5)【近藤鎮三訳】

「[学校教員人事]」(6-10)

「獨逸教育論抄 十八號ノ續キ」(11-18)【近藤鎮三訳】

「米國教育新聞抄 千八百七十五年七月一日華盛頓府教育局ニ於テ識ス
百年博覽會ニ表見スヘキ學事」(18-27)【ジョン・イートン／高良二
訳】

第20号 (明治8年12月27日)

「米國教育月報抄 師範講習所」(1-14)【小林儀秀訳】

「米國教育月誌抄 婦人ノ為シ得ヘキ事業」(14-16)【高良二訳】

「米國教育月誌抄 幼女ハ充全ニ教育スヘキヲ論ス」(17-22)【高良二訳】

第1号 (明治9年2月2日)

「教育」(1-5) [在米國紐育府富田副領事月報の該學事ノ景況]

「獨逸教育論抄 明治八年第十九號ノ續キ 薄命兒ノ教育」(5-14)【近
藤鎮三訳】

「英國教育月誌抄 讀書習字ノ虚價ヲ論ス」(14-40)【博士ハヂソン演
述／高良二訳】

第2号 (明治9年2月3日)

「英國教育新聞抄譯 技藝教育法」(1-33)【大塚綏次郎訳】

第3号 (明治9年2月12日)

「獨逸教育論抄 第一号ノ續キ 薄命兒教育ノ論」(1-8)【近藤鎮三訳】

「留學生監督雜報 第一號 地理學教方ノ[コト]」(9-11) [目賀田種太
郎申報より]

「明治八年十一月廿九日東京女子師範學校開業ノ手續」(12-25)

「[教員人事]」(25-30)

第4号 (明治9年2月22日)

「獨逸教育論抄第三号ノ續キ 薄命兒ノ教育」(1-5)【近藤鎮三訳】

「マンスフ井ルド氏米國教育論抄」(5-24)【四屋純三郎訳】

「在米國紐育府富田副領事月報第二 教育」(24-31)

第5号 (明治9年3月5日)

「督學局具申 明治九年一月四日」(1-3)【野村素介】

「米國教育局刊行日本教育篇抄 日本東京在留英國公使館書記ウハトソン
氏ヨリ現今日本ノ教育上ニ於ケル報告」(3-8)【高良二訳】

「獨乙教育論抄 小兒教育ノ本意第一」(8-14)【近藤鎮三訳】

「米國新英蘭教育雜誌抄 罪人ノ出處ハ何處ニアル哉」(14-20)【大塚綏次郎訳】

「獨乙カール、ボック氏養生書抄 養生法」(21-28)【村岡範為馳訳】

第6号(明治9年3月10日)

「獨乙教育論抄 小兒教育ノ本意第五號ノ續キ」(1-8)【近藤鎮三訳】

「英國教育雜誌抄 教員養成ノ缺ク可カラサル論」(8-21)【高木怡莊訳】

「英國教育雜誌抄 バルナルド氏米國教育雜誌ヲ論ス」(21-27)【高木怡莊訳】

「文部省報告課編纂書籍取扱心得」(27-29)

第7号(明治9年3月20日)

「マンسف井ルド氏米國教育論抄 教師ノ學識ヲ論ス」(1-13)【四屋純三郎訳】

「獨乙博士ピルツ氏教育書抄 母心」(14-22)【村岡範為馳訳】

「獨乙教育書抄 郷兵ハ教育ヲ助クルノ説」(22-26)【近藤鎮三訳】

第8号(明治9年3月25日)

「米國教育局報告書 百年博覽會ニ表見スヘキ學事」(1-27)【大塚綏次郎訳】

文園雜誌(1輯(明6.6序) - 5冊(明7.2序) / 田代家塾)

医学雑誌。〈東京日日新聞〉明治6年12月16日に以下の広告があった。「田代家塾開板 文園雜誌 第一輯刻成第二三輯刻中 此書ノ主旨ハ百般ノ学科及ヒ醫事ニ關係スル所ノ新説ヲ抄録シ且傍ラ避郷師友ニ乏シキ徒ノ質問ヲ受ケ之ヲ答譯セント欲スル者也」 奥付に刊行月日の表記がないため、目録では序のデータを示した。〈東京日日新聞〉明治7年3月15日、4月29日、7月16日に、それぞれ、2、3、4の各号の広告が掲載されており、これが実際の刊行時期であろう。

当館所蔵：1-5(WB42-42)、3(WB42-42-2)

他機関所蔵：1-4 金沢市立玉川図書館近世史料館蒼龍館文庫/2 山梨県立図書館/1 東京大学総合図書館/1-5 内藤記念くすり博物館大同薬室文庫

第1輯(明治6年6月序)

「文園雜誌第一輯目録」(目録1表)

- 「〔緒言〕 明治六年癸酉六月」(目録1裏-目録2裏)【田代基徳】
 「第一號 活温ノ説」(1表-5裏)【宇多晦蔵】
 「第二號 病的體温ノ説」(5裏-8表)【宇多晦蔵】
 「第三號 麻疹ノ説」(8表-10表)【宇多晦蔵】
 「第四號 皮下注入法」(10表-14表)【伊藤謙】
 「第五號 嘔吐ノ説」(14表-16裏)【杉山由哲】
 「第六號 貧血ノ説」(16裏-19裏)【杉山由哲】
 「第七號 検尿ノ法」(19裏-25表)【米倉純一郎】
 「〔社告〕 癸酉六月」(25裏)【脩文舎同社】

第2輯(明治6年7月序)

- 「〔題〕」(目録表)【田代基徳】
 「文園雜誌第二輯目録」(目録裏)【田代基徳】
 「〔緒言〕 癸酉七月」(1表-1裏)【田代基徳】※国会本は第1丁を欠く
 「第八號 中毒」(1裏-6表)【伊藤謙】
 「第九號 斷訟法」(6表-9表)【伊藤謙】
 「第十號 尿道狹窄ノ説」(9表-14裏)【宇多晦蔵】
 「第十一號 痲疾ノ説」(14裏-19表)【宇多晦蔵】

第3冊(明治6年12月序)

- 「原生學對策 明治六年癸酉十二月廿五日」(目録1表-目録2表)【田代基徳】
 「第三輯目録」(目録2裏)
 「第十二號 衛養之論 咀嚼及ヒ和唾」(1表-2表)【岡田可作】
 「第十三號 嚥下」(2表-3表)【沖野嘉太郎】
 「第十四號 胃中消化」(3表-4裏)【原田桁知】
 「第十五號 腸中消化」(4裏-5裏)【権田元吉】
 「第十六號 吸収」(5裏-6裏)【名倉静雄】
 「第十七號 同化」(6裏-8裏)【山極吉哉】
 「第十八號 滋養」(8裏-10表)【堀尾機一】
 「第十九號 血液循環之論 動脈」(10表-12表)【梶原御楯】
 「第二十號 毛細管」(12表-13表)【西村有隣】
 「第二十一號 静脈」(13表-14表)【高室昌平】
 「第二十二號 血液行路」(14表-15表)【金山鼎】
 「第二十三號 呼吸之論 呼吸運動」(15表-17表)【工藤晋平】
 「第二十四號 膽汁功用」(17表-18表)【桐淵正元】

第4冊（明治7年1月序）

- 「目録并小引 明治七年歳次甲戌一月廿日」（1表-2裏）【田代基徳】
「第二十五號 乳汁説」（1表-9裏）【杉山由哲】
「第二十六號 浴湯法」（9裏-18裏）【松川修】

第5冊（明治7年2月序）

- 「第五冊目録/〔題 甲戌二月〕」（表）
「月経説引」（裏）【田代基徳】
「第二十七號 月経説」（1表-8裏）【工藤晋平】
「第二十八號 續第九號 死體検査法」（8裏-12表）【伊藤謙】
「第二十九號 沙爾罌禮刺薬水ノ性効用法ノ略説ヲ問フ者ニ答フ」（12表-12裏）【工藤晋平】
「看病心得草 [扉]」
「題辞」【田代基徳】
「看病心得草 文園雜誌第五冊附録第三十號」（1表-7裏）【岡田宗詔／田代基徳閱】

教院講録（1（明6.7）-34（明9.5）/建本堂）

内務省統計による部数。4,370（明治7年7月～明治8年6月）2,105（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-3（写本）、20-34 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/1-3、5、6、8、9、31 静岡県立中央図書館/1-5 東京経済大学図書館三橋文庫/1-7、9-15、32 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1、3-8、12 明治仏教史編纂所/11-12 立教大学新座保存書庫大久保文庫

第1号（明治6年7月）

- 「六月十七日開講」（1表-6表）【西川須賀雄】

第2号（明治6年8月）

- 「六月廿二日講説」（1表-6裏）【西川須賀雄】

第3号（明治6年8月）

- 「第二號ノ續キ」（1表-7表）

第4号（明治6年9月）

- 「紀記二典ノ説」（1表-6裏）

第5号 (明治6年9月)

「第四號ノ續キ」(1表-3表)

「〔御教則第一條ノ旨演說〕」(3表-6裏)【奥山照子】

第6号 (明治6年10月)

「〔講說〕」(1表-6裏)【神谷大周】

第7号 (明治6年11月)

「五元神ノ說」(1表-7裏)【岡部讓】

第8号 (明治6年11月)

「第七號ノ續キ」(1表-6裏)

第9号 (明治6年12月)

「〔講說〕」(1表-7裏)【青柳高鞆】

第10号 (明治7年4月)

「神徳皇恩ノ說」(1表-5裏)【久保恵繩】

第11号 (明治7年7月)

「勤業」(1表-6裏)【西川須賀雄】

第12号 (明治7年8月)

「第十一號ノ續キ」(1表-4裏)

「大祓ノ說」(4裏-6裏)【鬼水沃洲】

第13号 (明治7年9月)

「第十二號ノ續キ」(1表-3表)

「〔講說〕」(3表-7裏)【大橋反求齋】

第14号 (明治7年12月)

「立志ノ辨」(1表-5裏)【奉島常敏】

第15号 (明治7年12月)

「第十四號ノ續キ」(1表-5表)

第16号 (明治8年3月)

「道之大本ノ辨」(1表-5裏)【権田直助】

第17号 (明治8年3月)

「前号ノ續キ」(1表-5表)

第18号 (明治8年3月)

「顯幽分界之說」(1表-5裏)【権田直助】

第19号 (明治8年4月)

「前号ノ續キ」(1表-5表)

- 第 20 号 (明治 8 年 4 月)
「前号ノ續キ」(1 表-5 裏)
- 第 21 号 (明治 8 年 5 月)
「人魂不死之説」(1 表-7 裏)【権田直助】
- 第 22 号 (明治 8 年 6 月)
「前号ノ續キ」(1 表-6 表)
- 第 23 号 (明治 8 年 6 月)
「前号ノ續キ」(1 表-2 表)
「養生長壽之傳」(2 表-5 裏)【権田直助】
- 第 24 号 (明治 8 年 7 月)
「前号ノ續キ」(1 表-5 表)
- 第 25 号 (明治 8 年 8 月)
「善悪之辨」(1 表-6 裏)【権田直助】
- 第 26 号 (明治 8 年 9 月)
「前号ノ續キ」(1 表-7 裏)
- 第 27 号 (明治 8 年 10 月)
「[[講説]]」(1 表-7 裏)【萩原常規】
- 第 28 号 (明治 8 年 10 月)
「前号ノ續キ」(1 表-7 表)
- 第 29 号 (明治 8 年 11 月)
「[[講説]]」(1 表-7 表)【伊能穎則】
- 第 30 号 (明治 8 年 12 月)
「敬神」(1 表-6 表)【西川須賀雄】
- 第 31 号 (明治 9 年 3 月)
「前号ノ續キ」(1 表-6 裏)
- 第 32 号 (明治 9 年 4 月)
「前号ノ續キ」(1 表-6 裏)
- 第 33 号 (明治 9 年 5 月)
「[[講説]]」(1 表-7 裏)【安井則之】
- 第 34 号 (明治 9 年 5 月)
「前号ノ續キ」(1 表-7 表)【安井則之】

准刻書目 (1 (明 6. [10]) - 4 ([明 8.2] / 教部省)

教部省が准刻した書目を公報するもの。『明治前期書目集成 第六分冊』

(明治文献、1972)に影印復刻がある。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：3 金光図書館/1-4 国立公文書館内閣文庫/1-4 国立公文書館内閣文庫(公文録)

第1号※『公文録』明治6年10月24日御届

明治5年9月-6年7月分

第2号※『公文録』明治7年7月13日申達

明治6年8月-7年2月分

第3号※『公文録』明治7年9月28日申達

明治7年3月-7月分

第4号※『公文録』明治8年2月15日届出

明治7年8月-12月分

医事雑誌(1(明6.11)-43(明8.12)/坪井信良)

〈准刻書目〉明治6年11月に「半紙一冊廿枚 編輯出版 坪井信良 当十一月ヨリ毎月二冊ツゞ出版 蘭國醫學校ニ於テ本年毎月出版ノ醫學新聞紙類ヨリ各國諸醫新發明ノ論説ヲ抄譯編輯ス」とある。

内務省統計による部数。5,134(明治7年7月~明治8年6月) 1,000(明治8年7月~明治9年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-43、附1 金沢市立玉川図書館近世史料館蒼龍館文庫/5-8、10-11、13-22、24-27、29-43 金沢大学附属図書館医学部分館/1-19 東京大学総合図書館/1-43 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター 明治新聞雑誌文庫

第1号(明治6年11月)

「醫事雑誌序 明治六年十月」(表-裏)【坪井信良】

「蔭酸鍍」(1表)

「ケル子メルク」(1表-2表)

「燐毒ヲ解ス法」(2表-2裏)

「心囊焮衝後體力衰脱」(2裏)

「コレラ病預防法」(2裏-4表)

「第三世ナポレオン石淋ヲ病テ不起其屍ヲ解剖ス」(4表-4裏)

「レウマチス治法藥品總括」(4裏-7表)
「狂犬病預防法」(7表-8表)
「黒痘」(8表-9表)
「消毒劑提要」(9表-9裏)
「人身滋養物」(9裏-11表)
「沃度加里」(11表-13裏)
「梅毒症ニ水銀ヲ用フルノ効害」(13裏-15表)
「種痘規則」(15表-17表)
「外國新報」(17表-17裏)

第2号(明治6年12月)

「脚氣説」(1表-3表)
「嘔吐治法」(3表-7表)
「散發コレラ病」(7表-10表)
「麻醉嗅法ヲ行フニ方テ注意スヘキ要件」(10表-13裏)
「疥癬蟲」(14表-14裏)
「蒸氣浴ヲ施シテ初生兒ノ嘶啞ヲ治スル法」(15表-16裏)
「肝油傑列乙」(16裏-17表)
「狂犬病 ハールレム報告」(17表)
「別林報告」(17表-18裏)

第3号(明治6年12月)

「診察法」(1表-2表)
「其一 全身診法」(2表-5裏)
「 各部診察法」(5裏-13表)
「其二 測量法」(13表-15表)
「其三 患者位置」(15表-17表)
「其四 外部候徴」(17表-22表)
「第二號校正」(22表)

第4号(明治7年1月)

「第三號校正」(表2)
「其五 器械性検査」(1表-8表)
「其六 分泌検査」(8表-12表)
「其七 顯微鏡検査」(12表-20裏)
「謹テ江湖看官諸君ニ告ク」(21表-22表)【[坪井] 信良】

第5号 (明治7年1月)

- 「第四號校正」(表2)
- 「中毒總論」(1表-8裏)
- 「傳統病」(8裏-10表) ※目次「遺統病」
- 「動物類總數」(10表-10裏)
- 「獸肉調理大要」(10裏-11裏)
- 「防腐諸法」(11裏-16裏)
- 「狂犬毒治法」(16裏-18裏)

第6号 (明治7年2月)

- 「第五號校正」(表2)
- 「病院建築法及須知要件」(1表-15表)
- 「依剥昆垚兒治法」(15表-16裏)
- 「疖瘡治法」(16裏-18裏)

第7号 (明治7年2月)

- 「便毒治法」(1表-2表)
- 「脩身養生法」★(2表-5表)
- 「擬定種痘永續法」(5表-10表)
- 「擬定死亡申報法」(10表-11表)
- 「麻疹治法」(11表-15表)
- 「流行性腦脊髓膜炎問案」(15表-18裏)

第8号 (明治7年3月)

- 「華字命名」(1表-5裏)
- 「コレラ預防兼保生護民法」(6表-16裏)
- 「住居地方說」(17表-19表)

第9号 (明治7年3月)

- 「全體部位功用」(1表-6裏)
- 「大氣畧說」(7表-10裏)
- 「晴雨鍼」(10裏-11表)
- 「食料ヲ無氣中ニ蓄フル法」(11表-12表)
- 「創傷治法」★(12裏-19裏)

第10号 (明治7年4月) ※本號總テプラクチセーレンデヘ子ースキユンデ

- ト題スル醫事新紙抄譯千八百七十三年刻陸軍醫監林紀頃齋シ帰ル所ナリ
- 「痢病治驗」(1表-3裏)
- 「痢病ニ麥奴ヲ用フル治驗」(3裏-4裏)

「癩麻質治験」(4裏-6裏)
「亜爾箇兒ヲ定則アリテ用ヒ以テ血腫瘍ヲ速治スル説」(6裏-7裏)
「鼓膜急性症帝列並ヲ用ユル説」(7裏-9表)
「齒痛注射法」★(9表-10表)
「皮膚水腫外治法 カルフ氏」(10表-11表)
「溴素溶液外用法 ゴットワルド氏」(11表-13表)
「乳兒ノ某病ニ茄菲ヲ用ユル治験」(13表-14表)
「石炭酸功害」★(14表-16裏)
「偏頭痛印度大麻治験」(16裏-19裏)

第11号(明治7年4月)

「エルゴチ子皮下注入法」(1表-3表)
「吐血ニエルゴチ子注入法ヲ施ス治験」(3表-4表)
「脂肪腫ニアルコール注入法治験」(4表-4裏)
「砒石功験」(5表-6表)
「石炭酸皮病治験」(6表-6裏)
「クループ溴素吸入法治験」(6裏-9表)
「沃度加里急性頭水治験」(9表-10表)
「アポモルヒ子」(10表-12表)
「鹽酸アポモルヒ子治験」(12表-12裏)
「産婦奇症」(13表-13裏)
「麻醉法」(13裏-16裏)
「謹告四方」(17表-18裏)

第12号(明治7年5月)

「鶏卵硝酸毒ヲ解スル治験」(1表-4裏)
「煙草煙化學性質及ヒ有毒作用」(4裏-6表)
「沃度加里ノ價」(6裏-7表)
「妊婦及ヒ産婦癲狂」(7裏-10裏)
「規尼ノ弊害」(10裏-13裏)
「緑鍍液急性關節癩麻質預防法」(13裏-14表)
「咽喉焮衝治法」(14裏-16裏)
「謹告四方」([17]表-[18]裏)

第13号(明治7年5月)

「痢病」(1表-4裏)
「痢病治験」(4裏-6裏)

- 「急性關節痲質蝸牛功驗」(6裏-7表)
「胃瘧ビスミット治驗」(7表-7裏)
「感冒」(7裏-8表)
「コウシ子縲蟲治驗」(8表-8裏)
「箝頓貌痲屈番木鱉効驗」(8裏-10表)
「産婦出血ノ説」(10表-11裏)
「頑固ノ便秘ニ水銀治驗」(11裏-15裏)
「瘻管中生蟲」(15裏-16表)
「癲癩及ヒ卒倒溴素加里治驗」(16表-18裏)

第14号(明治7年6月)

- 「亞爾箇兒類人ヲ狂セシムル説」(1表-2表)
「肝油ノ健康体及ヒ病体ニ感スルノ説」(2表-4裏)
「小兒熱病ノ温度ヲ減スル法」(4裏-5表)
「アブドミナーレ窒扶斯冷水治法」(5裏-8裏)
「硼砂及ヒ硝石失音ヲ治ス」(8裏-9裏)
「消焮及解熱治法」(10表-11裏)
「胃瘧治法」(11裏-13表)
「包皮緊窄尿通困難症」(13表-14裏)
「黃疸治法」★(14裏-16裏)
「小兒第一第二度火傷治法」(16裏-17裏)
「ペトロレウム石炭油疫咳ヲ治ス」(17裏-18裏)

第15号(明治7年6月)

- 「モルヒ子皮下注入法墮胎ヲ預防スル説」(1表-1裏)
「蓬砂通經効驗」(1裏-2表)
「鋰鹽治痛風」(2表-4裏)
「朴偏福鳥篤脂通經説」(4裏-5表)
「小兒腎石」(5表)
「老婦初産」(5裏-7裏)
「膀胱結石溶解劑」(7裏-11裏)
「ポドヒルリ子便秘癖ヲ治スル説」(11裏-13表)
「砒石健胃及ヒ通利ノ効」(13裏-14表)
「藥品検査之説」★(14表-16表)
「標疽治法」(16裏)
「博物之理」(17表-18裏)

第 16 号 (明治 7 年 7 月)

- 「石灰水蟲蝨ヲ治ス」(1 表-1 裏)
- 「全身蠟毒甘汞皮下注入法」(1 裏-2 裏)
- 「グループ溴素吸入法治験」(2 裏-5 裏)
- 「アスベルシース アルスチヨツク 治痛風」(5 裏-6 表)
- 「コレラ治法及ヒコレラチホイデ預防法」(6 表-10 裏)
- 「生水銀治便秘」(10 裏-11 裏)
- 「全然離斷セル部ノ愈着」(11 裏-16 表)
- 「蘆薈」(16 表-18 裏)

第 17 号 (明治 7 年 7 月)

- 「血液注入法」(1 表)
- 「肝油用法」(1 表-1 裏)
- 「罅口ヲ密封スル錫葉及栓塞木ノ説」(1 裏-2 裏)
- 「石炭酸間歇熱治験」(2 裏-3 表)
- 「石炭酸外用中毒」(3 表-4 裏)
- 「石炭酸治疥癬」(4 裏-5 裏)
- 「コレラ治法」(5 裏-8 表)
- 「コレラ血液注入治法」(8 表-10 裏)
- 「産婦大痙攣コロラルヒダラート治験」(10 裏-13 裏)
- 「産婦搐搦コロラルヒダラート治験」(13 裏-15 表)
- 「コロルシユーレ加里翻化癌外用」(15 表-17 裏)
- 「急性關節僂麻質治法」(17 裏-18 裏)

第 18 号 (明治 7 年 8 月)

- 「ニトリアミリ胸炎治験 ウベルリースマッデン氏」(1 表-4 表)
- 「勞瘵患者咯血セカーレコルニユチュム治験」(4 表-6 表)
- 「血液注入法」(6 表-8 表)
- 「コロルシユーレ加里癌腫外用」(8 表-9 裏)
- 「貌僂屈治法」(9 裏-11 表)
- 「グループ沃實謨治験」(11 表-12 裏)
- 「疫咳莧蓉治験」(12 裏-13 裏)
- 「エルゴチ子之説」(13 裏-15 裏)
- 「皮下注入法」(15 裏-17 表)
- 「清氣法〔防傳染毒法〕」(17 表-18 裏)

附録（明治7年8月）

「緒言 明治七年八月」（1表）【坪井信良】

「分類」（1裏）

「〔西藥畧釋藥名解〕」（2表-16裏）

第19号（明治7年9月）

「維年衆醫會議」★（1表-1裏）

「産婦癲癇」（2表-5表）

「吸藥瀉法」（5表-6表）

「歛唇施術ノ好時期」（6表-8裏）

「包皮緊窄治法ノ要旨」（8裏-10表）

「經行休止遲速」（10表-12表）

「ドル。イ。スミス氏ノ食料論」（12表-16裏）

「菲莫ト規尼トノ錯誤」（17表-18裏）

第20号（明治7年9月）

「〔醫師ノ來ル迄〕近刊」（1表）【坪井信良】

「心ヲ静定シテ事ヲ執ルヘキコト」（1裏-5裏）

「病室ノ事」（5裏-6裏）

「看護法及ヒ看護人ノ事」（6裏-12裏）

「藥匣ノ事」（12裏-15裏）

「人体ノ全ク死セシカ或ハ尚生アルカラ検査スル新法」（15裏-17表）

第21号（明治7年10月）

「鹽酸規尼ノ説」（1表-2表）

「ジプテリチス治法極論」（2表-3裏）

「鹽酸アポモルヒ子」（3裏-4裏）

「水中鉛毒ノ説」（4裏）

「雜記」★（5表）

「急發癲癇治法」（5表-6表）

「血腫瘍治法」★（6表-6裏）

「酸化亞鉛下利治驗」（6裏-7表）

「出産間及産後亞的兒注入」（7表-7裏）

「亞的兒麻醉法」（7裏-16裏）

第22号（明治7年10月）

「赤痢根治法」（1表-6表）

「エルゴチ子皮下注入法止血ノ説」（6表-9裏）

- 「疫咳治法」(9 裏-10 表)
- 「皮膚水腫斷飲治法」(10 表-10 裏)
- 「砒酸曹達恐水病治驗」(11 表-11 裏)
- 「鉛疝治法」(11 裏)
- 「肝油」(11 裏-14 表)
- 「沃典毒敗血」(14 表-15 表)
- 「十年前ノ屍体ヲ検査シテ砒石中毒タルヲ發覺スル説」(15 表-16 表)
- 「人身中ノ銅ノ説」(16 表-17 表)

第 23 号 (明治 7 年 11 月)

- 「コロラルヒドラー特危害ノ説」(1 表-3 裏)
- 「肺勞患者高所ニ住居スルヲ佳トスルノ説」(3 裏-8 表)
- 「プロペーラミ子癩麻質治驗」(8 表-9 表)
- 「石炭酸甘油」(9 表)
- 「疥癬治法」(9 裏-10 表)
- 「凍瘡奇藥」(10 表-10 裏)
- 「胎兒ノ死活ヲ辨スル法」(10 裏-11 裏)
- 「エルゴチ子効能」(11 裏-13 裏)
- 「乳汁漏泄過多ヲ治スル法」(13 裏-14 表)
- 「四肢截斷惜血療法」★(14 表-15 表)
- 「硫酸ストリキニ皮下注入法眼病治驗」(15 表-15 裏)
- 「悪臭足汗治法」(16 表-16 裏)
- 「[ガラム秤量]」(17 表-17 裏)

第 24 号 (明治 7 年 11 月)

- 「硫酸亞都邊内用」(1 表-2 表)
- 「冷水陣痛ヲ催進スル説」(2 表-3 表)
- 「砒石治惡阻」(3 表-3 裏)
- 「コロラルヒダラー特遺尿殊ニ小兒ヲ治ス」(3 裏-5 表)
- 「溴素曹達鎮痙之効」(5 表-7 裏)
- 「糖尿石炭酸治驗」(7 裏-11 表)
- 「縲蟲驅逐單簡法」(11 表-12 表)
- 「嗅薦ノ鉛毒」(12 表-13 裏)
- 「急發癲癇コロ、ホルム治驗」(13 裏-15 裏)
- 「月經之説」(15 裏-16 表)
- 「薄荷乳汁分泌ヲ壓止スル説」(16 表-17 表)

第 25 号 (明治 7 年 12 月)

「中毒論及ヒ治法」(1 表-2 裏)

「礦物屬ノ毒」(3 表-7 表)

「植物屬之毒」(7 表-9 裏)

「氣類ノ毒」(9 裏-11 裏)

「動物毒」(12 表-16 表)

第 26 号 (明治 7 年 12 月)

「悪性腫瘍越歴機治法」(1 表-2 裏)

「娩随遅滞スルヲ除ク法」(2 裏-3 表)

「エンドメトリチス」(3 表-6 表)

「腸内冷水注入法」★(6 表-10 裏)

「雜記」(11 表-17 表)

第 27 号 (明治 8 年 1 月)

「ナルセイ子効能 ウ、ス、ブラーグ氏説」(1 表-2 裏)

「動物毒經驗二條 ドル、ヒントン氏」(2 裏-3 表)

「肝油灌腸法」(3 表-3 裏)

「洩美蘭治生齒痛」(3 裏)

「寫字状痙攣治驗」(3 裏-4 裏)

「コロラルヒダラート及溴素加里テタニス治驗」(4 裏)

「硫酸亞都邊皮下注入法コレラ治驗」(4 裏-5 表)

「胃痛治驗」(5 表-8 裏)

「腫瘍ヲ治スル新法」(8 裏-9 表)

「妊婦静脈瘤エルゴチ子効能 ドル、プ、リユーケ氏」(9 裏-10 裏)

「産婦癲癇治法」(10 裏-11 裏)

「アントラキス黒痘ノ類皮下吸収治法」(11 裏-12 表)

「妊娠中及産後子宮頸脱垂腫脹」(12 表-13 表)

「難産手術」(13 表-13 裏)

「大脉管緊紮法」(13 裏-14 裏)

「哺乳間通經」(14 裏-15 表)

「雜記」(15 裏)

「附言」(16 表-16 裏)

第 28 号 (明治 8 年 1 月)

「無血外科術」★(1 表-2 裏)

「抜毛セス [シテ] 頭瘡ヲ治スル法」(2 裏-3 表)

- 「水貌僂屈及陰部乙状瘻衝新治法」(3表-3裏)
「下腹ニ於テ細キトロイカルトヲ以テ膀胱ヲ刺ス法」(3裏-8表)
「痢病治法」(8表-11表)
「蜜尿治法」(11表-13裏)
「寫字痙攣」(13裏-15裏)
「電氣ニ感シテ人身体上ニ實物ノ眞形ヲ顯出スル説」(15裏-16裏)

第29号(明治8年2月)

- 「箕作秋坪譯夏時小兒養育法」(1表-7裏)
「海水浴」(7裏-11表)
「クループ治法」(11表-16裏)

第30号(明治8年2月)

- 「惡性間歇熱發作間治法」(1表-2表)
「病性足汗治法」(2表-3裏)
「解熱法」★(3裏-6裏)
「習癖便秘治法」6裏-8裏)
「肝油」(8裏-11表)
「カタラクト病理及治法」(11表-13表)
「トリメテルアミ子〔プロペーラミ子〕効用」(13表-14裏)
「[[ガラム秤量]]」(15表-16裏)

第31号(明治8年3月)

- 「[[緒言] 明治八年二月」(1表)【坪井信良】
「内科闡微醫理撮要」(1裏-5表)
「尿閉治法」(5表-5裏)
「古列刺流行時ノ下利」(5裏-8裏)
「骨貌僂屈重錘療法」(8裏-9裏)
「佝僂病治法」(9裏-14表)
「種痘員數ノ説 ドルヘルムエウレンベルグ氏」(14表-17表)

第32号(明治8年3月)

- 「小兒及ヒ兒童耳漏治法」(1表-3裏)
「小兒ノ下利吐根ノ効」(3裏-4表)
「鹽酸莫爾比涅中毒」(4表-6表)
「舞踏病治法」(6表-9裏)
「石炭酸熱性僂麻質治驗」(9裏-11表)
「下唇表皮癌コロラスカリキユス治驗」(11裏-12表)

- 「溴素加里催眠ノ効」(12表-13表)
「妊婦頑固ノ嘔吐」(13表-13裏)
「出血ニエルゴチ子皮下注入法」(13裏-15裏)
「カリフリユオラチュム保齒ノ説」(15裏-16表)
「アルビュミンユリー卵白質ヲ含ム尿ハ癲癇發作ノ一徵ナルノ説」(16裏)
「大疝痛嘔吐ヲ兼ル者炭酸發越ニテ治スル説」(17表)

第33号 (明治8年4月)

- 「米國ドクトルエルドレイヂ氏梅毒ノ説」(1表-16裏)

第34号 (明治8年4月)

- 「溴素加里淋疾治驗」(1表-3表)
「滋養ノ説」(3表-9裏)
「母乳代用品」(9裏-13表)
「阿片毒治法」(13表-14表)
「尿中卵白ノ説」(14表-16表)
「コロ、ホルム分娩際効驗」(16表-17表)

第35号 (明治8年5月)

- 「莫兒比涅皮下注入法誤用 ヒイドレル氏」(1表-5表)
「天行痘病理及ヒ器械性治法」(5表-6表)
「牛乳ニ加爾基水ヲ和シ慢性下利ヲ治ス法」(6表-6裏)
「癌腫局部治法」(6裏-7裏)
「疔腫治法」(7裏-9裏)
「分娩ノ際ニ麻醉法トシテコロラルヲ用フル法」(9裏-11表)
「偽膜咽喉焮衝治法二説」(11表-14表)
「磷素神經痛治驗」(14表-15裏)
「雜説」(15裏-17表)

第36号 (明治8年5月)

- 「滋養ノ説」(1表-4裏)
「乳汁ヲ病者ニ用フル説」(4裏-6表)
「勞瘵症起原」(6表-7裏)
「淋疾治法備考」(8表-9表)
「初生兒ニ麻醉劑害アルノ説」(9表-10裏)
「アポモルヒ子祛痰ノ効」(10裏-11表)
「磷毒治法」(11裏-12表)
「乳房腺焮衝治法」(12表-15裏)

「雜記〔五條〕」(15裏-17表)

第37号(明治8年6月)

「血液注入法ノ論」(1表-4裏)

「狂犬病」(4裏-7裏)

「心悸動治法」(7裏-8裏)

「急性及ヒ慢性氣管炎并喘息治法」(8裏-9表)

「鹽酸アポモルヒ子催吐及ヒ祛痰ノ効再說」(9表-10裏)

「格魯布治法」(10裏-13表)

「刺法ニテ腫瘍消散スル說」(13表-14表)

「電機ヲ用ヒテ腫瘍ヲ消散スルノ說」(14表-14裏)

「ガラム比例畧表 明治八年五月」(15表-16裏)【坪井信良】

第38号(明治8年6月)

「石炭酸主治」(1表-3表)

「尿道狹窄ノ說」(3表-11表)

「小産處置」(11表-13表)

「太陽ノ光線能ク鬼捻斑疣贅及ヒ他ノ皮膚疾患ヲ消褪スルノ說」(13表-14表)

「種痘 米國アシミード氏說」(14表-16表)

「〔中外医事新聞刊行の知らせ〕 明治八年七月」(16表)【坪井信良】

第39号(明治8年8月)

「コラルヲ畜類ニ試用スル麻醉ノ功」(1表-2表)

「箝頓貌僂屈復位法」(2表-2裏)

「心臟障膜病」(2裏-4裏)

「勞瘵經過中單寧功驗」(4裏-5裏)

「鉛毒治法」(5裏-7表)

「酒客譫妄治法」(7表-8裏)

「乳腺惡性腫瘍發生鑒別及治法」(8裏-12裏)

「義膜炎治法」(12裏-14表)

「産婦搖擗」(14表-15表)

「妊娠ノ徴候」(15表-16表)

第40号(明治8年9月)

「コロトンコラルヒダラート」(1表-3裏)

「慢性膀胱カタル治法」(3裏-6表)

「頑固便秘」(6表-7表)

- 「縦蟲治法」(7表-8表)
- 「面部ノ習癖筋惕治法」(8表-9表)
- 「鼻ノ惡臭潰瘍及ヒ格魯兒加里ノ説」(9表-9裏)
- 「石炭酸内用鱗癬治験」(10表-11裏)
- 「溴素加里功能」(11裏-13裏)
- 「初生兒養育法」(13裏-16裏)

第41号(明治8年10月)

- 「小兒養育法 乙」(1表-6表)
- 「蟲類毒治法」(6表-14裏)
- 「外科學大要」(14裏-16裏)

第42号(明治8年11月)

- 「創傷後神經感動」(1表-16表)
- 「其一 震掉」(1表-10裏)
- 「其二 創傷譫妄」(10裏-16表)

第43号(明治8年12月)

- 「獸屍毒」(1表-12裏)
- 「甲 解屍創」(1表-8表)
- 「乙 悪性癬一名黒痘」(8裏-12裏)
- 「血液注入法」(12裏-14裏)
- 「蜈蟻」(14裏-16裏)

説教するべ草(1(明6.12?)-/大野木市兵衛)

刊行時期は東京經濟大学三橋文庫本の記述によるが、初版のデータかどうかは確定できていない。教部省の〈准刻書目〉に見える逐次刊行物類似の出版物の一例として以下に細目を掲げる。准刻の時期は1、2号が明治6年8-12月期、3号が明治7年1-2月期、4、5号が同年3-7月期、6号が同年8-12月期である。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-6 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/1-3 東京經濟大学図書館三橋文庫

第1号(明治6年12月?)

- 「〔序〕 明六七月」(序1表)【山本與助】
- 「神誠」(序1裏-序2表)

「目録」(序 2 裏)
「三則」(1 表-3 裏)
「伊勢參宮の事」(4 表-9 表)
「葛飾の権兵衛が事」(9 裏-13 表)
「出来心の事」(13 表-14 裏)

第 2 号

「[序] 明六十月」([序 1] 表)【山本與助】
「目録」([序 1] 裏)
「岩倉大使帰朝の事」(1 表-2 表)
「廢藩置縣の事」(2 表-3 裏)
「血税を誤る事」(3 裏-6 表)
「思へどもの哥の事」(6 裏-8 裏)
「外國より日本を論ずる事」(8 裏-14 裏)

第 3 号 (明治 7 年 3 月?)

「[序] 明六十二月」(1 表-2 表)【山本與助】
「目録」(2 裏)
「年中祭り日祝ひ日の事」(1 表-2 裏)
「大阪の車夫金を拾ふて自ら罪を招きし事」(2 裏-6 裏)
「東京の車夫一言を感じて忽ち出世に趣きし事」(6 裏-10 表)
「犯姦の事」(10 表-13 裏)
「説教志るべ草表目附」([14] 表)
「[広告] 世界婦女往來」([14] 裏)

第 4 号

「序 明治七年一月」(序 1 表-序 2 表)【東井潔全】
「目録」(序 2 裏)
「太政公御病氣御全快の事」(1 表-2 表)
「御陵巡拝の事」(2 表-5 表)
「お俊傳兵衛極楽へ行し話」(5 裏-15 裏)

第 5 号

「[序] 甲戌一月下浣」(序 1 表-序 2 表)【中島よしゑ】
「目録」(序 2 裏)
「太陽曆の至寶たる事」(1 表-6 表)
「護王大明神の事」(6 表-8 裏)
「女人結界の地の事」(8 裏-11 表)

「秋葉山廃寺の事」(11 裏-13 裏)

第 6 号

「[書]」([1] 表)

「[目録]」([1] 裏)

「神国の神民たる事」(1 表-3 表)

「死を軽んずるハ不覚之事」(3 表-9 表)

「大阪某寺の僧説教の事」(9 表-11 裏)

「日本と西洋同じ裁許ありし事」(11 裏-14 裏)

「[五号正誤]」(14 裏)

「[広告]」([15] 表- [15] 裏)

教林雑誌 (1 (明 7.1) -/敬愛社)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 玉川大学図書館/1 香川大学附属図書館神原文庫/1-4
国学院大学図書館/1 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/1-4
天理大学附属天理図書館/1 東京経済大学図書館三橋文庫/1、2、4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-3、5 同志社大学人文科学研究所/1-2 内藤記念くすり博物館大同薬室文庫/1-4
明治仏教史編纂所/2、4 龍谷大学学術情報センター大宮図書館

第 1 輯 (明治 7 年 1 月)

「緒言 明治七年第一月」(緒言表-緒言裏)【小野正巳】

「附言」(附言表)

「教林雑誌第一輯目次」(目次表-目次裏)

「第一號 教部省御達二則」(1 表-1 裏)

「第二號 大教院録事二則」(1 裏-2 裏)

「第三號 三條教憲拙解」(3 表-9 裏)【清水彦介】

「第四號 教部省出仕寺院中ヨリ告諭書」(9 裏-11 表)

「第五號 千葉縣教導職協議答議ノ事」★(11 表-13 裏)

「第六號 真宗五派他ノ六宗ト分離ノ説」(13 裏-20 表)

「第七號 囚徒改過ノ事」(20 表-20 裏)

「第八號 立志説」(20 裏-24 裏)【福羽美静】

「[後記]」(24 裏-25 裏)

第2輯 (明治7年2月)

- 「教林雜誌第二輯目次」(目次表-目次裏)
「緒言 明治七年第二月」(緒言表-緒言裏)【小野正巳】
「第九號 教部省御達三則」(1表-2表)
「第十號 大教院録事三則」(2表-5表)
「第十一號 說教要義」(5表-8表)【真宗五派】
「第十二號 十一兼題私記 節一」(8表-11表)【宇喜多練要】
「第十三號 大阪府告諭書」(11表-18表)
「第十四號 小田縣告諭書 今後可改心得十五ヶ條」(18表-22裏)
「第十五號 聖徳皇子肖像ノ説」(22裏-24裏)【牧野大眼】
「〔後記〕」(25表-25裏)
「附言」(附言表)

第3輯 (明治7年3月)

- 「教林雜誌第三輯目次」(目次表-目次裏)
「緒言 明治七年第三月」(緒言表-緒言裏)【小野正巳】
「第十六號 教部省御達一則」(1表-1裏)
「第十七號 教會大意誓約十條」(1裏-3表)
「第十八號 大教院録事四則」(3表-7裏)
「第十九號 人魂不死之説」(7裏-10表)【宇喜多練要】
「第二十號 本願寺故法主遺訓」(10表-13表)
「第二十一號 東本願寺新法主海外ヨリ諸國末寺并門徒中ヘノ來書」(13表-14表)
「第二十二號 幽界合併ヲ駁スルノ説」(14裏-19表)
「第二十三號 島根縣教導取締普告」(19表-20裏)
「第二十四號 筑摩縣上條廣義米國ヨリ外務省ヘ建言一則」(20裏-24裏)
「〔後記〕」(24裏-25裏)
「附言」(附言表)

第4輯 (明治7年4月)

- 「教林雜誌四輯目次」(目次表)
「緒言 明治七年第四月」(緒言表-緒言裏)【小野正巳】
「第二十五號 教部省御達三則」(1表-2表)
「第二十六號 大教院録事說教論題十七則」(2表-21表)
「第二十七號 開宗論」(21表-25裏)
「〔後記〕」(25裏-26表)

「附言」(附言表-附言裏)

第5輯(明治7年)

「教林雜誌五輯目次」(目次表-目次裏)

「第二十八號 教部省御達二則」(1表-3裏)

「第二十九號 大教院規則條目」(3裏-7裏)

「第三十號 教門改正ノ策 第三輯建言書ノ續」(7裏-10表)

「第三十一號 大教院録事 海陸軍兵卒並司法省懲役徒説教建言」(10表-12表)【西川須賀雄】

「第三十二號 皇國々體説」(12裏-13裏)

「第三十三號 血税ノ誤解」(14表-14裏)

「第三十四號 山梨縣布達」(15表-16裏)

「第三十五號 寺院改正論」(16裏-18裏)

「第三十六號 蠹巫蠱僧ヲ駁スルノ説」(18裏-27表)【滑山隱史】

「〔後記〕」(27表-27裏)

第6輯 未確認

第6輯附録(明治8年)

「教林雜誌六輯附録目次」(目次表)

「緒言 明治八年五月」(目次裏)【小野正巳】

「佛法通論八題之部」★(1表-32裏)【南條神興】

民間雜誌(1(明7.2)-12(明8.6)/慶応義塾出版社)

〈准刻書目〉明治7年3月に「出版 湯川頼二郎 地方民間ノ心得トナル可キ事ヲ記ス」とある。マイクロフィルム『福沢関係文書 K14(出版活動等)』リール1に所載。『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に神代種亮『『民間雑誌』解題』及び、翻刻が収められている。第1編の複製が『複製日本の雑誌』(講談社、1982)にあり、同シリーズの別冊に土橋俊一による解題が所載されている。またCD-ROM『大宅壮一文庫創刊号コレクション 明治編』(紀伊国屋書店、2000)にも第1編が収録されている。また後に同名の新聞が刊行されている。

当館所蔵：5-12(WB42-7)、5-12(WB42-7-2)、1、3、4、8-10(WB42-7-3)、1(WB42-7-4)、1-3(WB42-7-5)、1(WB42-7-6)

他機関所蔵：1 首都大学東京図書情報センター/1-12 一橋大学附属図書館 土屋文庫/5 横浜市立大学学術情報センター/1-6 関西学院大学図書館/4 関西大学図書館/1-12 京都大学経済学部図書室/1-4 九州大学経

济学部/2-12 香川大学附属図書館神原文庫/1 山梨県立図書館/1-4、7-10 昭和女子大学近代文庫/9 神奈川県立公文書館/1-12 早稲田大学中央図書館/1-4 早稲田大学中央図書館（勝俣銓吉郎旧蔵）/1-3 天理大学附属天理図書館/1 東京大学経済学部図書館/1、3-7、9-10 東京大学史料編纂所図書室/1-12 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1 東京都立中央図書館/1-3 東洋大学附属図書館/1-5 同志社大学今出川図書館/1-12 日本近代文学館/1-2、5-12 日本大学経済学部図書館/1-4 日本福祉大学草鹿家文庫/1、3-6 毎日新聞社新屋文庫/1、3、4 明星大学図書館青梅校/1-5 立命館大学 衣笠 文学部/1、3、4 龍谷大学学術情報センター長尾文庫

第1編（明治7年2月）

「發端」（1表-5表）

「農ニ告ルノ文」（5表-7表）【福沢諭吉】

「同題〔農ニ告ルノ文〕」（7裏-14表）【小幡篤次郎】

第2編（明治7年6月）

「舊發明ノ器械」（1表-2表）【福沢諭吉】

「人民教育ノ説」（2表-6裏）【中上川彦次郎】

「英吉利王ジョウジ三世在位中内國ニ關スル政府ノ所置（英人ボツクル氏文明史上卷三百四十九枚ヨリ三百五十二枚マデ撮譯）」（6裏-10裏）【中上川彦次郎】

第3編（明治7年6月）

「人ノ説ヲ咎ム可ラザルノ論」（1表-5裏）【福沢諭吉】

「商ニ告ルノ文」（5裏-10表）【矢野文雄】

第4編（明治7年7月）

「青砥左衛門ノ話」（1表-7裏）【中上川彦次郎】

「教法論（英人ボツクル氏の文明史ヨリ抄譯ス）」（7裏-11表）【那珂通世】

第5編（明治8年1月）

「未来平均ノ論」（1表-5表）【福沢諭吉】

「新聞紙ヲ論ス」（5表-10裏）【林茂吉】

第6編（明治8年1月）

「外國人ノ内地雜居許ス可ラザルノ論」（1表-12裏）【福沢諭吉】

第7編 (明治8年1月)

「政令法律ノ目的ヲ論ズ」(1表-7表)【藤田茂吉】

「無學ノ弊自カラ災ヲ求ムルヲ論ズ」(7裏-11表)【箕浦勝人】

第8編 (明治8年2月)

「内地旅行ノ駁議」(1表-9表)【小幡篤次郎】

「褒賞ヲ受ク可カラザルノ説」(9表-11裏)【中野松三郎】

第9編 (明治8年2月)

「種痘の説」(1表-2裏)【藤田茂吉】

「女子に告る文」(3表-11裏)【坪井仙次郎】

第10編 (明治8年2月)

「津田先生保護税説駁論ノ駁論」(1表-6裏)【牛場卓蔵】

「近親縁組ノ大害ヲ論ズ」(6裏-10裏)【箕浦勝人】

第11編 (明治8年6月)

「嫡子ニ限り家督相續ヲ為スノ弊ヲ論ス」(1表-9表)【小幡篤次郎】

第12編 (明治8年6月)

「國權可分之説」(1表-20裏)【福沢諭吉】

明六雑誌 (1 ([明 7.3]) - 43 ([明 8.11])) / 明六社)

『明治文化全集 19』(日本評論社、1992)に西田長寿「『明六雑誌』解題」及び、翻刻が収められている。複製版は立体社から1976年に出ているほか、第1号の複製が『複製日本の雑誌』(講談社、1982)にあり、同シリーズの別冊に大久保利謙による解題が掲載されている。またCD-ROM『大宅壮一文庫創刊号コレクション 明治編』(紀伊国屋書店、2000)にも第1号が収録されている。近年の異本研究の成果をふまえた翻刻の刊行がはじまったが、現在1-13号を取めた上巻のみで中断している(岩波書店、1996(岩波文庫))。以下に収録した細目は国立国会図書館所蔵本のデータによるもので、異本については岩波文庫の解説にあたられたい。〈東京日日新聞〉明治7年3月22日の広告は以下の通り。「毎月二次出版 此書ハ今回森有禮福澤論吉箕作秋坪箕作麟祥加藤弘之津田真道西周西村茂樹中村敬助杉享二畠山義成清水卯三郎等の諸先生結社する處にして事理を論じ異聞を誌し我國の教育を進めんが為めに會同商議せられ其談論筆記するもの従て刊刻し給ふ冊子なれば智識を開くの補益最も大なりとす請ふ有志の諸君緡閱有らんことを但し明六社制規別冊壹部既に發兌せり」

内務省統計による部数。81,725 (明治7年7月~明治8年6月) 12,400 (明

治8年7月～明治9年6月)

当館所蔵：1-13、21-23、25-43 (WB42-6)、24 (WB42-6-2)、1-25、32-43 (WB42-6-3)、1、2、7、14 (WB42-6-4)、1-6、8、9、12、14、16-20、22、23、25、26、29、38-40、42 (西周関係文書)

他機関所蔵：13-28 慶應義塾大学図書館 三田/1-28、30-40、43 国学院大学梧陰文庫/1-9 一橋大学附属図書館 三浦文庫/1-43 一橋大学附属図書館 土屋文庫/1-43 一橋大学附属図書館 明治文庫/37 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち) /1-30 横浜市立大学学術情報センター/30、33-35 岡山県立図書館/30-42 京都大学人間・環境学研究所・総合人間学部図書館/1-43 京都大学人文科学研究所図書室/8 京都大学附属図書館谷村文庫/1-43 京都大学文学部 日本史/1-2、4、14-15 京都大学文学部 日本史内田文庫/1-9 九州大学中央図書館 /7、11 九州大学文学部社会/1-41 九州大学文学部筑紫文庫 /1 熊本県立図書館/1-16 群馬県立図書館/1-43 香川大学附属図書館神原文庫/33、39 山梨県立図書館/16-18、20-22、29、37、41 秋田県立図書館/1-31、34-43 昭和女子大学近代文庫/1-13、21-43 神戸大学附属図書館住田文庫/1-43 神奈川近代文学館/39 神奈川県立公文書館/1-43 神奈川県立図書館/1-2、5、7-8、10-16 相山女学園大学中央図書館山崎文庫/1-19、21-39 静岡県立中央図書館/9-20 専修大学図書館/1-22、24-29、31-38、40-41 早稲田大学中央図書館/1-42 早稲田大学中央図書館 (勝俣銓吉郎旧蔵) /21-22、27-30 大洲市立図書館矢野玄道文庫/1-43 中央大学図書館/21-25 長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫/1-43 鶴見大学図書館/1-39、42 東京学芸大学望月文庫/1-43 東京女子大学図書館/1-37、39、42 東京神学大学図書館/1-9、11、13-30 東京大学大学院教育学研究科・教育学部図書室/1-43 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター 明治新聞雑誌文庫/1-8 東京都立多摩図書館/1-43 首都大学東京 国文/1-39 東京都立中央図書館/1-7、9-21、23-30、37、39 東北大学附属図書館/1-30 同志社大学今出川図書館/1-10、13-35、37-42 同志社大学人文科学研究所/1-30 同志社大学文学部文学研究科社会学科研究室/1-43 日本近代文学館/1-43 日本大学経済学部図書館/1-15 日本大学法学部図書館/7-11 日本福祉大学草鹿家文庫/1-43 福島大学附属図書館/1-7 法政大学大原社会問題研究所/1-43 北海道教育大学附属図書館岩見沢館/16-30 北海道大学附属図書館/1-6 毎日新聞社新屋文庫/1-25 明治大学博物館内藤家文書/1-33、35-39 明治大学博物館内藤家文書/1-25 明

治大学図書館中央雑誌書庫/1-43 立教大学新座保存書庫/1-43 立教大学
人文科学系図書館

第1号

- 「洋字ヲ以テ國語ヲ書スルノ論」(1表-10表)【西周】
「開化ノ度ニ因テ改文字ヲ發スヘキノ論」★(10裏-12表)【西村茂樹】
「[会社規則の事・他]」(12表-12裏)

第2号

- 「福澤先生ノ論ニ答フ」(1表-2表)【加藤弘之】
「學者職分論ノ評」(2表-3表)【森有礼】
「學者職分論ノ評」(3表-4表)【津田真道】
「非學者職分論」(4表-6裏)【西周】

第3号

- 「開化第一話」(1表-1裏)【森有礼】
「陳言一則」(1裏-2表)【西村茂樹】
「民撰議院設立建言書之評」(2裏-4表)【森有礼】
「俄國彼得王ノ遺訓」(4表-7表)【杉亨二】
「開化ヲ進ル方法ヲ論ス」(7表-8裏)【津田真道】
「駁舊相公議一題」(8裏-11表)【西周】

第4号

- 「人民ノ自由ト土地ノ氣候ト互ニ相關スルノ論」(1表-3表)【箕作麟祥】
「ブルンチュリ氏國法汎論摘譯民選議院不可立ノ論」★(3表-4裏)【加藤弘之】
「佛人「シュルリー」氏國ノ衰微ニ赴ク徵候ヲ舉ル條目左ノ如シ」(4裏-5裏)【杉亨二】
「教門論 一」(5裏-7裏)【西周】
「煉火石造ノ説」(7裏-8裏)【西周】

第5号

- 「保護税ヲ非トスル説」(1表-3裏)【津田真道】
「教門論 二」(3裏-6表)【西周】
「北亞米利加合衆國ノ自立」(6裏-8表)【杉亨二】
「第四号中人民ノ自由ト土地ノ季候ト互ニ相關スルノ論續譯」(8表-10裏)
【箕作麟祥】
「米國政教」(10裏-13表)【加藤弘之訳】

第6号

「出板自由ナラン [コト] ヲ望ム論」(1表-2表)【津田真道】

「教門論 三」(2表-3表)【西周】

「米國政教前號ノ續キ○第三章各邦ノ教道憲法」(3表-6表)【加藤弘之
訳】

「教宗」(6表-6裏)【森有礼】

「[ワツテル] 萬國公法ノ内宗教ヲ論スル章 (撮要)」(6裏-10表)

「[ヒリモア] 萬國公法ノ内宗教ヲ論ズル章 (撮要)」(10表-12裏)【柴
田氏訳】

第7号 (明治7年5月)

「獨立國權義」(1表-3表)【森有礼】

「武官ノ恭順」(3表-4表)【加藤弘之】

「開化ノ進ムハ政府ニ因ラス人民ノ衆論ニ因ルノ説 バツクル氏ノ英國開
化史ヨリ抄譯」(4表-6表)【箕作麟祥】

「南北米利堅聯邦論」(6表-6裏)【杉亨二】

「拷問論ノ一」(6裏-8表)【津田真道】

「平假名ノ説」(8表-10表)【清水卯三郎】

第8号 (明治7年5月)

「服章論」(1表-2裏)【津田真道】

「妻妾論ノ一」(2裏-3裏)【森有礼】

「教育談」(3裏-5裏)【箕作秋坪】

「空商ノ事ヲ記ス」(5裏-6裏)【杉亨二】

「教門論ノ五」(6裏-8表)【西周】

「本ハ一つにあらざる論」(8表-9裏)【津田真道】

第9号 (明治7年6月)

「運送論」(1表-2裏)【津田真道】

「リボルチーノ説」(2裏-4裏)【箕作麟祥】

「教門論 六」(4裏-7裏)【西周】

「政論」(7裏-9裏)【津田真道】

第10号 (明治7年6月)

「拷問論ノ二」(1表-4表)【津田真道】

「眞為政者ノ説」(4表-5表)【杉亨二】

「西學一斑」(5表-7裏)【中村正直訳】

「質疑一則」(7裏-9表)【阪谷素】

第 11 号 (明治 7 年 6 月)

- 「政論ノ二」(1 表-4 表)【津田真道】
- 「妻妾論ノ二」(4 裏-5 裏)【森有礼】
- 「西學一班前号ノ續」(5 裏-7 表)【中村正直】
- 「質疑一則」(7 表-9 表)【阪谷素】

第 12 号 (明治 7 年 6 月)

- 「教門論 七」(1 表-3 表)【西周】
- 「政論ノ三」(3 表-6 裏)【津田真道】
- 「西學一班前号ノ續」(6 裏-9 裏)【中村正直】

第 13 号 (明治 7 年 6 月)

- 「米國政教 第六號ノ續キ」(1 表-3 裏)【加藤弘之訳】
- 「想像論」(3 裏-5 表)【津田真道】
- 「民選議院ヲ立ルニハ先政體ヲ定ムベキノ疑問」(5 表-9 表)【阪谷素】

第 14 号 (明治 7 年 7 月)

- 「知説 一」(1 表-3 表)【西周】
- 「リボルチーノ説 第九号ノ續」(3 表-5 裏)【箕作麟祥】
- 「貨幣ノ効能」(5 裏-7 表)【杉亨二】
- 「天狗説」(7 表-9 表)【津田真道】

第 15 号 (明治 7 年 8 月)

- 「妻妾論ノ三」(1 表-2 裏)【森有礼】
- 「西學一斑十二号ノ續」(2 裏-4 裏)【中村正直】
- 「租税ノ權上下公共スベキノ説」(4 裏-6 裏)【阪谷素】
- 「政論 四」(6 裏-8 表)【津田真道】

第 16 号

- 「政論 五」(1 表-2 裏)【津田真道】
- 「人間公共ノ説」(2 裏-3 裏)【杉亨二】
- 「西學一斑前號ノ續譯 ○倍根」(4 表-7 裏)【中村正直】
- 「愛敵論」(7 裏-9 裏)【西周】

第 17 号 (明治 7 年 9 月)

- 「財政變革ノ説」(1 表-5 表)【神田孝平】
- 「地震ノ説」(5 表-7 表)【津田真道】
- 「知説 二」(7 表-9 裏)【西周】

第 18 号 (明治 7 年 10 月)

- 「西洋ノ開化西行スル説」(1 表-2 表)【津田真道】

「輕國政府」(2表-2裏)【加藤弘之】
「人間公共ノ説 二」(2裏-4裏)【杉亨二】
「火葬ノ疑」(4裏-6表)【阪谷素】
「情實説」(6表-7表)【西周】
「國樂ヲ振興スヘキノ説」(7表-8裏)【神田孝平】

第19号 (明治7年10月)

「秘密説」(1表-2裏)【西周】
「民選議院ノ時未夕到ラサルノ論」(2裏-3裏)【神田孝平】
「尊異説」(3裏-6裏)【阪谷素】
「人間公共ノ説 三」(6裏-8表)【杉亨二】

第20号 (明治7年11月)

「新聞紙論」(1表-2裏)【津田真道】
「妻妾論ノ四」(2裏-3裏)【森有礼】
「狐説ノ疑」(3裏-4裏)【阪谷素】
「狐説ノ廣義」(4裏-6裏)【阪谷素】
「知説 三」(6裏-8裏)【西周】

第21号 (明治7年11月)

「征臺和議ノ演説 明治七年十一月十六日」(1表-4表)【福沢諭吉】
「三聖論」(4表-5表)【津田真道】
「人間公共ノ説 四」(5表-6表)【杉亨二】
「女飾ノ疑」(6裏-8裏)【阪谷素】

第22号 (明治7年12月)

「知説 四」(1表-2裏)【西周】
「夫婦有別論」(3表-4表)【津田真道】
「政教ノ疑第一」(4表-5裏)【阪谷素】
「化學改革ノ大畧」(5裏-7表)【清水卯三郎】
「紙幣引換懇願録 貨幣四録ノ一」(7表-8裏)【神田孝平】

第23号 (明治7年12月)

「内地旅行 十一月十六日演説」(1表-7表)【西周】
「正金外出歎息録 貨幣四録ノ二」(7表-8裏)【神田孝平】
「西學一斑ノ續」(8裏-9裏)【中村正直】

第24号 (明治7年12月)

「内地旅行論」(1表-3裏)【津田真道】
「貿易改正論 明治七年十二月十六日」(3裏-8表)【杉亨二】

第 25 号 (明治 7 年 12 月)

- 「知説 五」(1 表-3 裏)【西周】
- 「政教ノ疑餘」(3 裏-6 裏)【阪谷素】
- 「怪説」(6 裏-8 裏)【津田真道】

第 26 号 (明治 8 年 1 月)

- 「内地旅行西先生ノ説ヲ駁ス」(1 表-5 裏)【福沢諭吉】
- 「貿易權衡論」(5 裏-7 裏)【津田真道】
- 「紙幣成行妄想録 貨幣四録ノ三」(7 裏-9 裏)【神田孝平】

第 27 号 (明治 8 年 2 月)

- 「妻妾論 五」(1 表-3 表)【森有礼】
- 「民選議院變則論 一月十六日演説」(3 表-8 裏)【阪谷素】

第 28 号 (明治 8 年 2 月)

- 「民選議院變則論前號ノ續キ」(1 表-4 表)【阪谷素】
- 「政体三種説 上」(4 裏-6 表)【西村茂樹】
- 「政体三種説 下」(6 裏-8 裏)【西村茂樹】

第 29 号 (明治 8 年 2 月)

- 「網羅議院ノ説」(1 表-3 裏)【西周】
- 「自由交易論」(3 裏-6 表)【西村茂樹】
- 「教門論疑問 第一」(6 表-8 裏)【柏原孝章】

第 30 号 (明治 8 年 2 月)

- 「明六社第一年回役員改選ニ付演説」(1 表-4 裏)【森有礼】
- 「人材論」(4 裏-5 裏)【津田真道】
- 「教問論疑問 第二」(5 裏-7 表)【柏原孝章】
- 「人民ノ性質ヲ改造スル説 明治八年二月十六日演説」(7 表-8 裏)【中村正直】

第 31 号 (明治 8 年 3 月)

- 「夫婦同權ノ流弊論」(1 表-2 表)【加藤弘之】
- 「夫婦同權ノ流弊論第二 明治八年三月一日」(2 表-3 裏)【加藤弘之】
- 「脩身治國非二途論 明治八年三月一日演説」(3 裏-6 裏)【西村茂樹】
- 「教門論疑問 第三」(6 裏-8 表)【柏原孝章】
- 「男女同數論」(8 表-9 表)【福沢諭吉】

第 32 号 (明治 8 年 3 月)

- 「國民氣風論」(1 表-3 裏)【西周】
- 「妾説ノ疑 三月一日」(3 裏-8 表)【阪谷素】

「〔附言〕」(8表-8裏)【森有礼】

第33号(明治8年3月)

「善良ナル母ヲ造ル説 明治八年三月十六日演説」(1表-3裏)【中村正直】

「賊説 三月十六日演説」(3裏-5裏)【西村茂樹】

「日曜日之説」(5裏-6裏)【柏原孝章】

「貨幣病根療治録 貨幣四録之四」(6裏-9表)【神田孝平】

第34号(明治8年4月)

「想像鎖國説 明治八年三月十六日演説」(1表-4裏)【杉亨二】

「貨幣四録附言」(4裏-7裏)【神田孝平】

「情欲論」(7裏-9裏)【津田真道】

第35号(明治8年4月)

「支那不可侮論」(1表-3表)【中村正直】

「天降説 明治八年四月一日演説」(3表-8表)【阪谷素】

「夫婦同權辨」(8表-9表)【津田真道】

第36号(明治8年5月)

「天降説ノ續キ」(1表-6表)【阪谷素】

「西語十二解 四月十六日演説 ○文明開化ノ解」(6表-9表)【西村茂樹】

第37号(明治8年5月)

「自主自由解 西語十二解ノ二 五月一日演説」(1表-4表)【西村茂樹】

「賞罰毀譽論」(4表-6裏)【中村正直】

「鉄山ヲ開クヘキノ議」(6裏-8裏)【神田孝平】

第38号(明治8年6月)

「人世三寶説 一」(1表-5表)【西周】

「轉換蝶鉸説 明治八年五月一日演説」(5表-9表)【阪谷素】

第39号(明治8年6月)

「人世三寶説 二」(1表-4表)【西周】

「政府與人民異利害論 六月一日演説」(4表-7表)【西村茂樹】

「西學一斑ノ續」(7表-9裏)【中村正直】

第40号(明治8年8月)

「人世三寶説 三」(1表-5表)【西周】

「養精神一説」(5表-8裏)【阪谷素】

第 41 号 (明治 8 年 8 月)

- 「死刑論」(1 表-2 裏)【津田真道】
「禾花煤助法之説」(2 裏-5 裏)【津田仙】
「養精神一説 二」(5 裏-8 裏)【阪谷素】

第 42 号 (明治 8 年 10 月)

- 「權理解 西語十二解ノ三」(1 表-4 表)【西村茂樹】
「人世三寶説 四」(4 裏-7 表)【西周】
「廢娼論」(7 表-9 表)【津田真道】

第 43 号 (明治 8 年 11 月)

- 「轉換説」(1 表-4 裏)【西村茂樹】
「尊王攘夷説」(4 裏-9 裏)【阪谷素】

教会新聞 (1 (明 7.4.13) -147 (明 8.8.5) /大教院→明教社)

148 号より〈明教新誌〉と改題。〈東京日日新聞〉明治 7 年 3 月 27 日に「本院ニ於テ教會新聞刊行ノ官准ヲ得發兌近キニアリ遐邇ノ有志教義ニ關スルノ所見アラハ原稿ヲ投寄アランコトヲ望ム 大教院新聞課」という広告が見える。CD-ROM『明教新誌』(小林写真工業、2003)に所載(欠: 1、14、35-117、119-134)。

内務省統計には改題後誌〈明教新誌〉の数字が見える。

当館所蔵: なし

他機関所蔵: 135-147 成田山仏教図書館/2-13、15-34、136-147、99 附録、127 附録 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/35-147 明治仏教史編纂所

美濃教義新聞 (1 (明治 [7.4]) -/撃桃社)

見出しがないため細目の作成は行っていない。

『岐阜県史 史料編 近代 5』(岐阜県、2001)所載の「[美濃教義新聞発兌] 稟告」には「今回教部省ノ官許ヲ得テ美濃教義新聞ヲ発兌スル旨趣ハ、神官僧侶ハ勿論、局外ノ者ト雖トモ、苟モ教義ニ志アリテ論スル所ノ説ハ、汎ク海内ニ亘リ輯録編成シテ朝談夕語ニ我教義ヲ懇諭致度義ニ付…」と見える。明治新聞雑誌文庫所蔵の 6 号は、巻首、柱題が「撃桃録」となっている。なお 16 号附録は、〈報四叢談〉(84 ~ 89 頁)の 2 号附録を無断で再出版したものとして、問題化している。

当館所蔵: なし

他機関所蔵：4（電子コピー）、6、10、16 附（十七論題修斉通書） 岐阜県図書館/4、6-7 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

教場必携（1（[明7.5]）-/轉新社）

〈東京日日新聞〉明治7年8月17日に初篇既刻、二篇近刻として出された広告には、以下の様であった。「有名ノ教師碩学ノ名僧ノ講録セルハ勿論其他ノ美談モ凡テ説教ニ要ナル者ヲ蒐集シタレハ世間ノ教諭ヲ聞ニ暇ナキ兒女モ一読シテ修身ノ一助タラント思フナリ」

内務省統計による部数。5,604（明治7年7月～明治8年6月）1,018（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-6 香川大学附属図書館神原文庫/1-8（4号表紙のみ本文欠） 国学院大学日本文化研究所河野省三博士記念文庫/1-7、10 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治7年5月）※緒言による

「[緒言] 明治七年甲戌五月」（表2）

「本末之辨」（1表-6裏）【西川須賀雄】

第1号附録

「兼題十一説講案」（1表-10表）【秋山光條】※題は表紙による

「神徳皇恩之説」（1表-2裏）

「神魂不死之説」（2裏-3表）

「天神造化之説」（3表-4裏）

「顯幽分界之説」（4裏-5表）

「愛國之説」（5裏-6表）

「神祭之説」（6表-7表）

「鎮魂之説」（7表-7裏）

「君臣之説」（7裏-8裏）

「父子之説」（8裏）

「夫婦之説」（8裏-9表）

「大祓之説」（9表-10表）

第2号

「教名考叙 神武天皇紀元二千五百三十三年四月」（表-裏）【葦洲清原】

「教名考」(1表-3裏)【堀秀成】

「顯幽分界ノ喩言」(4表-6裏)【秋山光條】

第3号

「真心之辨」(1表-6表)【西川須賀雄】

第4号

「真心ノ話ノツ、キ」(1表-6表)【西川須賀雄】

「世の中にも人の身にも神の御心によりて盛衰のある心得」(6裏-8裏)

【堀秀成】

第5号

「三章畧辨」(1表-6表)【高岡増隆】

「外教新論」(6裏-10裏)【慨癡人道】

第6号

「敬神之辨」(1表-6表)【高岡増隆】

「愛國之説辨」(6表-11表)【[高岡] 増隆】

第7号

「愛國」(1表-6裏)【堀秀成】

「[講録]」(6裏-14裏)【小野方賢】

第8号

「人道之辯」(1表-16裏)【高岡増隆】

第9号 未確認

第10号(明治8年) ※〈東京日日新聞〉明治8年9月2日に10号「刻成」の広告が見える。

「君臣の説」(1表-3表)【西川須賀雄】

「表裡本未の辨」(3表-8表)

「幽顯分界説並政教一致之論」(8表-11裏)

「警惰録」(12表-22裏)【小田清雄】

第11号(明治9年) ※〈東京日日新聞〉明治9年3月8日に11号の広告が見える。

近世医説(1(明7.5)-3(明7.9)/開拓使)

開拓使に雇われたアメリカ人医師で函館医学校教師をつとめた依児度列智/Eldridge、James Stuart(1843-1901)の著述を本多公敏が訳したもの。『北海道医学教育史攷』(北海道出版企画センター、2003)で、小竹英夫が同誌についてまとめている。同書によれば、Eldridgeは書簡で medical

newspaper としていたという。

当館所蔵：1-3 (YDM57856)

他機関所蔵：2 九州大学 附属図書館 医学分館/2-3 札幌医科大学 附属図書館/2-3 福島県立図書館/3 北海道立図書館

1号 (明治6年12月序)

「近世醫說序 明治六年癸酉第十二月」(1表-1裏)【馬島讓】

「緒言 紀元千八百七十三年第十二月」(2表-3裏)【斯地阿兒篤依兒度列智】

「凡例 癸酉第十二月」(4表-5表)【本多公敏】

「近世醫說第一號目次」(6表)

「止痛之說」(7表-11裏)

「虎烈刺毒豫防ノ說」(11裏-13表)

「臍脂肪瘤ヲ診別スル說」(13表-13裏)

「出血ニ依兒護陣ヲ用ユル說」(13裏-14表)

「外科針ヲ假造スル說」(14表)

「耳内他物簞入ヲ去ルノ說」(14表-14裏)

「簡易無害ニ腫瘤ヲ去ルノ說」(14裏-17裏)

「藥種ノ真偽検査ノ說」(17裏-19裏)

「[図]」([20]表-[20]裏) ※皮下注入器、第一～五図

2号 (明治7年5月)

「尿道狹窄ノ說 第一」(1表-7表)

「外科手術ニ血液ヲ消耗セサル說」(7裏-10表)

「指節脱臼ニ用ユル装置ノ說」(10表-10裏)

「石炭油検査ノ說」(10裏-18表)

「止痛ノ說 第二」(18裏-25裏)

「産婆教育ノ說」(25裏-27裏)

「虎烈刺病ニ銅鹽類ヲ用ユル說」(27裏-29表)

「砒石用法ノ說」(29表-30裏)

「喘息ニ用ユル新藥ノ說」(30裏-31表)

「嬰兒ノ下痢ニ酸化亞鉛ヲ用ユルノ說」(31表-31裏)

「痘瘡ニ鹽酸鐵丁幾ヲ用ユルノ說」(31裏-32表)

「直腸内大便ノ蓄積ニ膠ノ挿置藥ヲ用ユルノ說」(32表-32裏)

「梅毒性阿熱幾亞ヲ療スル說」(32裏-34表)

「分娩後出血ニ鹽酸鐵丁幾ヲ注入スル說」(34表)

- 「出血ニ依兒護陣ヲ用ユル説 再出」(34 表-34 裏)
- 「虞里斯林油溶解力ノ説」(34 裏-36 裏)
- 「死体新徴ノ説」(36 裏)
- 「犬ノ心臓及ヒ血管中ニ存スル蟲子ノ説」(36 裏-37 表)
- 「第一號正誤」(37 裏)
- 「[図]」([38] 表- [42] 表) ※第一～十一図

3号 (明治7年9月)

- 「煤毒ノ説 第一」(1 表-17 裏)
- 「格魯布ヲ療スル説」(18 表-20 裏)
- 「石炭酸主治ノ説」(20 裏-23 表)
- 「尿道狭窄ノ説 第二」(23 裏-32 表)
- 「直腸ヨリ腹腔ヲ搜索スル説」(32 表-32 裏)
- 「勞瘵ノ療法ニ肺臓ヲ憩休セシムルノ説」(32 裏-33 表)
- 「新三藥ノ説」(33 表-33 裏)
- 「蓖麻子油服法ノ説」(33 裏)
- 「火葬ノ説」(33 裏-34 表)
- 「新發明陰門鏡ノ圖」(34 表)
- 「第二號正誤」(34 裏)
- 「[図]」([35] 表- [37] 表) ※第一～四図、陰門鏡之図

繪新聞日本地 (1 (明7.6) -/神奈垣魯文)

〈准刻書目〉明治7年5月に「両面摺 出版 神奈垣魯文 目前勸懲ニ關スル要件ヲ略画ニ摸シ傍簡易ノ論詞ヲ填メ童蒙婦女ノ為メニセルモノナリ」とある。〈東京日日新聞〉明治7年6月10日の広告は「繪新聞日本地 毎月二回出板 此小冊ハ英人ワクマン氏ノポンチニ倣ヒ打諷ノ戲畫中寓意ヲ含蓄シ内外勸懲ニ關ル諸件ヲ輯メ江湖好事家ノ看ニ供ス本月中旬初刊ノ發兌ヨリ逐次ノ購求アランヲ冀望ス」としている。本誌については従来2号で終刊したと見られていたが、山口順子「『繪新聞日本地』第三号について」(〈暁斎〉第59号、1998)により、個人蔵の3号の伝存が報告され、その詳細が記されている。また1、2号については、同氏の「明治初期ジャーナリズムのなかの暁斎(一)」(〈暁斎〉第25号、1985)が詳しい。

内務省統計による部数。900 (明治7年7月～明治8年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-2 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新

五洲雜報（1（明7.6）-毎日新聞会社）

〈東京日日新聞〉明治7年6月16日に以下の広告があった。「此書ハ中外各種ノ新聞ニ就テ其最モ奇事美談ニ渉ル者ヲ拾ヒ凡天地万物ノ創見器械技藝農桑牧畜ノ發明等世ニ裨益アル者及ヒ諸家ノ論說譯文世人ノ識見ヲ廣メ才智ヲ益スベキ者ヲ輯録シ毎週之ヲ發兌スベシ四方愛顧ノ君子幸ニ之ヲ購求シ給ハン〔コト〕ヲ冀望ス」 連載されている「西裨雜纂解訳（訳解）」は中村正直の『西裨雜纂』（同人社、1874）の読み下しである。なお、立花光臣「擬住仁安書」は〈郵便報知新聞〉〈日新真事誌〉にも掲載されており、これら二者についてはタイミング的に転載とは考えられず、同時に投稿されていたものと思われる。本誌への掲載は少し遅れるが、刊行ペースの違いによるもので同様に同時投稿されたものか。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：4、8 横浜開港資料館/9、11-17、19-20、22 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治7年6月） 未確認

第2号（明治7年7月） 未確認

第3号（明治7年7月） 未確認

第4号（明治7年7月21日）

「泥格頼問答」★（〔3〕 - 〔9〕）

「貿易ノ進歩ハ運輸ニ関スルノ説」（〔9〕 - 〔11〕）

「〔ゼルマン〕学士〔フエーブル〕女学篇ノ譯」（〔11〕 - 〔16〕）

第5号（明治7年7月） 未確認

第6号（明治7年8月） 未確認

第7号（明治7年8月） 未確認

第8号（明治7年8月17日）

「擬住仁安書第二號 板行及ヒ新聞ノ自由」（〔3〕 - 〔12〕）【立花光臣】

「西裨雜纂解譯」（〔12〕 - 〔16〕）

第9号（明治7年8月24日）

「卮言一則」（〔3〕 - 〔6〕）【無名氏】

「擬住仁安書 第三號 暗殺狙撃」（〔7〕 - 〔14〕）【立花光臣】

「西裨雜纂譯解前號ノ續キ」（〔14〕 - 〔16〕）

第 10 号 (明治 7 年 8 月) 未確認

第 11 号 (明治 7 年 9 月 7 日)

「擬住仁安書 第五號 兵隊為政」 ([3] - [10]) 【立花光臣】

「西史雜纂解譯前號ノ續」 ([10] - [13])

「良心自供」 ([10] - [11])

「待者不快」 ([11] - [12])

「康健有術」 ([12])

「雅量謝過」 ([12] - [13])

「雜話」 ([13] - [16])

「雜ニ寶石」 ([13] - [14])

「慧犬」 ([14])

「校鼠」 ([14] - [15])

「猛虎親情ヲ具フ」 ([15])

「奇事ニ依テ賊ヲ得」 ([15] - [16])

「法ハ一ニ非ス」 ([16])

第 12 号 (明治 7 年 9 月 14 日)

「中村敬字先生合衆國史序直譯 原係漢文」 ([3] - [7])

「静岡縣土族白野夏雲金鑛坑ノ辨」 ([7] - [13])

「[虎烈刺毒]」 ([13] - [15]) 【中目齋】

「西史雜纂譯解」 ([16])

「牛董不娶」 ([16])

「倍根無子」 ([16])

第 13 号 (明治 7 年 9 月 21 日)

「養生小言」 ([3] - [12]) 【岸田吟香】

「西裨雜纂譯解」 ([12] - [16])

「颶風不懼」 ([12] - [13])

「虎方涕泣」 ([13])

「光陰有餘」 ([13] - [14])

「皇帝丐子」 ([14])

「嫠婦鉅商」 ([14] - [16])

第 14 号 (明治 7 年 9 月 28 日)

「養生小言前號之續」 ([3] - [13]) 【岸田吟香】

「阿片始末」 ([13] - [16]) 【岸田吟香】

第 15 号 (明治 7 年 10 月 5 日)

- 「養生小言前號之續」 ([3] - [6]) 【岸田吟香】
- 「阿片始末 前號ノ續」 ([6] - [10]) 【岸田吟香】
- 「日本政府與在留支那人告諭書」 ([10] - [11])
- 「磐溪先生詩有序」 ([11] - [12])
- 「西史雜纂譯解」 ([12] - [14])
 - 「水夫義氣」 ([12] - [13])
 - 「畫工有誼」 ([13])
 - 「賢者欲和」 ([13] - [14])
- 「男女同權ヲ非トスルノ説」 ([14] - [16]) 【無名氏】

第 16 号 (明治 7 年 10 月 12 日)

- 「西洋鷄之事」 ([3] - [4]) 【仁賀保】
- 「烏骨鷄之事」 ([5] - [6])
- 「蘭鷄ノ事」 ([6])
- 「治療法ノ事」 ([7])
- 「養生小言 前號之續」 ([8] - [15]) 【岸田吟香】
- 「西史雜纂譯解」 ([15] - [16])
 - 「光陰諸譬」 ([15] - [16])
 - 「康健之福」 ([16])

第 17 号 (明治 7 年 10 月 19 日)

- 「養生小言 前號之續」 ([3] - [13]) 【岸田吟香】
- 「中村敬宇先生經濟新論序 原係漢文」 ([13] - [16])

第 18 号 (明治 7 年 10 月) 未確認

第 19 号 (明治 7 年 11 月 2 日)

- 「經濟論 前號之續」 ([3] - [7])
- 「紅茶製法書」 ([7] - [14]) 【河瀬^{マツ}秀治】
- 「茶虫ヲ除スル法」 ([14] - [15])
- 「樟腦ノ製法」 ([15])
- 「獸類ノ虫ヲ除スル法」 ([15] - [16])

第 20 号 (明治 7 年 11 月 9 日)

- 「經濟論 前號之續」 ([3] - [9])
- 「死生檢査之節」 ([9] - [12])
- 「西牌雜纂ノ譯」 ([12] - [14])
- 「賢者欲和」 ([12] - [13])

「望留箱底」 ([13])

「多得一子」 ([13])

「一字惱心」 ([13] - [14])

「健康論」 ([14] - [16])

第 21 号 (明治 7 年 11 月) 未確認

第 22 号 (明治 7 年 11 月 24 日)

「經濟論 前號ノ續」 ([3] - [8])

「開拓畧論」 ([8] - [16]) 【相良正勝】

法理雜誌 (1 ([明 7.7?]) -/正明社)

堅い法律雑誌ではなく啓蒙を目的とした雑誌。〈東京日日新聞〉明治 7 年 6 月 8 日に以下の広告があった。「正明社蔵版 法理雜誌 毎月二三号宛逐次發兌定價一冊三錢 這書ハ司法省訴訟庭審判ヲ初メ邦内今昔ノ論説及ビ歐米各國新聞紙等抄譯ノ件々約ソ理論ニ關涉セル見聞ヲ編輯シ聊著者ノ所見ヲモ加ヘ勸懲ノ趣旨尠カラズ既ニ第一號ハ世ニ公ニス次テ刻スルモノ又草稿稍々成テ第五六號ニ至レリ都鄙ノ諸彦机上ニ備ヘバ裨益淺々ナラザルノ書ナリ因テ當舖エ來車ヲ請フ」 なお、ほぼ同文の広告が〈郵便報知新聞〉の同年 7 月 20 日にあり、そちらでは「第一號ハ世ニ公ニス」の箇所にも二号も加わっている。

内務省統計による部数。2,500 (明治 7 年 7 月～明治 8 年 6 月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第 1 号 (明治 7 年 7 月) ※刊行年月は「年表」による。

「第一條」 (1 表-3 表)

「第二條」 (3 表-4 裏) ※欧州牢獄の制

「第三條」 (4 裏-5 裏)

「第四條」 (5 裏-7 裏)

「第五條」 (7 裏-9 表) ※電線に爪を絡ませた小児の処罰

第 2 号 未確認

報国新誌 (1 (明 7.8) -/淡山社)

〈准刻書目〉明治 7 年 10 月に「初編 壹冊 出版土居光華 日本国民并

家禄奉還等ノ事ヲ記載ス」とある。表2におかれた文言には「…毎月兩三度出版スヘシ大凡議論報國ニ關係スル者ヲ記シ人民ノ知識ヲ洞開シ政府ノ旨趣ヲ擴充スルヲ以テ主トセリ…」とある。

内務省統計による部数。600（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：1（WB42-44）

他機関所蔵：2 一橋大学附属図書館 明治文庫（新聞一班のうち）/1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治7年8月）

「日本國民無キノ論」（1表-4裏）【土居光華】

「奉還禄賣買不正ノ論」（5表-9表）

第2号（明治8年12月）

「日本船舶改造セザル可カラザルノ論」（1表-5裏）【土居光華】

「日本人口ナキ論」（5裏-7表）【藤田九二】

「千八百年代佛國政府ト人民ノ情勢（バツクル氏文明史上卷六百六十六枚ヨリ六百六十八枚マテ節訳）」（7表-10裏）【尾見季吉】

報四叢談（1（明7.8）-21（明9.2）/報知社）

仏教啓蒙雑誌の嚆矢といわれる。〈東京日日新聞〉明治7年8月19日に以下の広告があった。「毎月三次發兌小本唐紙摺 第一號既刻 此書ハ四方諸名家ノ正論確説ヲ輯録シ政教ノ理學藝ノ事專ラ智識ヲ暢發シ風俗ヲ釐正スルヲ要トス第一号ハ島地大洲原諸先生ノ論説ヲ載ス江湖ノ君子請フ光顧シ玉ヘ」

1～21号および2、8、14号附録の翻刻が『明治仏教思想資料集成別巻』（同朋舎、1983）にある。詳細については同書の解題にあたられたい。同解題で既に福島寛隆により細目が作成されているが、今回、同書未収の15号附録を含めた細目を新たに作成した。また、第2号附録「十七論題修齊通書」については『明治文学全集87』（筑摩書房、1969）にも翻刻がある。同書における吉田久一の解題に「『教義新聞』は無断で本論を付録として販売し」、それに対して大内青巒が憤慨したと書くが、これは〈教義新聞〉（29頁）ではなく〈美濃教義新聞〉（75～76頁）が正しい。

内務省統計による部数。30,750（明治7年7月～明治8年6月）14,300（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：1-10、15号附録、16、17（WB42-43）

他機関所蔵：1-21 ケンブリッジ大学図書館/1-16 一橋大学附属図書館
明治文庫/1-21 香川大学附属図書館神原文庫/1-10 神戸大学附属図書館
住田文庫 /9-15 附 神戸大学附属図書館住田文庫 /15号附録 筑波大学附
属図書館中央図書館/1-15、18 東京大学法学部附属近代日本法政史料セン
ター明治新聞雑誌文庫/15号附録 東北大学附属図書館/1-12 同志社大学
今出川図書館/15号附録 同志社大学人文科学研究所/2号附録 北海道立
図書館/1-12、14、15、2附、8附、15附 明治仏教史編纂所/1-6 立教
大学新座保存書庫海老澤文庫/1-5 立教大学新座保存書庫大久保文庫

第1号（明治7年8月）

「彝倫終始論」（1表-2裏）【大洲石堂】

「裸體誠論」（2裏-12表）【鳥地縮堂】

「心ノ本體」（12表-13裏）【原鶴巢】

「六種原質」（13表-13裏）

「本編序言」（13裏-15表）【大内青巒】

第2号（明治7年9月）

「臬示律疑問」（1表-3表）【林機】

「心要 前号ノ續 識性ノ純雜」（3表-4表）【原鶴巢】

「讀華盛頓傳」（4表-4裏）【原鶴巢】

「歐米各國宗教畧例」（4裏-8裏）【鳥地縮堂】

「大貌利顛國」（4裏-8裏）

「英倫」（4裏-6裏）

「蘇格蘭」（6裏-7裏）

「愛爾蘭」（7裏-8裏）

「人權論」（8裏-11表）【鳥地縮堂】

※国立国会図書館所蔵の2号は半丁（1頁）13行であるが、東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵本は半丁12行の異本。「心要 前号ノ續 識性ノ純雜」の見出しが「心要 前号ノ續 識性純雜」となっている。

第2号附録（明治7年9月）

「報四叢談第二號附録緒言」（緒言表-緒言裏）【大内青巒】

「十七論題修齊通書」（1表-54表）【鳥地黙雷】

「惣辨次第」（1表-2裏）

「人異禽獸第一」（2裏-6裏）

「不可不學第二」（7表-11裏）

- 「不可不教第三」(11 裏-14 表)
- 「權利義務第四」(14 表-17 表)
- 「文明開化第五」(17 表-18 裏)
- 「萬國交際第六」(19 表-22 表)
- 「皇政一新第七」(22 表-24 裏)
- 「政躰各種第八」(24 裏-27 裏)
- 「皇國國體第九」(27 裏-29 裏)
- 「道不可變第十」(29 裏-34 表)
- 「制可隨時第十一」(34 表-36 裏)
- 「律法沿革第十二」(36 裏-39 表)
- 「國法民法第十三」(39 表-40 裏)
- 「租稅賦役第十四」(40 裏-45 表)
- 「富國強兵第十五」(45 表-49 裏)
- 「產物製物第十六」(49 裏-51 裏)
- 「役心役形第十七」(51 裏-54 表)

第 3 号 (明治 7 年 9 月)

「臺灣生蕃ハ支那ノ属地ニ非ル説」(1 表-14 裏)【林二峰訳】

第 4 号 (明治 7 年 9 月)

「自愛論」(1 表-3 表)【島地縮堂】

「掛念論」(3 表-5 表)【小栗蓮舶】

「教原」(5 表-6 裏)【原坦山】原坦山 = 原鶴巢

「歐米各國宗教畧例 前号ノ續」(6 裏-9 表)【島地縮堂】

「佛蘭西國」(6 裏-8 表)

「自耳義國」(8 表-9 表)

第 5 号 (明治 7 年 11 月)

「讀英國刑律摘要」(1 表-2 裏)【石川舜台】

「自盡論」(2 裏-4 裏)【大洲石堂】

「湯具并風呂敷考證」(4 裏-6 表)【那須香巖】

「歐米各國宗教畧例 前號ノ續」(6 表-10 表)【島地縮堂】※東京大学

明治新聞雜誌文庫所蔵本は「前号ノ續」となっている。

「日耳曼帝國」(6 表-10 表)

第 6 号 (明治 7 年 12 月)

「天降説」(1 表-3 裏)【島地縮堂】

「朋黨新論」(3 裏-6 表)【東櫻所】

「國教論」(6表-7表)【石川舜台】
「宗教略例 前號ノ續」(7表-9裏)【〔島地縮堂〕】
「意大利亞國」(7表-9裏)

第7号 (明治8年1月)

「復活新話」(1表-5表)【島地縮堂】
「王卜政府卜國卜ノ分界」(5表-6裏)【関薦】
「音讀訓讀改制議案」(6裏-9表)【梅森觀了】

第8号 (明治8年1月)

「觀教時様」(1表-14表)【石川舜台撰】
「第一 時様ノ思想」(1表-4裏)
「第二 時様思想ノ謬誤」(4裏-10裏)
「第三 理學卜宗教ノ戰爭」(11表-14表)

第8号附録 (明治8年2月)

「緒言」(表2)【編者】
「三條辯疑」(1表-34表)【島地默雷先生講述/門人某等筆記】
「附 十七論題眞俗鈎鎖」(34裏-41表)
「正誤謝告」(41表-41裏)
「本號既刻 論目總表」(41裏)
「同 近刻」(41裏-42表)

第9号 (明治8年2月)

「復活新話 前號ノ續キ」(1表-5表)【島地縮堂】
「國教論二」(5表-7表)【石川舜台】
「偶像說」(7表-8表)【原鶴巢】
「宗教略例 前號ノ續キ」(8表-9裏)【〔島地縮堂〕】
「西班牙」(8表-9表)
「葡萄牙」(9表-9裏)

第10号 (明治8年3月)

「不易ノ理」(1表-2裏)【原鶴巢】
「語學ノ弊ヲ論ズ」(2裏-7表)【東櫻所】
「宗教略例 前號ノ續キ」(7表-8裏)【〔島地縮堂〕】
「瑞西」(7表-7裏)
「噠」(7裏-8表)
「和蘭」(8表-8裏)
「正誤」(8裏)

第 11 号 (明治 8 年 3 月)

「復活新話 前號ノ續キ」(1-12)【島地縮堂】

「十二縁」(12-19)【原鶴巢】

第 12 号 (明治 8 年 4 月)

「婚姻子女ノ意ニ一任スルノ利害」(1-10)【島地縮堂】

「「マムミーケーション」ノ説」(10-14)【関薦】

「宗教畧例」(15-17)【島地縮堂】

「澳大利亞」(15-17)

第 13 号 (明治 8 年 4 月)

「致知學原始」(1-8)【渥美契縁】

「[評]」(8-9)【石川舜台】

「[評]」(9-10)【島地縮堂】

「精神世界」(10-17)【原鶴巢】

第 14 号 (明治 8 年 5 月)

「西子教門論評説」(1-25)【石川舜台】

第 14 号附録 (明治 8 年 5 月)

「辯護法慨言」(1-16)【井上寂英】

「彈護法慨言」(16-21)【伊川淵思】

「辨造化問答」(21-29)【菅龍貫】

「附言」(29-30)【編者】

第 15 号 (明治 8 年 6 月)

「人權論」(1-6)【鳥尾得菴】

「精神ノ三大政」(6-16)【東櫻所】

「[評]」(16-17)【島地縮堂】

第 15 号附録 (明治 8 年 7 月)

「耶蘇教秘密説」

「耶蘇教秘密説緒言 明治八年三月」(緒言表-緒言裏)【石川舜台】

「耶蘇教秘密説」(1 表-28 表)【石川舜台】

「第一 批斥ノ眞位」(1 表-3 裏)

「第二 秘密ヲ知ルノ地歩」(3 裏-9 裏)

「第三 顯秘ニ教ノ交錯」(9 裏-18 表)

「第四 秘教源流ノ脈路」(18 表-28 表)

「附言」(28 裏-32 裏)【島地縮堂】

第 16 号 (明治 8 年 8 月)

「世界成立説」(1-8)【鳥地黙雷】

「夢説」(9-17)【干河岸貫一】

第 17 号 (明治 8 年 9 月)

「埃及人動物ヲ奉ズルノ説」(1-10)【石川舜台】

「附説」(10-15)【鳥地黙雷】

「金翅鳥王説」(15-16)【原坦山】

「附 金翅鳥王吟」(16-17)

「正誤」(17)

第 18 号 (明治 8 年 10 月)

「津田氏三聖論評」(1-11)【篠塚不著】

「〔附評〕」(11-14)【鳥地縮堂】

「萬法唯心」(14-18)【原坦山】

第 19 号 (明治 8 年 12 月)

「人權論ノ二」(1-6)【鳥尾得奄】

「自由之源」(6-15)【清水益溪】清水益溪 = 鳥地黙雷

「〔編者付言〕」(15-16)

第 20 号 (明治 9 年 1 月)

「禁菓ヲ食セルヲ以テ原罪トスルノ非ヲ論ズ」(1-17)【鳥地黙雷】

第 21 号 (明治 9 年 2 月)

「耶和華小評」(1 表-12 裏)【石川舜台】

「第一 摩西ノ書ヲ評ス」(1 表-3 裏)

「第二 神語ニ依テ其質ヲ評ス」(3 裏-8 表)

「第三 行為ニ據テ評ス」(8 表-12 裏)

評論新説 (1 (明 7.9) -/伊勢屋安兵衛)

2~4 号の表 2 に [小引] あり。

〈東京日日新聞〉明治 7 年 9 月 4 日の 1 号広告には以下のようにあった。
「此書ハ我國ノ諸新聞及ヒ外國ノ事情ニ至ルマデ日々傳聞セル新説奇談ヲ集メ其中ニ就テ尤モ緊要切實ナル [コト] ヲ抄録シテ其是非ヲ論シ可否ヲ評シ古今ノ變革ヲ考ヘ人情ニ基キ政治ニ從ヒ彼ニ偏セス此ニ黨セス陳腐ヲ去リ固陋ヲ脱シ先賢未發ノ理義ヲ陳ヘ其論竟ニ公明正大ニ歸スルヲ要ス事務ヲ知ルノ君子活眼ヲ以活讀セハ其論ノ活ナルヲ知ルベシ」

当館所蔵：1-2、4 (WB42-41)

他機関所蔵：2-3 宮城県図書館/1 群馬県立図書館/1 東京大学経済学部図書館/1 東洋大学附属図書館朝霞分館/1-2 日本大学経済学部図書館

第1号（明治7年9月）

「廢劔論」（1表-2裏）【總生寛】

「信仰論」（2裏-5表）【總生寛】

「藝能論」（5裏-6裏）【總生寛】

「富國論」（6裏- [13] 表）【總生寛】

第2号（明治7年10月）

「耶蘇論」（1表-10裏）【總生寛】

「臺灣支那合論」（11表-19裏）【總生寛】

第3号（明治8年2月）

「支那和議論」（1表- [15] 表）【總生寛】

第4号（明治8年3月27日官許）

「兵法論」（1表-5表）【總生寛】

「民選議院論」（5表-9裏）【總生寛】

「太宰府飛梅論」（9裏-11裏）【總生寛】

「北野遙降松論」（11裏-14表）【總生寛】

「儒道論」（14表-16裏）【總生寛】

成通新書（1（明7.10）-西村隼太郎）

明治7年10月の〈准刻書目〉に「關本寅編輯 每号一冊 出版西村隼太郎 内外ノ諸説ヲ集録セル新聞紙ナリ」とある。ただし、過去の所蔵記録、当時の出版広告の存在が知られないことから、未刊に終わったのではあるまいか。なお、これに先立つ時期の明治7年7月18日、〈郵便報知新聞〉の投書欄に「成通新書 第一号 關本寅」という投稿が掲載されていることが確認できる。

新聞小学（1（明治8.3）-報知社）

内務省統計による部数。2,500（明治7年7月～明治8年6月）

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 東京都立中央図書館（特別買上文庫）/1、3 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

初篇（明治8年3月）※表紙「初編」

- 「當世流行新聞小學の序」（1表）【龜洲道人】
- 「一 農夫吉蔵の孝行」（1表-2表）
- 「二 貞女みうの志節」（2表-4表）
- 「三 娼妓の義心」（4表-6裏）
- 「四 主を救ふ家牛」（6裏-8表）
- 「五 野猿旅人の恩に酌ふ」（8表-10表）
- 「六 矮狗の猫兒に乳せし奇談」（10表-11表）
- 「七 家猫の十二尾」（11表-14表）

第2篇 未確認

- 「八」
- 「九」
- 「十」
- 「十一」
- 「十二」

第3篇（明治8年）

- 「十三 強盜の歸善」（1表-3表）
- 「十四 貞節の寡婦」（3表-4表）
- 「十五 婢僕の誠忠」（4裏-6裏）
- 「十六 廢人の勉勵」（6裏-8表）
- 「十七 腕肉を削りて兄の疾を療す」（8表-11表）
- 「十八 少女の機智」（11表-12裏）
- 「十九 灸をもて我子を殺すの話」（12裏-14裏）

世益新聞（1（明8.2）-9（明9.4）/山口屋佐七）

浅野研真編『佐田介石』（東方書院、1934）は、〈世益新聞〉に見える様々な執筆者について「すべては介石の筆になるものと云つて良からう」としている。

内務省統計による部数。3,320（明治7年7月～明治8年6月）5,015（明治8年7月～明治9年6月）373（明治9年7月～明治10年6月）

当館所蔵：2-7、2附録、4附録（WB43-138）、2附録、4附録、5-7（WB43-138-2）、4附録（WB43-138-3）、2附録（WB43-138-4）

他機関所蔵：1-2、2付録、3-6、8-9 京都大学経済学部上野文庫/2附録、3-4、4附録、6 熊本県立図書館/1-9 香川大学附属図書館神原文庫/1

神戸大学附属図書館住田文庫/6 神奈川近代文学館/2 附録 筑波大学附属図書館乙竹文庫/6-9、2 附録 東京経済大学図書館三橋文庫/1-9 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-8 同志社大学人文科学研究所/4-7 同志社大学文学部文学研究科社会学科研究室/7 同志社大学理工学研究所/1-9、2 附録、4 附録 栃木県立図書館/4 附録 奈良県立奈良図書館/1-9 日本近代文学館/4-9 日本大学経済学部図書館/1、3-9、2 附録、4 附録、7 附録 毎日新聞社新屋文庫/3 明治学院大学図書館九華文庫

第1号 (明治8年2月)

「青砥左衛門蘇生シテ復讐ノ議論ニ及フ事」(1表-5裏)【鶴飼寛】

「醫狐詩狐歌狐書狐俳狐畫狐ノ六狐ノ珍怪事ヲ引テ世人ヲ勸善懲惡ニ趣カシムル事」(5裏-9表)

第2号 (明治8年3月)

「西洋ノ説氣ト風トヲ混シ誤レルヲ駁スル事」(1表-2裏)【佐田拾穂】

「肉眼ニ八種ノ別アルコト方今ノ學者ノ心得タルヘキ事」(2裏-5表)【佐久良襲石】

「開化ヲ解訛トイヘル説世ニ行ハル、ハソノ謂ハレナキニ非ル事」(5表-5裏)

「左傳風馬牛ノ説千載未發ノ事」(5裏-6裏)

第2号附録 (明治8年3月)

「建白緒言 諸寺院連名建白書」(1表-2裏)

「建白條目」(3表-3裏)

「建白」(4表-63表)

第3号 (明治8年4月)

「天耶正謬」(1表-11表)【粟生佩弦居士】

第4号 (明治8年4月)

「天耶正謬後篇」(1表-10表)【粟生佩弦居士】

第4号附録 外國一等天文師ニ疑問スルノ事

「〔緒言〕 明治七年十二月八日」(1表-1裏)【佐田介石】

「星學疑問」(2表-23裏)【佐田介石】

第5号 (明治8年6月)

「大日本大聖傳凡例」(凡1表-凡3裏)

「大日本大聖傳亦名聖德太子索隱」(1表-27裏)【佐田介石】

第5号附録

「自督小寄話」(1表-14表)

「小引」(14表-14裏)【小野正己】

第6号

「同二號附録續篇十七題標目」(1表-2表)

「題言」(2表-2裏)

「同二號附録續篇」(3表-75表)

第7号(明治9年4月)

「須彌地球孰妄論標目」(1表-1裏)

「須彌地球孰妄論」(1表-41表)

第7号附録(明治9年4月)

「僧家須知論」★(1表-[16]表)

第8号(明治9年7月)

「和洋同異論」(1表-16表)

第9号(明治9年7月)

「題言」(表2)

「造酒萬益論一」(1表-12裏)

「造酒萬益論」(13表-17裏)

「南京米ヲ以テ凶荒ノ備ヘニ充ル大害ノ事」(18表-22表)

「桑茶ノ戒メ」(23表-25裏)

「桑茶ノ戒メ第二」(26表-29裏)

「ランプノ戒メ」(30表-38表)

会館記事(1(明8.3)-/[華族]会館)

1986年の『華族会館誌』複製版刊行に際しては、〈会館記事〉の現物を参照できなかったとのことで、同書解説は、本誌を華族会館の活動記録を中心としたものではないかと想定していたが、内容からすれば尾崎三郎による講義を公刊するために発刊されたものとおおしく、華族会館関連記事は附録という形でとりあげられるに留まる。『華族会館誌』によれば、明治8年1月20日に「華族会館記事出板ノ事ヲ府庁ニ請願」し、23日に許可を得、2月26日に大内青巒に印刷させ、3月30日に1号から3号と1号附録の印刷が成っている。ただし、明治大学博物館内藤家文書に含まれる第1号相当の資料は「英國歴史講義第一號」とのみあり、〈会館記事〉の題号による出版が決定する以前に、先行して刊行されていた可能性をうかがわせる。

また、異本も存在するが、それらに関連した記述も見出せない。12号の刊行月の乱れからすれば、14、16号の現物が確認できないのは、万国公法の講義録を掲載する予定で号数をとばして刊行されていたものが、なんらかの事情で未刊のままに終わったものか。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-13、15、17、18、1-5附 学習院大学華族会館旧蔵和漢書/2-5、8、9、1-4附 京都大学附属図書館/4-13、15、17-20、5附 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1、5-8、15、17-20、1-5附 明治大学博物館内藤家文書

第1号（明治8年3月）

「英國歴史講義第一號」〔1〕-〔31〕【尾崎三郎】

第1号附録（明治8年3月）

「華族會館會同始式」（1-7）

「明治八年第一月十九日講義問題答辨試験及第如左」（9-11）

「明治七年十一月二十一日本館講義書改正ニ付尾崎三郎演舌趣旨」（13-22）

第2号（明治8年3月）

「英國歴史講義第貳號」（1-34）【尾崎三郎】

第2号附録（明治8年3月）

「會館會同初講義」（1-23）【尾崎三良】

「同日講義」（24-28）【横山由清】

第3号（明治8年3月）

「英國歴史講義第三號」〔1〕-〔33〕【尾崎三郎】

第3号附録（明治8年3月）

「書籍局建設着手之議」★（1-2）

「論語學而首章講義」（2-8）

第4号（明治8年3月）

「萬國公法講義緒言」（1-7）【尾崎三^マ耶】

「萬國公法之一」（8-22）【尾崎三郎】

第4号附録（明治8年5月）

「華族^マ砭針論」（1-8）【武者小路実世】

「華族一般會館ニ從事セサル可カラサルノ議」（9-14）【滝脇信敏】

「論語學而章講義」（15-23）【永田永^マ孚】

- 「[原書原語學習同志氏名]」(23-24)
- 第5号 (明治8年3月)**
「英國史之四」(1-20)【尾崎三郎】
- 第5号附録 (明治8年6月)**
「刑法志畧」(1-27)【横山由清】
- 第6号 (明治8年4月)**
「萬國公法講義之二」(1-20)【尾崎三郎】
- 第7号 (明治8年4月)**
「英國史之五」(1-18)【尾崎三郎】
- 第8号 (明治8年5月)**
「萬國公法講義之三」(1-21)【尾崎三良訳述】
- 第9号 (明治8年5月)**
「英國歴史講義之六」(1-18)【尾崎三郎】
- 第10号 (明治8年5月)**
「萬國公法講義之三」(1-25)【尾崎三郎】
「正誤」(26)
- 第11号 (明治8年5月)**
「英國歴史講義之七」(1-19)【尾崎三良】
- 第12号 (明治8年7月)**
「萬國公法講義之四」(1-23)【尾崎三郎】
- 第13号 (明治8年6月)**
「英國歴史講義之八」(1-24)【尾崎三郎】
- 第14号 (明治8年)** 未確認
- 第15号 (明治8年6月)**
「英國歴史講義之九」(1-16)【尾崎三郎】
「正誤」([17])
- 第16号 (明治8年)** 未確認
- 第17号 (明治8年8月)**
「英國歴史講義之九*」(1-15)【尾崎三郎】※十の誤記
- 第18号 (明治8年8月)**
「英國歴史講義之十一」(1-18)【尾崎三郎】
「正誤」(19)
- 第19号 (明治8年9月)**
「英國歴史講義之十二」(1-14)【尾崎三郎】

「正誤」(15)

第20号(明治8年9月)

「英國歴史講義之十三」(1-13)【尾崎三郎】

寄笑新聞(1(明8.3) - 11(明8.5) / 寄笑社)

刊行年月は「年表」による。橋爪錦造(梅亭金鷺)編集。月岡芳年画。1号の表2にある梅亭泥夫名義の序は月6回の刊行を予告している。〈東京日日新聞〉明治8年3月22日の広告には以下の様であった。「初号二号三月廿五日發兌 當時の流行を何くれとなく掲げ戯文を以て評論し畫をさへ雜へたる澀き中の甘口新聞馬鹿氣た風味の御笑觀を乞ふ」

1～11号の翻刻が『明治文学全集1』(筑摩書房、1966)にあり、同書に興津要による解題がある。

内務省統計による部数。2,950(明治8年7月～明治9年6月)

当館所蔵：1-11(WB43-184)

他機関所蔵：1-11 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-11 国立国語研究所/1、3 京都大学経済学部上野文庫/1、2 京都大学附属図書館谷村文庫/1 東京大学情報学環・学際情報学府図書室/9 東京大学経済学部図書館/1-11 早稲田大学中央図書館

第1号

「金貸大評議」(1表-8裏)

第2号

「金借手前算」(1表-8裏) ※国会本は8丁を欠く。

第3号

「貸借問答」(1表-8裏)

第4号

「孔子釈迦藏耶蕪八の閉口」(1表-8裏)

第5号

「放庇辨」(1表-8裏)

第6号

「うそ論」★(1表-8裏)

第7号

「のぞき眼鏡歐行論」(1表-8裏)

第8号

「商法論の一」(1表-8裏)

第9号

「商法論の二」(1表-8裏)

第10号

「学もんのすゝめ」★(1表-8裏)

第11号 ※巻首「第十號」と誤植

「士商論」★(1表-8裏)

評論新聞(1(明8.3)-109(明9.7)/集思社)

〈東京日日新聞〉明治8年5月30日の広告には以下の様であった。「此新聞紙ハ普ク奇事異聞及ヒ諸大家ノ建白論説ニ方今有名識者ノ評ヲ并記シタレハ一度之ヲ閲シテ天下ノ實況ヲ知り且智識ヲ開ク豈尋常新聞紙ノ比ナランヤ請フ江湖ノ諸君左ノ弘所又ハ近傍ノ書林ニ御購求アラン〔コト〕ヲ」

『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に神代種亮『『評論新聞』解題』及び、1-3号の翻刻が収められている。また、『自由民権思想 上』(青木書店、1957)に主要論考が翻刻されている。発行禁止処分を受け終刊。後継誌は〈中外評論〉(132~136頁)。

内務省統計による部数。29,885(明治7年7月~明治8年6月)172,287(明治8年7月~明治9年6月)7,455(明治9年7月~明治10年6月)

当館所蔵：1-30、41-109(WB43-79)、1-31、33、34、41-80、91-109(WB43-79-2)、2-5、14、25-35、57、107-109(WB43-79-3)、106(WB43-79-4)

他機関所蔵：55、59、68-70 一橋大学附属図書館 明治文庫(新聞一班のうち)/2-4、6、10、13-22、25-34、37、39-48、52、57、61-62、98-103、105-106、109(欠あり) 京都大学経済学部上野文庫/100、104 京都大学附属図書館谷村文庫/1-39、41-71 熊本県立図書館/1-106 群馬県立図書館/1-109 国立国語研究所/39-43、70-72、77-101、104-109 国立歴史民俗博物館本多家資料/49、61、87 鹿児島県立図書館/1-109(欠あり) 昭和女子大学近代文庫/1-22 神戸大学附属図書館住田文庫/59、67-69 神奈川近代文学館/1-30、43-70、81-109 早稲田大学中央図書館/2-34、89-102、104-106 早稲田大学中央図書館/1-10(欠あり) 大阪府立中之島図書館/92、94-97、99、100、102-109 長崎県立長崎図書館/1-109 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞

雑誌文庫/4、7、8、11、12、14 東洋大学朝霞図書館/52 同志社大学今出川図書館/1-107 同志社大学人文科学研究所/4-109 (欠あり) 内藤記念くすり博物館大同薬室文庫/1、3、8-55、57-96 毎日新聞社新屋文庫/93 明治大学博物館内藤家文書

第1号 (明治8年3月)

「愛國社規則并評」★ (1表-3裏)

「前原一誠誓約書并評」(3裏-4裏)

「古ノ聖王ハ今ノ所謂姦雄ナル論第一 [并評]」(5表-7裏) 【牛山野史】

第2号 (明治8年4月)

「山本克四大臣ヲ斬ントスル建言 [并評]」(1表-6表)

「論印刷自由之權」(6表-7裏) ※目次「英人マコーレー出版自由ノ論譯出并評」

第3号 (明治8年4月)

「東京近事」(1表-1裏) ※目次「板垣参議左大臣ト兵制ヲ論スル話并評」

「加藤弘之國体新論ヲ著シテ紛議生シタル話并評」★ (1裏)

「瀛車中ノ珍説」★ (1裏-7裏) 【記憶屋弘】

第4号 (明治8年4月)

「木戸参議辭表并評」(1表-5表)

「國ノ殷富ハ人口ノ増加セサルニ由ルノ論 [并評]」(5表-8裏)

第5号 (明治8年4月)

「東京近事」(1表-3表)

「木戸公山口縣ニ授産局ヲ開クニ付廣告スル文 [并評]」(3表-4裏)

「婚姻新論 [并評]」(5表-7裏) 【彌堅外史】

第6号 (明治8年5月)

「東京近事」(1表-1裏)

「確議」(1裏-4裏) ※目次「鹿兒島縣有志ノ士集会スル所ノ確議并評」

「前大蔵大輔井上馨君ニ關スル銅山一件ノ投書 [并評]」(4裏-7裏) ※目次「井上馨尾猿沢銅山ノ事件并評」

「金銭ト日間ノ用方ヲ知ラサル話ノ譯文」(7裏)

第7号 (明治8年5月)

「太政大臣ノ名號ヲ廢セントスル上言 [并評]」(1表-3裏) 【兼松成言】

「青森鐵道新築ノ紛議投書 [并評]」(3裏-6表)

「第三號瀛車中珍説ノ衆評餘白ノ都合ニ因リ今此ニ出ス」(6表-7裏)

第8号 (明治8年5月)

「海外近事」(1表-2裏)

「金銀ヲ貸シテ利息ヲ取ルハ商業ニアラサルノ疑問 [并評]」(2裏-4表)

【憑虚居士】

「魁儡之戯 投書」(4表-6表) 【朝陽生】

「[投書の評]」(6裏-7裏)

「聞見表裏スル話ノ譯 [并評]」(7裏)

第9号 (明治8年5月)

「近事」(1表-3裏)

「駭魁儡之戯 [并評]」(3裏-5表) 【無田口巖苗】

「大化ノ碑銘 [并評]」(5裏-7裏) 【雌狸穴道人撰】

第10号 (明治8年5月)

「近事」(1表-1裏)

「緬甸國新聞紙出板ノ醜體 [并評]」(1裏-3裏)

「臺灣一件ニ參與スル諸重官ヲ悉ク退職セシメントスル建言 [并評]」(3裏-7裏)

「歐米小話一篇 [并評]」(7裏)

第11号 (明治8年6月)

「鹿兒島縣學校ノ揭示文 [附言并評]」(1表-2表)

「岡山縣杉山岩三郎建言二通附言并評」★(2表-7表)

「歐米小話一篇 [并評]」(7表-7裏)

「正誤」(7裏)

第12号 (明治8年6月)

「近事」(1表-2表)

「備警兵ヲ設クルヲ乞フ議并評」★(2表-5裏)

「孛國大臣ビスマルク氏将官等ニ稱ヲ命スル議論 [并評]」(5裏-6表)

「英人セリム現時日本貴人ノ風俗ヲ詠スル歌ノ譯 [并評]」(6裏-7裏)

第13号 (明治8年6月)

「近事」(1表-1裏)

「明治四年以來ノ景況ヲ論スルノ投書」(1裏-4表) 【忍岡隱士】

「[投書の評]」(4表-8裏)

第14号 (明治8年6月)

「近事」(1表-2裏)

「太政大臣三條實美公ノ專斷ヲ質スルノ建言 [并評]」(2裏-5表)

「琉球可伐論 投書」(5表-6裏)【烏有郷管窺生】

「[投書の評]」(6裏)

第15号(明治8年6月)

「近事」(1表)

「傀儡戯ノ辨」(1表-2裏)【窪山谷也】

「[評]」(2裏-4表)

「北亞美利加合衆國ノ獨立百年祭博覧會ニ付物品ヲ齎ス可キ各國ノ景況ヲ論ス(費拉特費府新聞ヨリ譯ス)[并評]」(4表-7裏)

「正誤」(7裏)

第16号(明治8年7月)

「近事」(1表-4裏)

「酒田縣ノ景況并評論」★(4裏-6裏)

第17号(明治8年8月)

「近事」(1表-5表)

「津輕ノ景況 前號ノ續 [并評]」(5表-6表)

「土耳其國新聞紙出版ノ事情 [并評]」(6表-7裏)【横瀬文彦訳】

第18号(明治8年8月)

「近事」(1表-2表)

「朝鮮論「ヘラルド」新聞抄譯 [并評]」(2表-6裏)【上條信次】

第19号(明治8年8月)

「近事」(1表-3表)

「英國ノ碩學彌爾氏ノ著述セル代議士政治論ノ中政體ノ取捨ニ限リアルヲ論スル一篇ノ大意 [并評]」(3表-6裏)【横瀬文彦】

第20号(明治8年9月)

「近事」(1表-3表)

「土耳其國衰頽ノ形勢(ヘラルド)節譯 [并評]」(3裏-7裏)【横瀬文彦】

「正誤」(7裏)

第21号(明治8年9月)

「近事」(1表-7表)※目次「近事評論(征韓ノ可否)」

「西洋諸國ニ於テ軍功ヲ賞スル事 [并評]」(7表-7裏)【編者】

第22号(明治8年9月)

「近事」(1表-5裏)

「出版自由ノ説 [并評]」(5裏-6裏)【横瀬文彦】

第 23 号 (明治 8 年 9 月)

「近事」(1 表)

「神田孝平君ニ問フ」★(1 表-7 裏)

第 24 号 (明治 8 年 9 月)

「近事」(1 表-3 表)

「待詔院ヲ設クル論」(3 表-5 表)【岡本純】

「[評]」(5 表-6 表)

「[社告]」(6 表-6 裏)

第 25 号 (明治 8 年 10 月)

「近事」(1 表-2 表)

「朝鮮新報 [并評]」(2 表-6 裏)

「社告」(6 裏)

第 26 号 (明治 8 年 10 月)

「參議某公ノ朝鮮事件ニ付建白ノ大意 [并評]」(1 表-4 裏)

「材能ヲ薦擧スルノ投書 [并評]」(4 裏-6 裏)

第 27 号 (明治 8 年 10 月)

「朝鮮新報 [并評]」(1 表-2 表)

「[佛國政府ノ探偵并評]」(2 表-4 表)

「參議板垣公建白ノ大意并評」★(4 表-6 裏)

第 28 号 (明治 8 年 10 月)

「左大臣島津公建白ノ大意并評」(1 表-4 表)

「横濱新聞編輯長塚原氏律例ヲ犯セシ始末 [并評]」(4 表-6 表)

「洪水ノ説 投書」(6 表-7 表)【岩津友好】

「[投書の評]」(7 表-7 裏)

「社告」(7 裏)

第 29 号 (明治 8 年 10 月)

「近事」(1 表-2 裏)

「近事評論」(2 裏-6 表)

「巡查諸大臣ノ邸ヲ警衛スルノ説 [并評]」(6 表-7 裏)

「社告」(7 裏)

第 30 号 (明治 8 年 10 月)

「島津板垣二氏退職之評論」★(1 表-6 裏)

第 31 号 (明治 8 年 11 月)

「有栖川熾仁公建白ノ大意 [并評]」(1 表-2 裏)

「慶應義塾ノ形況 投書」(3表-4裏)【小松原榮太郎】

「[投書の評]」(4裏-6裏)

第32号(明治8年11月)

「近事」(1表-2裏)

「新橋停車場落書ノ寄書」(2裏-3表)【木下春雄】

「[投書の評]」(3表-5表)

「西國邊ノ景況 [并評]」(5裏-6裏)

「社告」(6裏)

第33号(明治8年11月)

「征韓論 社説」(1表-6裏)

第34号(明治8年11月)

「民權論 社説」(1表-3裏)

「近事」(3裏-6裏)

第35号(明治8年11月)

「近事」(1表-4裏)

「陸軍省ノ征韓論」★(1表-2表)

「島津公ヨリ西郷桐野ノ兩氏ヲ招カル、ノ評論」★(2裏-4裏)

「龍動新聞ノ抄録 [并評]」(4裏-6裏) ※目次「三鞭酒ノ開化話并評」

第36号(明治8年11月)

「琉球藩ヨリ三條公へ嘆願セシ由或人ノ口述 [并評]」(1表-5表)

「征姦論ノ大意并評」★(5表-7裏)

「社告」(7裏)

第37号(明治8年11月)

「近事」(1表-7裏)

第38号(明治8年11月)

「日々新聞社近々更ニ政府ノ御用ヲ蒙ルノ話」★(1表-4表)

「前號ノ餘評」(4表-6表)

「正誤」(6表-6裏)

第39号(明治8年11月)

「琉球へ兵營ヲ設ケラル、ノ話」★(1表-2裏)

「後藤副議長辭表ヲ呈セラル、話」★(2裏-5裏)

「島津公ヨリ三條公ト黑白ノ剖決ヲ望マル、ノ話」(5裏-6裏)

第40号(明治8年11月)

「近事評論二篇」★(1表-1裏)

「國政轉變論并評」★ (1裏-7裏)

第41号 (明治8年11月)

「木戸参議大久保参議ト御議論アリシ話」★ (1表-5表)

「田邊外務大丞無人島へ發足ノ話 [并評]」(5表-6裏)

第42号 (明治8年11月)

「彈藥ヲ船ニテ運送セシ話」★ (1表-3裏)

「懲罰ニ罹ルノ新聞記者列叙」★ (3裏-5表)

「禁獄所新築ノ話」★ (5表-7裏)

第43号 (明治8年12月)

「編輯長刑事課へ呼出サレシ話」★ (1表-2裏)

「琉球藩ノ貴官大臣参議ノ面所ニ於テ歎願セシ話」★ (2裏-6裏)

「正誤」(6裏)

第44号 (明治8年12月)

「鎮臺ヲ盛ニスル話」★ (1表-2表)

「華族家祿奉還ノ話」★ (2裏-4裏)

「朝鮮處分ノ説」★ (4裏-7裏)

第45号 (明治8年12月)

「新聞條例讒謗律ニ付三等侍講西村君ノ見込書」★ (1表-7裏)

第46号 (明治8年12月)

「琉球ヲシテ清國へ應對セシムルノ話」★ (1表-6表)

「島津公ノ殺サレシ流言」★ (6表-6裏)

第47号 (明治8年12月)

「支那人ノ名ヲ以テ日本人書籍ヲ出版スルノ話」★ (1表-3裏)

「木戸参議脳病ノ話」(3裏-6裏)

第48号 (明治8年12月)

「黒田参議特命全權辦理大臣ノ命ヲ拜セラレシ話」★ (1表-6裏)

「伊藤参議及ヒ尾崎三郎君喟嘆セラレシ話」★ (6裏-7裏)

第49号 (明治8年12月)

「三條太政大臣辭表ヲ呈セラレシ話」★ (1表-3裏)

「木戸参議辭表ヲ呈セラレントスルノ風聞」★ (3裏-5裏)

「前号ノ餘評 伊藤尾崎兩君喟嘆大息ノ話」(5裏-6裏)

第50号 (明治8年12月)

「西洋人日本文ノ新聞ヲ編スルノ話」★ (1表-2表)

「山縣陸軍卿念佛講社ヲ結ハレシ話」★ (2表-3裏)

「學者先生于遠卑屈ナルノ論 投書」★ (3 裏-5 裏) 【小松原英太郎】

「[投書の評]」(5 裏-6 裏)

第 51 号 (明治 8 年 12 月)

「前号ノ餘評」★ (1 表-4 表)

「大久保參議木戸參議へ御依頼ノ話」★ (4 表-6 裏)

第 52 号 (明治 8 年 12 月)

「瀛車中ノ珍説第二篇 投書」(1 表-7 表) 【民野清風】

「投集思社新吾關兄案下」(7 表-7 裏) 【同田與可楼】

第 53 号 (明治 8 年 12 月)

「東京府知事轉換ノ話」★ (1 表-3 表)

「芳原火災ノ話」★ (3 表-5 裏)

「井上馨君ノ日本ヲ治ムル計畧ノ風聞」★ (5 裏-6 裏)

第 54 号 (明治 8 年 12 月)

「高杉晋作存命ノ話并評」★ (1 表-5 表)

「西郷陸軍中將勝安房公ト問答ノ話并評」★ (5 表-7 裏)

第 55 号 (明治 8 年 12 月)

「福澤氏ノ文明論絶板サレントスルノ話」★ (1 表-3 表)

「井上馨君黒田君ノ副使ト成ラル、ノ風聞」★ (3 表-4 表)

「黒田公朝鮮へ出立延引ノ話」★ (4 表-7 裏)

第 56 号 (明治 9 年 1 月)

「支那軍艦揚武号ノ横濱へ入港セシ話并評」★ (1 表-5 裏)

「馱遞寮報告預り金ノ事并評」★ (5 裏-7 表)

「社告」(7 表-7 裏)

第 57 号 (明治 9 年 1 月)

「壓制政府ノ自滅スルノ説附評」★ (1 表-3 表)

「井上馨君ハ黒田君ノ副使トナラレ大坂ニ向テ出帆サレシ話附評」★ (3 裏-5 表)

「舊彦根藩士ノ征韓先鋒タランヲ乞フノ話附評」★ (5 表-6 裏)

第 58 号 (明治 9 年 1 月)

「日本政府ハ兵ヲ外國ニ借リテ内國不逞ノ徒ヲ鎮壓セントスルノ話附評」★ (1 表-4 裏)

「大隈參議ハ大臣タルニ愧チサルノ膽量アル話附評」★ (4 裏-6 裏)

第 59 号 (明治 9 年 1 月)

「大政府今春ハ別シテ祝詞ニ警戒ヲ加ヘラル、話附評」★ (1 表-5 表)

「駅通寮官吏中大ニ尺八流行ノ話附評」★（5表-6裏）

第60号（明治9年1月）

「木戸参議頓カニ脳病平癒ノ風聞并評」★（1表-3裏）

「井上馨君ノ黒田君ニ先テ浪華ニ趣カレシハ何故ナルヤノ話并評」★（4表-5裏）

「長ノ前原氏ハ他郷ニ奔走スルノ風説并評」★（5裏-6裏）

第61号（明治9年1月）

「瀛車中ノ珍説第二篇ノ續キ〔附評〕」（1表-6裏）

第62号（明治9年1月）

「壓制政府顛覆スヘキ論〔并評〕」（1表-5裏）【伊東孝二】

「伊藤参議ノ邸ヘ暴客忍ヒ入りタル風説并評」★（5裏-6裏）

第63号（明治9年1月）

「或ル西洋人ノ新聞上ニ賢明ノ二字アルヲ見テ怪ミシ話并評」★（1表-3表）

「報知曙兩社ノ編輯長ハ各禁獄罰金ノ二罪ヲ科セラレ殊ニ報知ノ藤田君ハ腰縛サレテ東京府廳エ引渡サレシ話并評」★（3表-7裏）

第64号（明治9年1月）

「鹿兒島縣ノ景状ヲ論ス 投書〔并評〕」（1表-6裏）【木藤馨】

第65号（明治9年1月）

「鹿兒島縣ノ人ヲ始メ其他數名縛ニ就キシ風説并評」★（1表-2裏）

「自助社員東京ヘ呼出サレシ風説并評」★（2裏-5裏）

「清國ノ聞諜者東京ニ在留スルノ話并評」★（5裏-6表）

「〔支那軍艦揚武號ヨリ詩ヲ送レリノ風説〕」（6裏）

「正誤」（6裏）

第66号（明治9年1月）

「人口増殖ノ開化ニ害アルノ説 投書并評」★（1表-4裏）【元野助六郎】

「采風社編輯長加藤君懲罰ニ罹リシ話并評」★（4裏-6裏）

「正誤」（6裏）

第67号（明治9年1月）

「日本帝囑ニ二大黨派アリテ兩立セサルノ論并評」★（1表-2裏）

「讀元老院改正章程」（2裏-5表）【〔満木清繁〕】

「日本ト支那トノ大關係ヲ論ス」★（5表-6裏）

「正誤」（6裏）

第 68 号 (明治 9 年 2 月)

- 「葡萄牙人が日本政府ノ冒判ヲ以テ金ヲ募リタル話并評」★ (1 表-2 裏)
「當社編輯長小松原英太郎以下三名禁獄ニナリタル話并評」★ (3 表-6 表)
「日本政府ノ官吏中ニ蘭ヲ畫キ碁ヲ圍ム [コト] ガ大流行ノ話并評」★ (6 表-6 裏)

第 69 号 (明治 9 年 2 月)

- 「千葉縣ノ役所トヤラニ盜賊ノ入りシ話并評」★ (1 表-2 裏)
「日本政府ノ保險會社ヨリ金ヲ借ラントスル話并評」★ (2 裏-4 裏)
「外務省ノ野村君朝鮮へ出發ノ話并評」★ (4 裏-6 裏)
「正誤」(6 裏) ※ 67 号「塚野弘道」→「満木清繁」

第 70 号 (明治 9 年 2 月)

- 「新橋邊流行ノ都々一併ニ評」★ (1 表-3 裏)
「三田邊ノ或ル先生變籍ノ話并評」★ (3 裏-5 裏)
「人力車ニ頼ンテ探訪スルノ話并評」★ (6 表-6 裏)

第 71 号 (明治 9 年 2 月)

- 「日本民權論 投書 [并評]」(1 表-3 裏) 【中島勝義】
「華族淺野氏民籍ニ入ラン [コト] ヲ願ヒ出ラレタル話并評」★ (4 表-6 裏)

第 72 号 (明治 9 年 2 月)

- 「風之説 投書 [并評]」(1 表-5 裏) 【日下赫】
「〇〇先生ガ新聞記者ヲ捕ヘントスル話并評」★ (5 裏-7 裏)

第 73 号 (明治 9 年 3 月)

- 「廟堂ニ於テ種々ノ御評議アリシ話并評」★ (1 表-5 裏)
「伊藤井上尾崎ノ三君御談論ノ話并評」★ (5 裏-7 表)
「社告」(7 表-7 裏)
「正誤」(7 裏)

第 74 号 (明治 9 年 3 月)

- 「朝鮮和議ノ電報并評」★ (1 表-6 裏)

第 75 号 (明治 9 年 3 月) ※七十四号と誤って印刷、訂正されている。

- 「靖献社ト立志社ト協同シ島津黨ト西郷黨ト親睦スルノ話并評」★ (1 表-6 表)
「流行ノ都々一併ニ評」★ (6 表-6 裏)
「稟告」(6 裏)

第76号 (明治9年3月)

「鹿兒島縣ニ於テ西郷桐野篠原ノ諸氏會議の話并評」★ (1表-3表)

「水之説 投書 [附評]」(3表-6裏) 【東郷桃太郎】

第77号 (明治9年3月)

「反省説 社説」(1表-4表)

「政府ニ於テ内治ニ御着手ノ話并評」★ (4表-6裏)

第78号 (明治9年3月)

「専制政府ハ其ノ勞苦特ニ甚シク國民ノ意向ニ應シテ政法ヲ改正スヘキノ説 社説」(1表-4表)

「三條公御洋行ノ話并評」★ (4表-6表)

「前假編輯長東清七入獄ノ際寄贈スル所口ノ書」★ (6表-6裏)

第79号 (明治9年3月)

「琉球藩某ヨリ某氏ヘノ話并評」★ (1表-4裏)

「日曜日休暇ノ御布告ニ付評」★ (4裏-6裏)

第80号 (明治9年3月)

「外務卿ノ官宅修築ノ話并評」★ (1表-3裏)

「本年地方官會議開場ノ話并評」★ (3裏-6裏)

第81号 (明治9年3月)

「法律ノ極意 投書」(1表-3裏) 【中尾武村】

「[投書の評]」(3裏-5表)

「近事 [并評]」(5表-6裏)

第82号 (明治9年4月)

「朝鮮修好條規御布告ニ付評」★ (1表-5表)

「西郷隆盛君近作ノ和歌并評」★ (5表-6裏)

「前原一誠君詩并評」★ (6裏)

第83号 (明治9年4月)

「帶刀禁止ノ御布告并評」★ (1表-4表)

「木戸後藤ノ兩公御辭職ノ話并評」★ (4表-6裏)

第84号 (明治9年4月)

「前編輯長關新吾箕作麟群君カ國政轉變論ノ評ニ付大阪裁判所ニ於テ推問答辨ノ話并評」★ (1表-6裏)

「正誤」(6裏)

第85号 (明治9年4月)

「新聞條例追加御見合ノ話并評」★ (1表-3表)

「夢之記 投書」(3表-5表)【大枝美福】

「[投書の評]」(5表-5裏)

「副島種臣君洋行ノ話并評」★(5裏-6裏)

第86号(明治9年5月)

「尾崎井上ノ兩君朝野新聞論說ノ事ニ付上告ノ書面并評」★(1表-4表)

【飯田二一郎】

「警視廳官員微服シテ激徒二十餘人ヲ捕縛セシ話并評」★(4裏-6裏)

第87号(明治9年4月)

「立憲政体勅詔一周回云々并評」★(1表-2裏)

「愛之説 投書」(2裏-5裏)【平木野平左エ門】

「[投書の評]」(5裏-6裏)

第88号(明治9年4月)

「國政轉變論ノ譯者箕作君及ヒ萬國叢話編輯長吉田君ハ何故ニ御沙汰ナキヤノ疑問 投書」★(1表)【青柳盛枝】

「[投書の評]」(1裏-3裏)

「政府ニ於テ華士族ノ禄制ヲ改革セラルヘキ話并評」★(3裏-6裏)

第89号(明治9年5月)

「政府ノ探索方嚴密ニ前原一誠君ヲ視察スル話并評」★(1表-3裏)

「西郷隆盛公ノ踪跡ヲ韜晦セラレタル話并評」★(3裏-5裏)

「陸軍ノ士官服飾ノ事ニ付議論ノ話并評」★(5裏-6裏)

第90号(明治9年5月)

「ジャン、ジャック、ルーソー氏傳 [并評]」(1表-5表)

「近事評論」★(5表-6表)

「勝安芳君ノ話并評」★(6裏)

第91号(明治9年5月)

「戦争ハ國家ニ大益アルノ説 社説」(1表-3裏)

「政府ノ官員ハ「ルーソー」ヲ嫌ハル、話并評」★(4表-6裏)

第92号(明治9年5月)

「讀網鑑易知録 投書 [并評]」(1表-2表)【伊東貞】

「警視廳ニ於テ槍劍ニ達シタルモノヲ吟味セラル、話并評」★(2表-3裏)

「三瀨縣ヘ地租改正ヲ緩ニスヘキ旨ヲ達セラレタル話并評」★(3裏-4裏)

「始皇論 投書」(5表-6表)【長井禁圍】

「[投書の評]」(6表-6裏)

第93号(明治9年5月)

「新聞條例御改正ノ話并評」★(1表-3裏)

「伊藤參議ヨリ大久保參議ヘ物語ノ話并評」★(3裏-6裏)

「正誤」(6裏)

第94号(明治9年5月)

「近事」(1表-3裏)

「前編輯人鳥居小松二子ノ遺稿并評」★(3裏-6裏)

第95号(明治9年5月)

「支那政府ニ於テハ琉球ヲ以テ確乎タル清國ノ所屬ト主張スル話并評」★
(1表-4裏)

「大屋祐義君ガ華族會館ヘ寄セラル、ノ書并評」★(4裏-6裏)

第96号(明治9年6月)

「伊藤參議ニ郵便ヲ以テ御首ヲ懇望シタル話并評」★(1表-1裏)

「大矢祐義君カ華族會館ニ寄贈シタル書并評」★(1裏-6裏)

「正誤」(6裏)

第97号(明治9年6月)

「卑屈政府ハ自滅スヘキノ説 社説」(1表-4表)

「朝鮮人西洋品ヲ擯斥シタル話并評」★(4表-5裏)

「森有禮君於常夫人ノ説ヲ採用セラレタル話并評」★(5裏-6裏)

第98号(明治9年6月)

「自奮説 社説」(1表-3裏)

「バツクル氏文明史抄譯并評 投書」(3裏-6裏)【大塚浅吉】

「公告」(6裏)

第99号(明治9年6月)

「新聞記者獄中ノ詩」★(1表-2裏)

「井上馨君洋行ニ付政府ヨリ特別ニ金ヲ賜ハル話」★(2裏-4表)

「土耳其格ノ義民國王ヲ放逐シタル話」★(4表-6表)

「社告」(6表-6裏)

第100号(明治9年6月)

「政府準備金ヲ使用スル話」★(本文「近事」)(1表-3裏)

「薩土等ノ有志長崎ニ會議スル話」★(本文「近事」)(3裏-5表)

「大隈重信外國人ニ打擲サレシ話」★(5表-6表)

「神明前ノ藝妓書生ヲ壓倒シタル話」★(6表-6裏)

第 101 号 (明治 9 年 6 月)

「山梨縣ノ平民石井君幽閉中窃ニ身ヲ脱シテ縣吏ノ横虐ヲ訴ヘシ話」★ (1 表-4 表)

「佛像持出開帳停止ノ布達」★ (4 表-4 裏)

「香川縣安井君ヨリ本社ヘ寄贈シタル書」★ (4 裏-6 裏)

「正誤」(6 裏)

第 102 号 (明治 9 年 6 月)

「和歌山縣下平民某君^{マツ}全國有志ニ告クルノ書 投書并評」★ (1 表-7 表)

【松柏生】

「東京裁判所ノ法官鬪取りニテ新聞記者ヲ糾問スル話并評」★ (7 表-7 裏)

「正誤」(7 裏)

第 103 号 (明治 9 年 6 月)

「森有禮李鴻章ト應接ノ話并評」★ (1 表-3 表)

「山口縣下ノ平民兩名出京シテ地租改正事務局ヘ歎願セシ話并評」★ (3 表-4 裏)

「東京府ヨリ洋教信者ヲ密索スル話并評」★ (5 表-6 裏)

第 104 号 (明治 9 年 6 月)

「新聞記者獄中ノ詩第九十九号ノ續キ [并評]」(1 表-2 裏)

「支那内地騷擾ノ話并評」★ (2 裏-5 表)

「元佐賀縣北島氏三條實美ト面會ノ話并評」★ (5 裏-6 裏)

第 105 号 (明治 9 年 6 月)

「土耳其廢帝自殺セシ話并評」★ (1 表-2 裏)

「東京府下衰頹ノ近況 [并評]」(3 表-5 表)

「鶴岡縣爭訟一件 [并評]」(5 表-6 裏)

第 106 号 (明治 9 年 7 月)

「六月廿八日淺艸觀世音ニ於テ新聞供養大施餓鬼ノ景況并祭文」★ (1 表-5 表)

「評兮歌 投書」★ (5 表-6 表) 【小藤南湖】

「小島佐羽兩君カ本社ニ寄贈シタル書」★ (6 表-6 裏)

「前假編輯長拘留ニ臨ミ賦スル所ノ詩」★ (6 裏)

第 107 号 (明治 9 年 7 月)

「森有禮ト李鴻章ト應接ノ筆記第一」★ (1 表-6 表)

「藝妓福松ノ來簡」★ (6 表-6 裏)

第108号(明治9年7月)

「森有禮ト李鴻章ト應接ノ筆記前号ノ續キ」(1表-6表)

「西國邊ノ風説并評」★(6表-6裏)

第109号(明治9年7月)

「森有禮ト李鴻章ト應接ノ筆記前号ノ續キ 第二回應接」(1表-5裏)

「太政官第九十八号ノ布達并評」★(5裏-6裏)

三田演説筆記(1(明8.5)/報知社)

マイクロフィルム版『福沢関係文書K12(三田演説会)』リール1に所載。
内務省統計による部数。265(明治7年7月~明治8年6月)350(明治8年7月~明治9年6月)

当館所蔵：1(WB42-45)※13丁欠丁

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 明治文庫(新聞一班のうち)/1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号(明治8年5月24日許可)

「三田演説會舎開館ヲ祝スルノ文」(1表-2表)【小幡篤二郎】

「祝詞」(2表-3裏)【朝吹英二】

「演説館開式ヲ祝スル文」(3裏-4表)【坪井仙太郎】

「祝文」(4裏)【四屋純三郎】

「演説館開筵ノ祝詞」(4裏-6表)【藤田茂吉】

「三田演説會開館ノ祝詞」(6表)【湯川頼二郎】

「三田演説會發開ノ祝詞」(6表-7表)【谷田鼎】

「祝詞」(7表-8裏)【猪飼麻二郎】

「祝文」(8裏-10表)【森下岩楠】

「祝詞」(10表-10裏)【中野松三郎】

「三田演説館開業之祝言」(10裏-11表)【菅沼弦八郎】

「祝文」(11表-11裏)【和田義郎】

「明治八年五月一日三田演説館ノ開館ヲ祝ス」(11裏-12表)【小川駒橋】

「祝文」(12裏-13裏)【松山棟庵】※国会本は13丁を欠く

「明治八年五月一日三田集會所發會ノ祝詞」(13裏-15表)【福沢論吉】

目耕余録(1(明8.5)-9(明8.9)/吉松四郎・島村利助)

〈読売新聞〉明治8年6月3日に以下の広告が見える。「○林董、河津祐

之、山内徳三郎、順次訳述 目耕餘録 當五月より毎月三次出版 這書は歐米群籍中に就て學術技藝の専ら人智を開き世益を興す可き群哲の宏論諸家の名説を抄譯せられたる者にして敢て一家の私論に非ず今既に官許を得て弊舗等之を發兌す希くハ江湖の君子乞ふ電覽し賜へ必らず裨補なくんばあらず」

内務省統計による部数。360（明治7年7月～明治8年6月）226（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：9（WB42-46）

他機関所蔵：1-9 東京経済大学図書館三橋文庫/1-8 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/8-9 法務図書館吾園叢書

第1号（明治8年5月）

「〔緒言〕 明治八年五月」（表2）【知新館】2-9号にもあり

「外國貿易説」（1表-6表）【スチユワルトミル】

「石炭瓦斯ノ質用」（6表-10表）【ユウル】

第2号（明治8年5月）

「政ノ善悪ヲ鑒識スル衡度ノ論」（1表-4表）【スチユワルトミル】

「烟草」（4表-9裏）【ドクトルユウル】

第3号（明治8年6月）

「紙幣論」（1表-4裏）【スチユワルトミル】

「政之善悪ヲ鑒定スル確度ノ論 前號ノ續」（4裏-9表）

第4号（明治8年6月）

「紙幣論（前號ノ續）」（1表-4裏）

「〔キユルク〕 樹 フラソコノ口木」（4裏-5裏）

「石炭」（5裏-9表）

第5号（明治8年6月）

「征税ノ法及ビ公餉ノ額ト自由ノ權トノ關係ヲ論ズ」（1表-5表）【モンテスキウ】

「鍔」（5表-10表）【チャンブル】

第6号（明治8年7月）

「民有政權論」（1表-5表）【林董】

「女權ト氣候トノ關涉ヲ論ス モンテスキウ」（5表-9表）【河津祐之】

第7号（明治8年7月）

「政ハ一種ノ學術タルノ論 ヒューム」（1表-3表）【林董訳】

「溝渠ノ説 チヤンプル」(3表-6表)【山内徳三郎訳】

「石炭 チヤレス、トムリンソン(前號ノ續)」(6裏-8裏)【山内徳三郎訳】

第8号(明治8年8月)

「自由論 モンテスキウ」(1表-2裏)【河津祐之訳】

「英國憲法ノ眞理(自由論ノ續キ)」(2裏-4表)

「分勞法 アタムスミット」(4表-7表)【林董訳】

「猿ト海豚トノ話 ラホンテーヌ」(7表-7裏)【河津祐之訳】

第9号(明治8年8月)

「保護貿易論 彌兒經濟論」(1表-3裏)【林董訳】

「英國憲法ノ眞理 モンテスキウ(前号ノ續キ)」(3裏-5裏)【河津祐之訳】

「農事 里以氏地質書」(6表-8裏)【山内徳三郎訳】

教門雑誌(1(明8.6)-4(明8.11)/大内青巒)

〈読売新聞〉明治8年5月28日に以下の広告が見える。「此書ハ宗教を興し朝政を補はんが爲にとて東西本願寺の碩得なる島地黙雷、石川舜台等の諸先生を始めとして同盟数十人會集討論せらるゝ眞成社の雑誌にて専ら佛教の正理即ち真俗ニ諦の妙旨を論じられたるものにして其文ハ概平生常用の言を以しまゝ漢字の雜れるハ尽く假名を施したれば老若婦女子も皆容易く読むことを得て啻に彼佛法の理諦を知ることを得るのみならず大に身を修め家を斉ふるの裨益とならん江湖の徳行ひに志あらん人ハ必ず讀むべきの良書なり」

内務省統計による部数。3,150(明治7年7月~明治8年6月) 4,150(明治8年7月~明治9年6月)

当館所蔵：2(WB42-35)

他機関所蔵：2附録、4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/2附録 立教大学新座保存書庫大久保文庫/1 龍谷大学学術情報センター大宮図書館

第1号(明治8年6月)

「教の心得」(1表-4裏)【島地黙雷】

「行状を善くする方」(4裏-9表)【石川舜台】

「開化論の一」(9表-11裏)【渥美契縁】

「教門雑誌を編輯するの序 明治八年五月十六日」(11 裏-14 表) 【大内青巒】

第 2 号 (明治 8 年 6 月)

「現世祈の愚なる話」(1 表-4 表) 【渥美契縁】

「自由と我儘との差別」(4 表-7 裏) 【島地黙雷】

「縦意のいましめ」(7 裏-11 表) 【石川舜台】

「第一號正誤」(11 表-11 裏)

第 2 号附録 (明治 8 年 6 月)

「十七論題眞宗説教畧辯」(1 表- [50] 表) 【渥美契縁口述/門生某等筆記】

「第一會 皇國々體」(1 表-4 表)

「第二會 道不可變 制可隨時」(4 表-7 裏)

「第三會 皇政一新」(7 裏-10 裏)

「第四會 人異禽獸」(10 裏-14 表)

「第五會 不可不學」(14 表-17 裏)

「第六會 不可不教」(17 裏-20 表)

「第七會 萬國交際」(20 表-23 裏)

「第八會 國法民法 律法沿革」(23 裏-26 裏)

「第九會 租稅賦役」(26 裏-30 裏)

「第十會 富國強兵」(30 裏-33 裏)

「第十一會 産物製物」(33 裏-37 表)

「第十二會 文明開化」(37 表-40 表)

「第十三會 政體各種」(40 表-43 表)

「第十四會 役心役形」(43 表-46 裏)

「第十五會 權利義務」(46 裏-49 裏)

「附言」(49 裏- [50] 表)

第 3 号 (明治 8 年) 未確認

第 4 号 (明治 8 年 11 月)

「開化論の二」(1 表-3 表) 【渥美契縁】

「心の改正する説の一」(3 表-9 表) 【篠塚不着】

筑摩県師範学校報告 (1 (明 8.6) /筑摩県師範学校)

見出しがないため細目は作成せず。筑摩県は明治 4 年 11 月、旧信濃国の高島、松本、高遠、飯田、伊那と旧飛騨国(高田県)が合併して成立し、明治 9 年 8 月まで存在した。同誌は明治 8 年 6 月の 1 号のみ存在が知られ

る。『岐阜県教育史 史料編 近代1』（岐阜県教育委員会、1998）に翻刻が収められている。

当館所蔵：1（WB42-38）

他機関所蔵：1 岐阜県歴史資料館飛騨郡代高山陣屋文書

万国叢話（1（明8.6）-3/報知社）

各号の表2に以下の小引が見える。「我儕讀諸ノ際各自會心ノコトアル毎ニ抄譯シ筐底ニ藏セシモノ亦尠ナカラス 因テ此冊子ヲ編輯スルノ擧アリ其故ハ空シク蠹腹ニ飽カシメンヨリハ寧ロ世人ノ一看ヲ博セント欲スレハナリ然レ〔ドモ〕隨讀而抄ナレハ事固リ次序ナク説或ハ支吾スルコト間アルベシ但其是非ヲ決スルハ輿論ニアルノミ 明治八年六月」『明治文化全集19』（日本評論社、1992）に、尾佐竹猛「『万国叢話』解題」及び翻刻が収められている。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-3 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治8年6月）各号表2に〔小引〕あり

「千八百七十五年二月二十五日國會議院ニ於テ決定セシ佛蘭西共和政治ノ憲法」（1表-3裏）【箕作麟祥訳】

「當世ノ急務」（3裏-6表）【鈴木唯一訳】

「貞潔ヲ守ル可キ説」（6表-9表）【箕作秋坪訳】

「寢寐」（9表-10裏）【蘭鑑訳】

第2号（明治8年10月）

「國政轉變ノ論」（1表-5表）【箕作麟祥訳】

「政体取捨有限論」（5表-7表）【鈴木唯一訳】

「子ヲ教育スルハ父母ノ役ノ説」（7表-8裏）【川本清一訳】

「新發明新工夫ノ怪シマレ直ニ世ニ行レサル説」（8裏-10裏）【川本清次郎訳】

第3号

「政府ト新聞紙ノ説」（1表-4表）【箕作麟祥】 ※右ハアーサー、ヘルプス氏ノ著書「ザウツ、アポン、ガウルメント」中ヨリ抄訳ス

「西洋古今學變ノ概畧一」（4表-7裏）【鈴木唯一訳】

「勞動ハ身ニ弊害アル説」（7裏-11裏）【乙骨太郎乙】 ※チャールスナイ

一氏著ノーレーゲイスポーウルヨリ訳出

中外医事新聞 (1 (明 8.6) - 4 (明 8.8) /坪井信良)

内務省統計による部数。100 (明治 7 年 7 月～明治 8 年 6 月) 300 (明治 8 年 7 月～明治 9 年 6 月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-4 金沢市立玉川図書館近世史料館蒼龍館文庫/1-4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第 1 号 (明治 8 年 6 月)

「緒言 一千八百七十五年五月」(1 表-6 裏)【ウ井ルリアムアンデルリ^マン】

「日本風土病ノ説」(6 裏-8 表)【カンデンソン】

「呼吸困難症莫爾比涅皮下注入法治験」(8 表-9 裏)

「胸壁内薬液注入法」★(9 裏-10 裏)

「乳癌ニ前行スル乳暈病ノ説」(10 裏-13 裏)【ヂエームス、ベーチエト】

「水ノ功用説」(13 裏-18 表)【アンデルソン】

第 2 号 (明治 8 年 7 月)

「安塚兒孫氏薬物學大意總論」(1 表-3 裏)

「大腿骨斷折伸展装置」★(4 表-7 表)

「深創動脈止血法」★(7 表)

「ヂャボランヂ 新薬」(7 表-8 表)

「硫化炭素」(8 表-8 裏)

「エルテル氏ヂフス井リア治法」(8 裏)

「間歇熱ノ冷期ニ吐薬ヲ用フルノ説」(9 表)

「急性癩麻質治法」★(9 表-9 裏)

「肝臓官能病治法」★(9 裏-16 表)

「第一號校正遺漏」(16 表)

第 3 号 (明治 8 年 8 月)

「薬物學大意總論 前号ノ續」(1 表-6 裏)【アンデルソン】

「肝臓官能病療治 前号ノ續」(6 裏-11 表)【モルチソン】

「乳房瘤腫ノ監法」(11 裏-16 裏)

「コロ、ホルム功用説」(16 裏-18 裏)【アンデルソン】

第4号 (明治8年8月)

「コロ、ホルム吸入効績 前号ノ續」(1表-5裏)

「藥物學大意總論 前号ノ續」(5裏-8裏)

「安埵兒孫氏亞爾箇兒ノ説」(8裏-12裏)

「腹腔ノ解剖的諸部ノ區分」(12裏-18裏) 【安埵兒孫】

立憲記事 (1 (明8.7) -3 (明8.12) /東京書林)

現存が確認できなかった雑誌の一つ。〈東京日日新聞〉明治8年7月23日の広告には以下の様であった。「中島翠堂編輯 立憲記事 洋紙兩面 定價六錢五厘 小冊十五葉ヨリ廿葉ニ止 追次出版 此書ハ元老院記事大審院審判地方官會議ノ議事及ビ憲法上ニ關涉スル建白等ヲ集録シ索引ノ為メ各部ヲ分チ日ヲ逐テ卷ヲ重子一大部ニ至ル後ノ今ヲ見ルモ又緊用ノ書也且左右エ片假名字ヲ附シテ幼童ノ便ニ備フ乞看客近傍ノ書肆ニテ購求アラン [コト] ヲ 七月廿二日 第一号發兌 東京書林 同紙9月29日に2号の、12月15日に3号の發兌広告が見える。

内務省統計による部数。1,230 (明治8年7月~明治9年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：不明

雅俗日新録 (1 (明8.9) -10 (明8.?) /可以觀)

11号 (明治8年10月31日) より〈雅俗新聞〉と改題。見出しがないため細目の作成は行っていない。

内務省統計による部数。160,281 (明治8年7月~明治9年6月) 1,058 (明治9年7月~明治10年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-6、8-10 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫

講筵雜誌 (1 (明8.9) -2 (明8.12) /東京府下病院)

坪井信良の編集した医学雑誌。御雇外国人教師満任 (Manning, Charles James) の講義記録。岩崎鐵志「山内裕雄氏寄贈医書目録考」(〈静岡県立大学短期大学部研究紀要〉第13巻第1号、1999) で紹介されている。明治8年12月14日〈東京日日新聞〉に以下の広告があった。「講筵雜誌月々出版 卷數不定 北地清一口譯 坪井信良編輯 東京府下病院御備英國外科教師

マンニング先生日々講述スル所ノ醫學ニ關涉スル論説并ニ病床講義等ヲ編輯スル書ナリ刀圭家之ヲ熟讀セバ難病痼疾ヲ療スルニ臨テ大ニ感悟スル〔コト〕アラン 明治八年十一月 東京馬喰町二丁目書林 英蘭堂 島村利助謹白 2号の広告が、同紙明治9年3月20日に見えることから、現物の表記と実際の刊行時期にはずれがあるものと思われる。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-2 静岡文化芸術大学

第1号（明治8年9月）

「東京府下病院医員諸君ニ告ク」（1表-16表）【満任】

「〔予告〕」（16表-16裏）

第2号（明治8年12月）

「サイムス氏髁関節截斷法講義」（1表-14表）【満任/北地清一訳】

会館雑誌（1（明8.10）-8（明9.？））/華族会館

明治8年10月、天皇の臨幸を記念して発刊された華族会館の館報。見出しがないため細目の作成は行っていない。1～8号の影印復刻が霞会館より1995年に刊行されている。同誌の詳細については、同書に収められた大久保利謙「解題 華族会館の発端と『会館雑誌』」を参照されたい。明治9年〔6〕月より版型の異なる同題の雑誌が刊行されているが、終刊は不明。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-8 山梨県立図書館/1-4、6；1-6、8 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫（後者が明治9年〔6〕月より刊行された同題の雑誌）/1-4 明治大学博物館内藤家文書

医院雑誌（1（明8.11）-11（明9.12））/東京医学校

当館所蔵：1-6、8、10、11（WB42-33）、1-6、8、10、11（WB42-33-2）

他機関所蔵：1-2、4-11 岩手医科大学附属図書館/5-10 京都府立医科大学附属図書館/1-11 金沢大学附属図書館医学部分館/1-9 東京大学医学図書館 医学史料室/1-11 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-5、7-11 北海道大学医学研究科・医学部図書館

卷1 (明治8年11月)

- 「緒言 明治八年十一月」(1-[2])【佐々木東洋】
「心臟病體解剖」(1-13)【永坂周二】
「肋膜炎治驗」(15-27)【佐藤啓政】
「辜丸硬腫摘出治驗 [附図]」(29-54)【長谷川漣堂】

卷2 (明治8年12月)

- 「卵巢囊腫截除ノ治驗」(1-43)【小林恒】
「沕氏卵巢囊腫ノ説 四月二十四日」(35-43)
「下顎及舌實扶の利質私治驗」(45-63)【三瀨謙三】
「卷之一 正誤」

卷3 (明治9年1月)

- 「膝膈動脈之跳血囊治驗 [附図]」(1-42)【安藤正胤】

卷4 (明治9年2月)

- 「肺炎症局所冷搦法ノ説及ヒ治驗三則」(1-20)【長谷川元良】
「小兒加答爾性 [肺] 炎ノ治驗」(21-26)【中村良益】
「慢性腎臟炎尿毒症之驗」(27-52)【原田豊】
「卷之二 正誤」

卷5 (明治9年3月)

- 「乳房腺腫截除術治驗」(1-14)【山崎元脩】
「繆氏外科手術麻醉用法畧論 [附図]」(15-66)【山崎元脩】

卷6 (明治9年4月)

- 「層障眼ノ治驗 [附図]」(1-25)【安藤正胤】
「小兒慢性下利治驗」(26-33)【佐藤啓政】
「小兒反射痙攣症治驗」(34-40)【里見義恭】
「小兒陰囊腸癰治驗」(41-53)【長谷川漣堂】
「卷之五正誤」

卷7 (明治9年5月)

- 「骨様肉腫截斷術ノ驗 肉腫説」(1-17)【三浦義純】
「附肉腫説 [附図]」★ (18-46)
「卷之七 正誤」

卷8 (明治9年6月)

- 「脚氣症病屍解剖」(1-28)【岡玄脚】
「梅毒性辜丸炎治驗」(29-36)【長谷川元良】
「新製電器焼截子宮内纖維瘤之治驗」(37-52)【小林恒】

「直腸脱兼インワギナチオン焼灼療法治験」(53-66)【難波一】

「〔附図〕」

「卷之七 正誤」

卷9 (明治9年7月)

「義膜咽喉炎氣管截開術ヲ施スノ治験」(1-19)【菅野順】

「腹水症穿腹術ヲ施スノ治験」(21-37)【渡辺悌二郎】

「〔附図〕」

「卷之八正誤」

卷10 (明治9年8月)

「急性膝關節癱瘓質斯治験」(1-29)【山崎元脩】

「亞急性肺炎治験」(31-65)【桜井郁二郎】

「卷之九正誤」

卷11 (明治9年12月)

「半産后子宮不全収縮兼出血症治験〔附図〕」(1-13)【小野敦善】

「尿道狹窄兼尿閉症施術法及ヒ胃腸出血死後剖験」(15-34)【永坂周二】

「附言〔撒利質里酸効用〕」(35-39)【山崎元脩】

「卷之十正誤」

開化之葉 (1 (明 8.11) - 9 (明 9.3) /公明社→清蓮社)

開化の世を啓蒙することを目的に、冒頭に心得となる官令を掲げ、談話等を付す形式で刊行された。

内務省統計による部数。8,500 (明治8年7月～明治9年6月)〈新聞輯要開化ノ葉〉と表記。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：7 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち) /1、4、8 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号 (明治8年11月)

「〔緒言〕」(表-裏)【公明社】

「東京府第四十一號」(1表)

「内務省乙第二百二十四號」(1表-1裏)

「東京府第四十二號」(1裏)

「惜陰の談話」(2表-7表)

「記事」(7表-9表)

第2号 未確認

第3号 未確認

第4号 (明治8年12月)

「〔緒言〕」(表-裏)【清適社】

「大政官第百四十八號」(1表)

「司法省布達」(1表-1裏)

「談話 男女之權を論じ并に女子の心得方の話」(1裏-5裏)

「雜報」(5裏-9表)

「社告」(9表) ※公明社→清適社への改号を伝える

第5号 未確認

第6号 未確認

第7号 (明治9年1月)

「報告 明治八年十二月十六日 清適社」(1表)

「太政官達第百九十三号」(1表-1裏)

「談話」(2表-6表)

「雜説」(6表-8表)

第8号 (明治9年1月)

「大政官第一號」(1表-2表)

「談話」(2表-5裏)

「雜説」(6表-8表)

第9号 未確認

信敬雜記 (1 (明8.11) -9 (明9.9) /信敬社)

内務省統計による部数。2,400 (明治8年7月~明治9年6月) 300 (明治9年7月~明治10年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち) /6-9
東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雜誌文庫

第1号 (明治8年11月30日)

「官省布達」(1表-2表)

「教部省録事」(2表-3表)

「天台宗大教院録事 策進會縁起序」(3表-3裏)

「該社記事」(3裏-5裏)

「法教議論」(5裏-8裏)

「雜事報知」(8裏-10裏)

第2号 未確認

第3号 未確認

第4号 未確認

第5号 未確認

第6号 (明治9年2月22日)

「〔小引〕」(表2)【西濱正熙】※7、8号も同じ

「教部省録事〔四通〕」(1表-2裏)

「法教議論」(2裏-8裏)

「眞宗大胸塊答辯 前号ノ續」(8裏-11表)

第7号 (明治9年2月29日)

「教部省録事〔四通〕」(1表-1裏)

「天台宗大教院録事」(1裏-2表)

「法教議論 駁唐笠眞藏氏排神論」(2表-8裏)

「投書」(8裏-9表)

「正誤」(9裏)

第8号 (明治9年3月15日)

「教部省録事〔二通〕」(1表-1裏)

「教法議論」(1裏-6裏)

「雜報」(6裏-8裏)

第9号 (明治9年9月2日)

「法教議論」

「入法界論」(1-20)【西濱居士正熙】

「正誤」(20)

第9号附録 (明治9年9月)

「照魔鏡 一名心性實驗録辨妄」(1表-15裏)【松林了英】

郵便月報 (馭遞寮)

「年表」には「此年初春創刊 廢刊未詳」とある。明治新聞雜誌文庫に、明治8年11月分から明治9年3月分までを合綴したものがあがるが、8年11月分、12月分は通しの丁付となっている。見出しがないため細目の作成は行っていない。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：7年（11-12月）、8年（1-3月） 東京大学法学部附属近代
日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

明七雑誌（1（明9.1）—3（明9.3）/衆医会議所）

高松で刊行された医学雑誌。参考文献として石田純郎「明七雑誌について」（〈日本医学史雑誌〉第29巻第4号、1983）がある。

内務省統計による部数。287（明治8年7月～明治9年6月）

当館所蔵：なし

他機関所蔵：2 高松市歴史資料館（寄託）

第1号（明治9年1月） 未確認

第2号（明治9年2月）

「天然痘再感疑問」（1表-2裏）【松山松斎】

「牛乳用量問題」（2裏-3表）【森島鼎三】

「牛乳用量問題答辨」（3表-4表）【中桐絢海】

「蛋白尿病治験疑問」（4表-7表）【山崎千仞】

「尿中糖分及蛋白質試験法」（7表-10裏）【広田静逸】

「寄生動物略説」（10裏-17裏）【中桐絢海】

第3号（明治9年3月） 未確認

※なお「明七義塾開校説」という小冊子があり、これが〈明七雑誌〉の第1号と言いつたえられて、2号とともに高松市歴史資料館に寄託されているが、その正否は不明である。参考のため以下にその細目を挙げる。

明七義塾一二衆醫者會議所開校説

「開塾之説」（1表-3表）【柏原謙益】

「明七義塾開業之説」（3表-6表）【中桐絢海】

「祝明七義塾開業席」（6表-7裏）【安藤愿立】

「明七義塾開筵祝詞」（7裏-8裏）【山崎千仞】

「明七義塾記」（8裏-9裏表）【山崎翠】

「明七義塾ノ開筵ヲ祝ヒテ [短歌]」（10表）【操】

講学余談（1（明9.2）-2（明9.4）/共和舎）

東京開成学校（後の東京大学）の学生による研究発表雑誌。〈東京日日新聞〉明治9年2月25日の広告には以下の様であった。「該書ハ東京開成學

校法律、理化、工業學専門ノ生徒中研學ノ餘暇ヲ以テ私ニ小會ヲ開キ各專務トスル學術技藝上ノ所見ヲ演說辨論スルモノ、中尤モ世ニ益アルモノヲ請得テ編纂シ毎月二三回發兌スルモノナレハ其所述高尚ニシテ又珍說ニ乏シカラス蓋シ通常世ニ播布スル雜誌ノ如ク風俗時勢論ニノミ偏固シテ有要ナル理化學等ノ說ニ吝ナルモノ、類ニ非ルナリ右ハ出版ノ都度各所ノ書肆ニテ發賣致シ候間冀クハ江湖ノ諸君子實見ノ上其誣言タラサルヲ證シ賜ハン〔コト〕ヲ」 後年にも同題の雑誌が刊行されており、内務省統計はそちらを含んだものか。

内務省統計による部数。1,400（明治8年7月～明治9年6月）2,184（明治9年7月～明治10年6月）

当館所蔵：1-2（WB42-36）

他機関所蔵：1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治9年2月）

「緒言 丙子二月」（表2）【講学同志】

「飲酒ノ利害付日本酒中ノ酒精分量」（1表-3裏）【杉浦重剛】

「泰西讒謗律ノ解」（4表-7裏）【入江陳重】

「橋梁之部 釣橋〔附図〕」（8表-10裏）【関谷清景】

第2号（明治9年〔4〕月）

「刑罰論」（1表-4裏）【向坂兌】

「烟草毒ノ説」（4裏-※）【久原躬弦】※国会本は7丁を欠く

「理學ノ勸」★（※-11裏）【※】

集論新聞（1（明9.2）-7（明9.7）/集論社）

諸新聞の論説の再録を中心とした新聞。見出しがないため細目の作成は行っていない。

当館所蔵：2-5（WB43-192）

他機関所蔵：1-7 神奈川近代文学館/1-5 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

真宗説教叢録（1（明9.2）-/静霞堂）

『明治仏教思想資料集成 第4巻』（同朋舎、1980）に翻刻及び柏原祐泉による解題がある。明治10年にも刊行されているといわれるが、現存が確

認できないため、今回あえて細目を収録している。

内務省統計による部数。6,350（明治8年7月～明治9年6月）4,067（明治9年7月～明治10年6月）。〈説教叢録〉と表記

当館所蔵：1-5（YDM18519）

他機関所蔵：1、3、5 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治9年2月）

「〔緒言〕 明治九年二月」（表2）【渥美契縁】※2号以降にもあるが略す

「玄義分弘願釋」（1表-5裏）【渥美契華】

「唯信鈔文意」（5裏-8裏）【福田覚城】

第2号（明治9年3月）

「信後の掟」（1表-4裏）【岳崎正鈍】

「二帖目第三通一念多念釋」（5表-7表）【福田覚城】

第3号（明治9年4月）

「因果の説」（1表-5表）【樋口龍温】

「二諦相資の説」（5表-10表）【広陵了栄】

第4号（明治9年8月）

「大經三毒段之文意」（1表-5表）【白川慈撰】

「懲役場監内説教之概畧」★（5表-8裏）【大岡良然】

第5号（明治9年9月）

「光明寺和尚三信釋」（1表-5裏）【渥美契縁】

「二諦相資の續」（5裏-9裏）【広陵了栄】

東洋紀聞（1（明9.2）-2（明9.3）/橋爪源太郎）

東京開成学校（後の東京大学）の学生を中心とした、東洋の制度風俗物産工芸を対象とする研究発表雑誌。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-2 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治9年2月）

「東洋紀聞小引 明治九年二月」（表2）【東洋会社員】2号にもあり

「尾去澤銅山之記」（1表-6表）【和田維次郎】

「綿花本邦ノ固有産ニ非ノ説」(6表-9表)【鳥居忱】

第2号(明治9年3月)

「支那國及第法源因并沿革」(1表-9表)【中田敬義】

湖海新報(1(明9.3)-15(明9.7)/参仝社)

〈東京日日新聞〉明治9年5月31日の広告には以下の様であった。「此新聞ハ民權ヲ拡充シ國權ヲ伸張スルノ論說ヲ本トシ且ツ目下ノ要件及ビ珍談奇話ヲ掲ゲコレニ評論ヲ加ヘタル一種無類ノ新聞ナリ伏テ江湖諸君ノ一覽ヲ乞フ」発行禁止処分を受けて終刊した。後継誌は〈江湖新報〉。

内務省統計による部数。13,600(明治8年7月~明治9年6月)

当館所蔵：1-14(WB43-197)、2-14(WB43-197-2)

他機関所蔵：1-2、4、7、9-10、13-14 京都大学経済学部上野文庫/1、4-6、9、11-14 京都大学附属図書館谷村文庫/3-10 鹿児島県立図書館/1-10 昭和女子大学近代文庫/1-15 早稲田大学中央図書館/1-15 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/3-10 同志社大学人文科学研究所/7、9、10、13 日本近代文学館/9-12、14 立教大学新座保存書庫大久保文庫/9-15 立命館大学 衣笠 文学部/1-15 龍谷大学学術情報センター長尾文庫

第1号(明治9年3月)

「宇内ノ大勢ヲ論ス 社説」(1表-3裏)

「清國政府兵備ヲ整頓スル話並評」★(3裏-5表)

「國家ノ大事ハ外交ト理財トニアル論 投書」(5表-7表)【春野盛哉】

「[投書の評]」(7表-7裏)【山田精一郎】

第2号(明治9年3月)

「壓制政府ノ景況ヲ論ス 社説」(1表-3裏)

「李國宰相「ビスマルク」病中ノ話并評」★(3裏-5裏)

「政府ニテ帯刀ヲ禁スル御評議アリシ話并評」★(5裏-6裏)

第3号(明治9年4月)

「國法ノ本旨 社説」(1表-3裏)

「櫻田義舉十七士ノ祭奠アリシ話并評」★(3裏-4裏)

「廢刀ノ令ニ付テ西國邊ニ沸騰スル話并評」★(4裏-6表)

「鳥津久光公鹿兒島へ赴カル、話并評」★(6表-6裏)

第4号 (明治9年4月)

「自由説 社説」(1表-3裏)

「支那政府論者ヲ殺ス話并評」★(3裏-4裏)

「魯國ニテ樺太ニ屯田兵ヲ増ス話并評」★(4裏-5表)

「鹿兒島縣下學校ノ生徒暴動ノ話并評」★(5裏-6表)

「前原一誠氏長崎ニテ大會議ヲ催ス話并評」★(6表-6裏)

「正誤」(6裏)

第5号 (明治9年4月)

「英雄事業論社説」(1表-3表)

「新聞記者獄中ノ詩歌并評」★(3表-5表)【上野春風】

「外國人暴行ノ話并評」★(5裏-6裏)

第6号 (明治9年4月)

「眞理ハ艱難ノ間ニ現出スル論」(1表-4表)

「華士族ノ家禄ヲ廢シ禄券トナサル、話并評」★(4表-5裏)

「支那新報 [并評]」(5裏-6裏)

第7号 (明治9年5月)

「政府ハ法律ヲ以テ其目的ヲ達スル能ハサルヲ論ス [社説]」(1表-3表)

「新聞記者禁獄罰金一覽表并緒言」(3表-6表)

「天皇陛下奥羽地方へ御巡幸ノ話并評」★(6表-6裏)

第8号 (明治9年5月)

「述感篇 [并評]」(1表-4表)

「和歌山縣下暴動ノ話并評」★(4表-5裏)

「大隈參議ノ邸内ニ妖怪ノ出ツル話并評」★(5裏-6裏)

「正誤」(6裏)

第9号 (明治9年6月)

「日本帝國亡滅セントスルノ徴効ヲ論ス」(1表-6裏)

第10号 (明治9年6月)

「前号ノ續キ」(1表-3表)

「暴政ハ天理ニ勝タサル論 (投書)」(3表-5裏)【清元新内】

「[投書の評]」(6表)

「朝鮮人御取扱ノ話并評」★(6表-6裏)

第11号 (明治9年6月)

「國事ヲ以テ自負スルノ説」(1表-2表)

「自由ハ鮮血ヲ以テ買ハサル可カラサル論 投書」(2表-6裏)【植榎逕】

「[投書の評]」(6裏)

「正誤」(6裏)

第12号(明治9年6月)

「殺氣ハ立國ノ原素ナル論」(1表-3裏)

「藝娼妓在獄新聞記者ヘ差シ入レシタル事並評」★(3裏-5裏)

「第一國立銀行ニテ金銀紙幣ヲ竊ミ取ラレシ事並評」★(5裏-6裏)

第13号(明治9年6月)

「姦相邪吏モ時アリテ進歩ノ一大要具タル論」(1表-3裏)

「地方ノ天災及ヒ雲中ニ妖怪ノ顯ル、事 并評」★(3裏-5表)

「[メール] 新聞社説ヲ讀ム 投書」(5表-6表)【中島震卿】

「[投書の評]」(6表-6裏)

第14号(明治9年7月)

「我邦現今ノ形勢ハ野蠻ノ俗ニ復歸セントスルヲ論ス」(1表-3表)

「讀禁獄罰金一覽表 投書」(3表-4裏)【榎茂】

「[投書の評]」(4裏-5表)

「山梨縣下ノ人民田地ヲ上納シテ將ニ為ス所アラント騒ク [コト] 並評」
★(5表-6裏)

第15号(明治9年7月)

「社説」(1表-3表)

「千葉縣下ノ人民田植ヲ禁セラル、ノ評」★(3表-4表)

「伊藤博文新聞供養ヲ窺フ [并評]」(4表-4裏)

「笑説 投書」(4裏-6表)【民野真権】

「[投書の評]」(6表-6裏)

草莽雜誌(1(明9.3)-6(明9.7)/自主社)

『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に、西田長寿「『草莽雜誌』『莽草雜誌』『草莽事情』解題」及び翻刻が収められている。〈東京日日新聞〉明治9年3月20日の広告は以下のとおり。「餘輩今般一社ヲ開創シ或ハ世事ヲ論シ或ハ歐米諸書ノ苟モ文化昌盛ニ裨益アルモノハ譯シテ之ヲ記載シ右ノ題ヲ以テ毎月數回發兌ス乞フ有志 諸君高覽アランコトヲ區々ノ小冊子ト雖モ亦小補ナキニ非スト云爾」 発行禁止処分を受けて終刊。後継誌として〈莽草雜誌〉(138～139頁)が刊行されている。

内務省統計による部数。4,800(明治8年7月～明治9年6月)4,614(明治9年7月～明治10年6月)

当館所蔵：1、3 (WB42-17)

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち) /2-6
京都大学附属図書館谷村文庫/1-6 香川大学附属図書館神原文庫/1-3 国立歴史民俗博物館本多家資料/1-6 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/3 日本近代文学館/1-6 日本大学経済学部図書館/1-5 明治大学図書館生田保存書庫/1-6 立教大学新座保存書庫法学部特別コレクション/4 立命館大学 衣笠 文学部

第1号 (明治9年3月15日) ※明治新聞雑誌文庫本は3月12日刊とあり

「異説論」(1表-2裏) 【天野徹】

「[シビルリベルチャー] 佛國憲法中抄譯」★(2裏-7裏) 【木庭繁】

「買客ノ増減ハ勞者ノ貧富ニ感セサル論」(7裏-9裏) 【越智介】

第2号 (明治9年5月27日)

「讒謗律駁議」(1表-4裏)

「新聞條例第十三條駁議」(4裏-8裏)

「全第十四條駁議」(8裏-11裏)

第3号 (明治9年6月10日)

「壓制政府ハ顛覆ス可キノ論」(1表-7裏) 【沢井尚次】

「暴虐官吏ハ刺殺ス可キノ論」(7裏-9裏) 【守屋貫造】

「[投書への評]」(9裏-10裏)

第4号 (明治9年6月17日)

「義死論」(1表-4裏) 【佐藤義雄】

「凌轢論」(4裏-9裏) 【轟信次郎】

「[義死論補]」(9裏-10表)

「正誤」(10表)

第5号 (明治9年6月29日)

「壓制ヲ破滅スルハ論者ノ義務タル論」(1表-4裏) 【大賀大八】

「外債ハ募金ノ良法タルヲ論ス」(4裏-9表) 【千賀鶴太郎】

「社告」(9表)

第6号 (明治9年7月)

「眞正ノ賞罰ハ後世ヲ俟テ定ルノ論」(1表-4裏) 【葛原清民】

「暗殺論」(4裏-8裏)

「新聞記者ノ處刑ハ其罪ニ非ルノ論」(8裏-10裏) 【藤川敢次郎】

教法集説 (1 (明 9.4) /三省社)

内務省統計による部数。2,810 (明治 8 年 7 月～明治 9 年 6 月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち)

第 1 号 (明治 9 年 4 月)

「名實違行ヲ論ス」(1 表-2 裏)【日野照界】

「○○」(2 裏-3 裏)【菅龍貫】

「佛仙人論」(4 表-4 裏)【原坦山】

「[[福田義導投書の梗概]]」(4 裏-6 裏)【[[吉島高尚]]】

「[[投書]]」(6 裏)【佐治恵忍】

医事雑報 (1 (明 9.5) -4 (明 9.12) /大阪府病院)

来日して大阪で医学教育にたずさわったオランダ人医師、越爾蔑噠斯 = エルメレンス Christian Jacob Ermerins (1841 ~ 1880) の講義筆録。各号とも越爾蔑噠斯講述/物部誠一郎筆録となっている。

内務省統計による部数。115 (明治 8 年 7 月～明治 9 年 6 月) 747 (明治 9 年 7 月～明治 10 年 6 月)

当館所蔵：1-4 (WB42-31)

他機関所蔵：1-4 香川大学附属図書館神原文庫/1-3 国際日本文化研究センター宗田文庫/1-4 村上医家史料/1-4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第 1 号 (明治 9 年 5 月)

「撒里失兒酸」(1 表-4 表)

「便毒注射法」(4 表)

「色盲」(4 裏-7 表)

「膀胱ノ小結石ヲ除去スル法」(7 表-8 表)

「子宮注射薬」(8 表-12 表)

「石榴根皮越幾斯」(12 表-13 表)

「多量ノ水ヲ灌腸スル法」(13 表-15 裏)

第 2 号 (明治 9 年 6 月)

「假關節療法」(1 表-2 表)

「火傷塗擦薬」(2 表-2 裏)

- 「酸素ノ量常ヨリ減シテ尿素ノ排泄ニ變ヲ來スノ論」(2裏-5表)
- 「咽喉ヲ麻痺セシムル法」(5表-6表)
- 「液體ノ滲透セサル被包物ヲ用テ頑固ノ皮膚病ヲ治スル法」(6表-7表)
- 「肺臟内異物ノ説」(7表-9裏)
- 「惡阻ノ治法」(9裏-11表)
- 「臭素龍腦」(11表-12表)
- 「滋養灌腸法」(12表-14表)

第3号 (明治9年10月)

- 「藥用肉羹汁製法」(1表-2裏)
- 「鼻感冒療法」(2裏-3裏)
- 「白屑風奇藥」(3裏-4表)
- 「亞硝酸亞密兒」(4裏-6表)
- 「耳中ノ異物ヲ除去スル法」(6表-6裏)
- 「脱肛療法」(6裏-7裏)
- 「沃度保兒謨」(7裏-10表)
- 「莫爾比涅皮下注射法」(10表-11裏)
- 「刮鐵」(11裏-13表)
- 「抱水コロトンコロラル」(13表-14裏)
- 「撒里失兒酸曹達」(14裏-15裏)

第4号 (明治9年12月)

- 「脈ノ變候ヲ論ス」(1表-6裏)
- 「抱水格魯羅兒ヲ分娩時ニ用フル法」(6裏-7裏)
- 「乳酸ノ吸入法ヲ格魯布ニ施ス法」(7裏-8表)
- 「癩麻質私痛ニ冷水ヲ注射スル法」(8表-9表)
- 「慢性越屈設麻塗擦藥」(9表-9裏)
- 「痢疾療法」(9裏-11表)
- 「脂油類ヲ皮膚ニ擦入スル法」(11表-12表)
- 「鼓脹治法」(12裏-13表)
- 「體温亢盛ノ説」(13表-15表)
- 「格魯布一療法」(15表-15裏)
- 「急性關節癩麻質私治法」(15裏-17裏)
- 「肺氣腫療法」(17裏-18裏)
- 「間歇熱後ニ於ケル脾腫脹ノ療法」(18裏-20裏)
- 「乳酸ヲ催睡藥トシ用フル法」(20裏-21裏)

「癲癇ノ發作ヲ預防スル法」(21裏-22裏)

報国雑誌 (1 (明9.7) -4 (明9.8) /報国社)

〔小引〕の内容が〈報国新誌〉(83～84頁)のそれとほぼ同じであることから、同誌の後継誌と思われる。〈東京日日新聞〉明治9年7月1日に以下の記事が見える。「○今月の始めより報国雑誌と云ふものが發兌に成ります定めて面白い論が有りませう」

当館所蔵：なし

他機関所蔵：2 法務図書館吾園叢書/1-4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/3 明治大学博物館内藤家文書

第1号 (明治9年7月)

「〔小引 明治九年七月〕(表2)【報国雑誌ノ記者】2-4号にもあり(4号は八月)

「都鄙ノ權力ヲ均シクスルハ鐵道ニ非サレハ能ハサルノ説」(1表-5裏)
【岡田真】

「支那人民ハ禽鳥樹木ニ如カサル論」(5裏-7裏)【土居光華】

「諸雜誌社新聞紙屋ノ社長或ハ編輯長ヲ以テ人民ノ代議士トナシ以テ假ニ下院ヲ設クヘキヲ論ス」(7裏-10裏)【藤田九二】

第2号 (明治9年7月)

「耻ヲ知レヤイノ説」(1表-4裏)【土居光華】

「報國ノ精神ハ勉強ニアルヲ論ス」(5表-7裏)【岡本勘藏】

第3号 (明治9年7月)

「言語文章ノ修メ善クセサルヘカラサルノ説」(1表-5裏)【中島雄】

「宗教ハ文明ノ進前スルニ随ヒ消滅スル論」(5裏-8裏)【小野正文】

第4号 (明治9年8月)

「寡人政治ノ危険ト不幸トヲ論ス」(1表-4表)【森潜】

「讎敵心ハ文明ノ元素タル論」(4表-6表)【江上清風】

「仕フルニ道ヲ以テセサル者ハ政府ヲ人間ノ掃溜ト為スノ説」(6裏-7裏)
【中島雄】

中外評論 (1 (明9.8) -28 (明9.10) /集思社)

『自由民権思想 上』(青木書店、1957)に主要な論考が翻刻されている。発行禁止処分を受けた〈評論新聞〉(97～111頁)の後継誌。ただし〈中外

評論)もまた発行禁止となり、その後継誌が〈文明新誌〉である。

内務省統計による部数。53,517(明治9年7月～明治10年6月)〈絵入一六新聞〉の改題とあり。

当館所蔵：1-28(WB42-39)、1-27(WB42-39-2)

他機関所蔵：25 一橋大学附属図書館 明治文庫(新聞一班のうち)/1-13、18-28 関西学院大学図書館/1-19 京都大学人文科学研究所図書室/1-28 国立歴史民俗博物館本多家資料/21-28 鹿児島県立図書館/5 早稲田大学中央図書館/1-28 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/3 同志社大学今出川図書館/1-16 同志社大学人文科学研究所/1-23、25-28 日本近代文学館/7、14、15、19、22、24 立教大学新座保存書庫大久保文庫

第1号(明治9年8月)

「緒言」(1表-1裏)

「西郷隆盛先生台湾戦死者ヲ祭ル文附評」★(2表-3表)

「土耳其ノ新聞屋發行禁止ヲ蒙リシ報附評」★(3表-5裏)

「華族禄券ノ風説附評」★(5裏-6裏)

第2号(明治9年8月)

「大久保参議ノ説話附評」★(1表-3裏)

「山口縣下數村ノ惣代地租改正事務局へ歎願ノ大意附評」★(3裏-6裏)

第3号(明治9年8月)

「明治年間國勢ノ沿革ヲ論ス」(1表-6表)

「副島種臣氏支那行ノ事附評」★(6表-6裏)

第4号(明治9年8月)

「三條太政大臣以下北海道ノ巡廻附評」★(1表-2裏)

「熊本縣民會ヨリ縣令へ抗論ノ景況附評」★(2裏-5裏)

「山口縣前原一誠氏近作ノ詩附評」★(5裏-6裏)

「一地方ノ貴顯愛妓ニ通フ奇事附評」★(6裏)

第5号(明治9年8月)

「決死論 投書」(1表-2表)【遠山翠】

「[[投書の評]]」(2裏-3表)

「大久保大隈兩氏病氣ノ事附評」★(3表-5表)

「紙幣増加ノ風説附評」★(5表-6表)

「新聞記者獄中ノ詩附評」★(6表-6裏)

第6号 (明治9年8月)

- 「政府ニテ國事犯ノ律ヲ定ムルノ風説附評」★ (1表-3裏)
「支那内地盜賊横行ノ報附評」★ (3裏-6表)
「權妻ノ價俄ニ下落シタル話附評」★ (6裏)

第7号 (明治9年8月)

- 「千葉縣下ノ農民數十人大審院へ上告ノ一件附評」★ (1表-3表)
「在京琉球人淺艸觀音へ日參ノ事附評」★ (3表-4裏)
「支那人伊太利人ヲ暴殺シタル始末附評」★ (4裏-6裏)

第8号 (明治9年8月)

- 「木戸孝允宮内省ニ出仕ノ事附評」★ (1表-2表)
「岡山縣ノ近況附評」★ (2裏)
「本社ニ忠告ノ投書」(4表-5表)【小野省吾】
「[投書の評]」(5表-6表)
「獄中ノ詩第五号ノ續キ [附評]」(6裏)

第9号 (明治9年8月)

- 「高知縣下立志社奮起ノ景況附評」★ (1表-3表)
「不平士族ノ舉動附評」★ (3表-5表)
「高島石炭坑出火ノ話附評」★ (5表-6表)
「東京府下藝妓ノ會議附評」★ (6表-6裏)

第10号 (明治9年8月)

- 「逆臣論」(1表-2裏)
「政府ニテ北海道ニ着手ノ深意 [附評]」(2裏-4裏)
「東京丸ノ舟人支那ニテ暴殺セラレシ事附評」★ (5表-6裏)
「新橋邊流行ノ俚謡 附評」★ (6裏)

第11号 (明治9年9月)

- 「官員玉突ノ流行附評」★ (1表-3裏)
「讀朝墊新聞」(3裏-6裏)

第12号 (明治9年9月)

- 「東本願寺僧侶清國ニ宣教ノ報附評」★ (1表-3裏)
「海軍水兵廢止ノ事附評」★ (3裏-6裏)
「獄中ノ作第八号ノ續キ [附評]」(6裏)

第13号 (明治9年9月)

- 「大久保氏右大臣ニ任セラル、風説 附評」★ (1表-3表)
「文部教部廢省ノ風説 附評」★ (3表-4裏)

「朝鮮人英艦ヲ砲撃シタル報 附評」★ (4 裏-6 裏)

第 14 号 (明治 9 年 9 月)

「甲子ノ變ニ斃レタル諸士ノ祭奠アル話 附評」★ (1 表-3 裏)

「支那内地大騷亂ノ景況 附評」★ (3 裏-6 表)

「答朝野新聞」(6 表-6 裏)

「正誤」(6 裏)

第 15 号 (明治 9 年 9 月)

「國憲制定ノ勅命 附評」★ (1 表-5 表)

「英國ニテ印度雲南ノ間ニ開路ノ企 附評」★ (5 表-6 裏)

第 16 号 (明治 9 年 9 月)

「高知縣ノ近況 附評」★ (1 表-3 表)

「字内ニ一大政府ヲ設クヘキ論 投書」(3 表-5 表)【秋山清聳】

「[投書の評]」(5 表-6 裏)

「支那商船上海神戸ノ間ニ航路ヲ開ク事 附評」★ (6 裏)

第 17 号 (明治 9 年 9 月)

「自助社員ノ處刑 附評」★ (1 表-3 表)

「英清談判ノ結局 附評」★ (3 表-6 表)

「獄中ノ詩并公告」★ (6 裏)

第 18 号 (明治 9 年 9 月)

「支那ヨリ我國ニ借金ノ風説 附評」★ (1 表-3 表)

「副島氏ノ支那行 附評」★ (3 表-5 裏)

「貴官某等互ニ妾ヲ交換スル珍聞 附評」★ (5 裏-6 表)

「社員獄中ノ詩 附評」★ (6 表-6 裏)

第 19 号 (明治 9 年 9 月)

「外患論」(1 表-3 表)【秋野清露】

「[投書の評]」(3 表-4 表)

「名東縣廢合ニ付キ人民ノ苦情 附評」★ (4 表-6 表)

「土耳其人再ヒ廢帝ノ企 附評」★ (6 裏)

第 20 号 (明治 9 年 9 月)

「和歌山縣下騷擾裁判ノ形況 附評」★ (1 表-4 裏)

「外國人ノ暴動 附評」★ (4 裏-5 裏)

「台灣生蕃ノ近況 附評」★ (5 裏-6 裏)

第 21 号 (明治 9 年 10 月)

「元磐井縣廢止ノ狼狽ニテ戸長ノ割腹 附評」★ (1 表-3 裏)

「土耳其戦争ノ近況 附評」★ (3裏-5裏)

「大隈参議顧問ヲ雇入レシ話 附評」★ (5裏-6裏)

第22号 (明治9年10月)

「大隈参議用兵ノ見込 附評」★ (1表-4表)

「華族某氏身投ケノ奇談 附評」★ (4表-6表)

「撤國人民夏利巴底ニ贈ル書翰ノ大意 附評」★ (6表-6裏)

第23号 (明治9年10月)

「北地巡視中三條黒田面會セサリシ話 附評」★ (1表-3裏)

「土魯開戦ノ電報 附評」★ (4表-5表)

「山岡宮内大丞撃劍ヲ習ハス話 附評」★ (5表-6裏)

第24号 (明治9年10月)

「千葉縣下ノ農民内務省ヘ歎願ノ大意 附評」★ (1表-4表)

「國民ノ大義 投書」(4表-5裏) 【鎮西俠士 深山潜蔵】

「[[投書の評]]」(5裏-6裏)

第25号 (明治9年10月)

「島津氏華族會館歛席ノ事情 附評」★ (1表-3表)

「獨逸兵備ノ近況 附評」★ (3裏-5表)

「井上議官洋行ニ付貴官某氏三條ノ奇答ニ服セシ話 附評」★ (5表-6裏)

「正誤」(6裏)

第26号 (明治9年10月)

「支那政府嚴ニ我琉球藩ノ貢物ヲ促ス事 附評」★ (1表-4表)

「死ヲ畏ル、ノ言行ハ人ノ良心中ヨリ出テサル論 投書」(4表-5表) 【武野亭】

「[[投書の評]]」(5表-6表)

「獄中ノ作」(6表-6裏)

第27号 (明治9年10月)

「新聞紙發行禁止ノ風説 附評」★ (1表-3表)

「舊某縣令ノ徳化 附評」★ (3表-4裏)

「辨駁ノ書 投書 附評」★ (4裏-5裏)

「撤國ミラン公國皇ノ公布 附評」★ (5裏-6裏)

第28号 (明治9年10月)

「山口縣下數村ノ惣代内務省ヘ再歎願并指令ノ大意」★ (1表-6裏)

「正誤」★ (6裏)

平仮名繪入名譽新誌（1（[明9.8]）-6（明9.10）/大来社出張所）

〈朝野新聞〉明治9年7月5日に以下の広告が見える。「平仮名繪入名譽新誌 定價三錢五厘 毎月五號發兌 本月中旬より 此新聞冊子ハ名譽新誌を原書と爲し専ら童子婦女子の爲に編輯せり 東京小網町四丁目九番地 大来社出張所」

内務省統計による部数。260（明治9年7月～明治10年6月）

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-6 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1 鹿児島県立図書館

第1号

「小引」（表2）※2-4号にもあり

「西郷隆盛君小傳」（1-10）

「梁川紅蘭 閨秀」（11-12）

「安井仲平」（12-14）

「社告」（15）【山本園衛】

第2号

「西郷隆盛君小傳の續き」（1-11）

「僧五岳」（11-13）

「五代才助」（13-14）

「社告」（15）【山本園衛】

第3号

「僧月照の逸事」（1-4）

「小林次郎」（4-9）

「登幾女」（9-15）

「社告」（15）【山本園衛】

第4号（明治9年9月）

「三條公小傳」（1表-5裏）

「宇喜田可成小傳」（5裏-6裏）

「附録 山本貞一郎」（6裏-7表）

「服部元彰」（7表-7裏）

「社告」（8表-8裏）【山本園衛】

第5号（明治9年9月）

「社告」（表）

「目録」(裏)

「岩倉具視公小傳」(1-11)

「二見一鷗」(11-16)

「社告」(17)【山本園衛】

第6号(明治9年10月)

「社告」(表)

「目録」(裏)

「岩倉具視公小傳の續、き」(1-6)

「北島秀朝君の小傳」(6-12)

「篠田雲鳳 闍秀」(12)

「社告」(13)【山本園衛】

風月社談(1(明9.8) - 3(明9.11) /神戸新聞社)

現存が確認できない雑誌である。

莽草雑誌(1(明9.8) - 5(明9.9) /自主社)

『明治文化全集19』(日本評論社、1992)に、西田長寿「『草莽雑誌』『莽草雑誌』『草莽事情』解題」及び翻刻が収められている。発行禁止処分を受けた〈草莽雑誌〉(128～129頁)の後継誌。〈莽草雑誌〉もまた発行禁止となり、〈草莽事情〉を後継誌とする。

内務省統計による部数。2,000(明治9年7月～明治10年6月)

当館所蔵：なし

他機関所蔵：5 一橋大学附属図書館 明治文庫(新聞一班のうち)/2-5
京都大学附属図書館谷村文庫/1-5 国立歴史民俗博物館自由民権関係資料/1-5 国立歴史民俗博物館本多家資料/1-5 早稲田大学中央図書館/1-5
東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1-4 日本大学経済学部図書館/1-3 毎日新聞社新屋文庫

第1号(明治9年8月)

「該雑誌ノ讀法」(表2) ※2-5号にもあり

「題言」(1表-2裏)

「草莽雑誌刊行禁止ニ付拒命ノ公告」(2裏-4裏)【自主社中】

「メール新聞抜文并ニ評」(4裏-5表)

「雑誌發行禁止ノ駁議ノ駁議」(5裏-10裏)

第2号 (明治9年8月)

「國体論」(1表-4表)【馬越 [章造]】表紙「三年ノ禁獄ヲ命セラレシ馬越氏ノ遺書國体論」

「世ノ卑屈書生ニ告ル文 投書」(4表-7裏)【月岡信治郎】

「雜誌發行禁止ノ儀ニ付東京府ヘノ伺」(7裏-9裏)【栗原亮一】

第3号 (明治9年8月)

「知徳孰レカ文明進歩ノ原因タル論」(1表-5裏) ※抜克爾氏著文明論ノ抄訳

「草莽雜誌發行禁止ノ儀ニ付敝社過半不服ノ五ヶ條」(5裏-10表)

第4号 (明治9年8月)

「勸業寮公告ノ疑問」(1表-5裏)【津田仙】

「新聞條第十五條駁議」(5裏-9裏)【月岡信二郎】

「人智ハ上進スルモノナリ舊套ヲ墨守シテ處ス可ラサルノ論」(9裏-10裏)【東條才助】

第5号 (明治9年9月)

「草莽雜誌發行禁止不服ノ訴狀」★(1表-3表)

「新聞條例第十六條駁議」(3表-6裏)【月岡信次郎】

「文明ノ世ニ蠻夷ノ氣象ヲ失フベカラザル論」(6裏-10表)【坂本信】

警世新聞 (1 (明9.9) -15 (明9.12) /魁春社)

別題「心のしるべ」。

当館所蔵：2-15 (WB43-195)

他機関所蔵：3 一橋大学附属図書館 明治文庫 (新聞一班のうち) /7 昭和女子大学近代文庫/1-15 神戸大学附属図書館住田文庫/1、7 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号 (明治9年9月)

「緒言」(1表-1裏)

「大字説」(1裏-4表)【中街閑人】

「大阪語學校の生徒東京開成學校へ入學の報」(4表-4裏)

「筆のすさび」(4裏-6表)【井上鯉】

「新町女工場開設の報」(6表-6裏)

「社告 明治九年十月十一日」(7表)

第2号 (明治9年9月)

- 「花街の景況」(1表-1裏)
「十字架を鑄たる石碑を造るの報」(1裏)
「姪行醜態なからしめんと欲するの寄書」(2表-2裏)【下口助兵衛】
「小字説」(2裏-3裏)【小山小太郎】
「薄情強慾をいましむるの寄書」(3裏)【北ノ新地小さん】
「懲役人教育ノ寄書」(4表-6表)【上山孝】
「筆のすさび」(6表-7表)【井上鯤】
「正誤」(7表)
「社告 明治九年十月十六日」(7裏)

第3号 (明治9年10月)

- 「酔ひ醒の新話」(1表-2表)【酔醒舎半狂】
「京町橋が鉄橋と架替たる祝詞のかへ歌」(2表-2裏)【馬風亭瓢鯨】
「車説」(2裏-4表)
「區入費取立學校入費割付の報」(4表-4裏)
「勉強をずゝむるの寄書」(4裏-5表)【東天野夫 鳥井】
「十三川に橋を架の報」(5表-5裏)
「西京東山招魂祭の景況」(5裏-6表)
「西京東山招魂祭ノ略記」(6表-7表)【楫里生】
「社告 明治九年十月二十一日」(7裏)

第4号 (明治9年10月)

- 「合歡家の喧嘩」(1表-2裏)
「筆のすさび」(2裏-4表)【井上鯤】
「藝妓立小便の戯話」(4表-5表)【浮川福平】
「幼児に留守番さして盗に遇の報」(5表-5裏)
「言行一致の寄書」(5裏-6裏)【八萬太】
「説教者奸姪の報」(6裏-7表)
「社告 明治九年十月二十六日」(7裏)

第5号 (明治9年10月)

- 「人力車の毀損た報」(1表-1裏)
「續大字説」(1裏-3表)【山本與助】
「筆のすさび」(3裏-5裏)【井上鯤】
「未開人の街談を聞の寄書」(5裏-6表)【末開生】
「尼僧子を孕んだ顛末」(6表- [7] 表) ※7丁目が「六」丁と誤記されて

いる。

「社告 明治九年十一月一日」(〔7〕裏)

第6号(明治9年11月)

「贋帳の欺騙」(1表-1裏)

「藝妓の情緒」(1裏-2表)

「筆のすさび」(2表-4表)

「熊本縣暴動の事を賦したるの詩」(4裏-5表)

「盜賊の報」(5裏)

「支那人と日本人との喧嘩」(5裏-6表)

「女子正行の報」(6表-6裏)

「放屁の招牌を戒むるの寄書」(6裏-7表)【未開生】

「社告 明治九年十一月六日」(7裏)

第7号(明治9年11月)

「幽霊の話」(1表-1裏)

「人力車夫客を欺の話」(1裏-2表)

「悪言語を戒しむるの寄書」(2表-2裏)【未開生】

「中字説」(2裏-4裏)【飄々亭々吉】

「人力車屋の浮世ぶし」(4裏-5表)【蛇水】

「付け火の報」(5表)

「難船の報」(5表-5裏)

「自由銀行創立の報」(5裏-6裏)

「花の由縁」(6裏-7表)【半眠舎のあろじ夢三】

「正誤」(7表)

「社告 明治九年十一月十一日」(7裏)

第8号(明治9年11月)

「筆のすさび」(1表-2表)【井上鯤】

「自由銀行(前號ノ續)」(2表-3表)

「松島遊廓の奇談 寄書」(3表-4表)【小野米吉】

「ベリサリユース氏の傳を讀む 寄書」(4裏-5裏)【半眠舎 夢三】

「三女の争論」(5裏-6裏)

「繼母義子を虐使するの報」(6裏-7表)

「社告 明治九年十一月十六日」(7裏)

第9号(明治9年11月)

「筆のすさび」(1表-2表)【井上鯤】

「自由銀行（前號ノ續）」（2表-3表）
「在神棚招猫と小狸の戯話 寄書」（3表-4裏）【浮川福平】
「大阪名物の狂詩 寄書」（4裏-5裏）【日井霜太】
「秘蜜藝の話 寄書」（5裏-6裏）【末広要】
「江湖瑣話」（6裏-8表）
「正誤」（8表）
「社告 明治九年十一月廿一日」（8裏）

第10号（明治9年11月）

「幽霊の質問 寄書」（1表-1裏）【中村真】
「落語闖枝會ノ記 寄書」（1裏-2表）【静艸生】
「自由銀行（前號ノ續）」（2表-3裏）
「筆のすさひ」（3裏-5表）【井上鯤】
「江湖瑣談」（5表-7表）
「正誤」（7表）
「社告 明治九年十一月廿六日」（7裏）

第11号（明治9年12月）

「稟告 明治九年十二月」（表2）【魁春社】
「土地自慢の話 寄書」（1表-1裏）【末広要】
「大阪英語學校本年第一期表を見るの寄書」（1裏-2裏）【文野進】
「女子に遊藝ばかりを教ゆべからずの寄書」（2裏-3表）【末開生】
「筆のすさひ」（3表-4表）【井上鯤】
「自由銀行（前號ノ續）」（4表-5表）
「江湖瑣話」（5表-7表）
「箕面山に遊ぶの略記」（5裏-6裏）【日井霜太】
「社告 明治九年十一月廿六日」（7裏）

第12号（明治9年12月）

「稟告 明治九年十二月十日」（表2）【魁春社】
「幽霊の質問に答ふ 寄書」（1表-2裏）
「筆のすさひ」（3表-4表）【井上鯤】
「自由銀行（前號ノ續）」（4表-4裏）
「江湖瑣話」（4裏-6裏）
「社告 明治九年十二月六日」（7表）

第13号（明治9年12月）

「筆のすさひ」（1表-1裏）【井上鯤】

「自由銀行創立規條大略（前號ノ續）」（2表）

「江湖瑣話」（2表-7表）

「社告 明治九年十二月十六日」（7裏）

第14号（明治9年12月）

「素人細工を戒むるの寄書」（1表-1裏）【未開生】

「筆のすさひ」（2表-3表）【井上鯤】

「自由銀行（前號ノ續）」（3表-4裏）

「醜態を戒しむるの寄書」（4裏-5裏）【赤松繩】

「江湖瑣話」（5裏-7裏）

「社告 明治九年十二月廿一日」（8表）

第15号（明治9年12月）

「煤掃の寄書」（1表-2表）【生域 不開】

「筆のすさひ」（2表-3裏）【井上鯤】

「自由銀行（前號ノ續）」（3裏-4表）

「江湖瑣話」（4裏-6裏）

「寄書」（6裏-8表）【鼻毛長】

「社告 明治九年十二月廿六日」（8裏）

万国雑話（1（明9.9）-13（明9.12）/弘容館）

〈朝野新聞〉明治9年9月22日に以下の記事が見える。「○此間書きました萬國雑話と云ふが昨日より發兌になりました價ハ貳錢各國の事が色々載せて有る面白い本」13号が終号かどうかは確定できないが、翌明治10年2月2日の〈読売新聞〉に「萬國雑話ハ題号を萬國女新聞とあらため一枚紙に摺立て官令ハ毎号附録にし昨日から出版に成ました」とあり、明治9年末から10年初頭の時期に終刊していることがわかる。

当館所蔵：1-6、9、10（WB42-40）、1、4、5（WB42-40-2）

他機関所蔵：1 一橋大学附属図書館 明治文庫（新聞一班のうち）

第1号（明治9年9月）

「佛國民選議院編制法」★（1-4）

「租税新論駁議」（5-6）

「西班牙ノ船將閣龍日本國ヲ窺ハントセシ話」★（7-8）

「希臘國法律家「リキユルグ」ノ傳并像」（8-13）

第2号 (明治9年9月)

- 「佛國民選議院編制法 (前號ノ續)」(1-4)
- 「孟德斯鳩氏貴族商法ノ説」(4)
- 「[イリユストラテット、ロンドン新聞]抄譯 [地球上の人口]」(5)
- 「魯西亞ハ決テ開明ス可ラザルノ説」(5-8)
- 「希臘ノ法律家リキユルグノ傳 (前号ノ續キ)」(8-12)

第3号 (明治9年9月)

- 「婚姻ト健康トノ關係ヲ論ス」(1-4)
- 「租税新論駁議 (前號ノ續キ)」(4-7)
- 「佛國民選議院編制法 (前号ノ續キ)」(7-10)
- 「羅馬國ノ自由黨 [リユシ井ユス、ジニ井ユス、ブリユチユース]ノ傳並ニ像」(10-13)
- 「正誤」(13-14)

第4号 (明治9年10月)

- 「外交ニ用フル言語 (ボルセン氏公法抄譯)」(1-4)
- 「[イリユスト、テット、ロンドン新聞]抄譯 (第二号續)」(4-5)
- 「[ウアツテル]氏貿易權衡ノ説」(5-7)
- 「蘆騷氏奴隸ノ説」(7-8)
- 「羅馬ノ自由黨 [リユシ井ユス、ジニ井ユス、ブリユチユース]ノ傳 (前号ノ續キ)」(9-12)
- 「本館新聞紙及ヒ雜話定價」(13)

第5号 (明治9年10月)

- 「佛國民選議院編制法 (第三号ノ續キ)」(1-4)
- 「名ハ實ニ如カサルノ説」(4-6)
- 「合衆國ノ沈醉者悔悟院ノ話」(6-8)
- 「雅典ノ「ジェ子ラル、ミルチャード」ノ傳并像」(9-13)

第6号 (明治9年10月)

- 「年中月名ノ起源」(1-4)
- 「烟草税ノ説明及ヒ阿片ノ説」(5-7)
- 「訓蒙邇言」(8)
- 「蜘蛛ノ行ヒ英雄ヲ勵マセシ話」(9-10)
- 「兩婦一兒ヲ争ヒシ話」(10-11)
- 「狡童狼ニ食ハレシ話」(11-12)
- 「本館新聞紙及ヒ雜話定價」(13)

第7号 (明治9年10月)

- 「「ヴァツテル」氏公法摘譯」(1-3)
- 「西史ノ四時代」(3-12)
- 「蜘蛛ノ行ヒ英雄ヲ勵マセシ話ノ續キ」(12-13)
- 「牝狼人兒ヲ育セシ話」(13)
- 「正誤」(14)

第8号 (明治9年10月)

- 「佛國民選議院編制法 (第五号ノ續)」(1-3)
- 「一睡中五十七年ヲ經過セシ話」(3-4)
- 「埃國「ウイー子」警保ニ用ユル罪人ノ見手本」(5-8)
- 「「ヴァツテル」氏公法摘譯 (前号ノ續キ耕作篇)」(8-10)
- 「雅典ノ「ジエネラル、ミルチャート」ノ傳 (五号ノ續)」(10-13)

第9号 (明治9年11月)

- 「「ウアツテル」公法抄譯 (前號續キ)」(1-2)
- 「「アントニヲ、カノワ」氏ノ話」(2-4)
- 「澳國出版論ノ創意者 (カルテンラウブ新聞ヨリ抄譯ス)」(4-8)
- 「「ハーペルスウイーキリイ」新聞抄譯 [イタリアで竣工した軍艦の名の由来]」(8-9)
- 「新世界誌畧」(10-12)

第10号 (明治9年11月)

- 「「ボジイン」氏政治論」★(1-3)
- 「泰西詩人ノ祖和馬氏ノ傳」(3-5) 表紙「泰西詩人ノ祖「ホメア」氏ノ傳」
- 「新世界誌ノ續キ」(5-8)
- 「魚ノ愛憎 (獨乙新聞ヨリ抄譯ス)」(9-12) ※ 10-11 は次号予告挿画

第11号 (明治9年11月18日)

- 「日本効学西國工藝 (英國貿易編ヨリ譯出ス)」(1-2)
- 「健康ナラント欲セハ運動ヲ為スニ如カス」(3-5)
- 「動植二物ノ分界」(6-7)
- 「少シノ怠リヨリ大失錯トナリシ話」(8-9)
- 「人ハ飛鳥ノ如シ」(9-12)

第12号 (明治9年11月20日)

- 「日本効学西國工藝 (前号ノ續キ)」(1-3)
- 「動物分界 (前号ノ續キ)」(3-5)

「万国百人種第壹号 [ピンデウ]」(5-9)【朝比奈寒楼訳述】

「[アルネスセル]ト云フ馬鹿者ノ話」(9-11)

「園丁ノ遁辭」(11-12)

「[正誤]」([13])

第13号(明治9年12月) 未確認

掌珍新論(1(明9.10)-2(明9.11)/枕流社)

「年表」には「掌珍新誌」とでていた。『明治仏教思想資料集成 第4巻』(同朋舎、1980)に、翻刻及び福嶋寛隆による解題がある。

〈東京日日新聞〉明治9年10月20日に以下の広告が見える。「十月十六日發行 此論ニハ七事具ハルヲ載ス一ニ舊ヲ去リ新ヲ取ルニニ戯ヲ去テ益ヲ取ルニニ尋常ノ益ヲ取ラズ四ニ本ヲ忘レ枝葉ヲ論ズルヲ取ラズ五ニ批評ヲ蒙テ輒ク倒ル、ヲ取ラズ六ニ近ヲ知テ遠ク慮ラザルヲ取ラズ七ニ語巧ミナルモ意巧ミナラザルヲ取ラズ大方ノ諸君コノ意ヲ裁酌シテ投書アラン[コト]ヲ伏テ冀フノミ」

内務省統計による部数。685(明治9年7月~明治10年6月)〈掌珍新誌〉と表記

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 東京経済大学図書館三橋文庫/1 東京大学経済学部図書館/1-2 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫/1 内藤記念くすり博物館大同薬室文庫/2 毎日新聞社新屋文庫/2 立教大学新座保存書庫海老澤文庫

第1号(明治9年10月)

「木戸公ニ憑テ富國ノ建築貫通センコトヲ需ムル書」★(1表-8裏)【佐田介石】

「木戸参議ニ憑テ建言ヲ通セント乞書ノ二」(9表-11表)【佐田介石】

第2号(明治9年11月5日)

「人民疲弊ノ本」(1表-15表)

開化ノススメ(1(明9.10)-2(明9.11)/集成舎)

現存が確認できない雑誌である。内務省統計に見える「開化勸雑誌」は本誌を示すものか。

論衡雑誌 (1 (明 9.11) - 5 (明 9.12) /自省社)

表2におかれた文言に「…各家ノ論意ヲ輯集シテ過不及ノ弊ヲ矯メ努メテ衡平ニ穩ヲ旨トシ開化裨益ノ一端ニ供センコトヲ要ス」とある。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1-3 一橋大学附属図書館 明治文庫（新聞一班のうち）/1-

4 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号 (明治9年11月26日)

「西賊暴擧ノ論」(1表-2裏)

「暗誦ヲ論ス」(2裏-3表)

「朝野撮要」(3表-3裏)

「外喜論」(4表-5裏)

第2号 (明治9年12月)

「公明正直不可欠論」(1表-2裏)

「兄弟不可仇視ノ話」(2裏-4表)

「人口控制ノ議」(4表-5表)

「早婚ノ害ヲ論ス」(5表-6表)

「巡官内外注意ノ至ルヲ美スル話」(6表-7表)

第3号 (明治9年12月)

「人力車夫糊口ノ話」(1表-2裏)

「改良ノ域ニ上進スル不自足ノ三字ヲ要スル論」(2裏-4表)

「競歩ノ話」(4表-4裏)

「智徳偏廢ス可ラサル論」(4裏-6表)

「書生ノ品行ヲ論ス」(6表-7表)

第4号 (明治9年12月)

「不平論」(1表-3裏)

「甲乙問答」(3裏-5裏)

「自主獨立ノ大本ヲ論ス」(5裏-6裏)

第5号 (明治9年12月) 未確認

統計雑誌 (1 (明 9.12) -/統計寮)

外国の統計、経済書から有用な記事を紹介することを主目的とした雑誌。2号以降の刊行については不明。

当館所蔵：なし

他機関所蔵：1 東京大学法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫

第1号（明治9年12月序）

「統計の來由」（1-10）

「人口ノ事」（10-22）

参考文献

『内務省年報・報告書 第1巻』大日向純夫〔ほか〕編、三一書房、1982

『内務省年報・報告書 第4巻』大日向純夫〔ほか〕編、三一書房、1983

『内務省年報・報告書 第5巻』大日向純夫〔ほか〕編、三一書房、1983

『明治前期書目集成 第四分冊』明治文献資料刊行会編、明治文献、1972

『明治前期書目集成 第六分冊』明治文献資料刊行会編、明治文献、1972

『明治文化全集 19 雑誌篇』明治文化研究会編、日本評論社、1992

『朝野新聞 縮刷版』ベリカン社、1981-1984

『東京日日新聞 復刻版』日本図書センター、1993-1995

『明治の讀賣新聞』（CD-ROM）読売新聞社メディア企画局データベース部、1999

『学習院大学所蔵京都学習院旧蔵書目録・華族会館旧蔵和漢図書目録・立花種恭・種忠旧蔵書目録・乃木文庫目録・福羽美静文庫目録』学習院大学、2005

『梧陰文庫総目録』国学院大学日本文化研究所編、東京大学出版会、2005

『河野省三記念文庫目録 和装本之部』国学院大学日本文化研究所編、錦正社、1993

『金光図書館蔵神徳書院文庫目録』金光図書館、1988

『松字文庫俳書目録』青裳堂書店、1994（日本書誌学大系；69）

『蒼竜館文庫目録』金沢市立図書館、1968

『中村俊定文庫目録』早稲田大学図書館、1990（早稲田大学図書館文庫目録；第14輯）

『芭蕉文庫目録 書冊篇』芭蕉翁顕彰会編、八木書店、2005

- 『法務図書館所蔵貴重書目録 和書』法務図書館、1973
『明治大学所蔵内藤家文書目録』明治大学図書館、1965
『明治仏教史編纂所蔵目録』明治仏教史編纂所、1972
『連歌俳諧書目録』東京大学総合図書館編、東京大学出版会、1972
『早稲田大学図書館逐次刊行資料目録 昭和48年12月末』早稲田大学図書館、1977
『綿屋文庫連歌俳諧書目録 第2』天理大学出版部、1986（天理図書館叢書；第35輯）

主要参照オンラインデータベース

- NACSIS Webcat（国立情報学研究所）
全国新聞総合目録データベース（国立国会図書館）
総合目録ネットワークシステム（国立国会図書館）
明治期出版広告データベース（国文学研究資料館）

著者索引

* 排列は姓の五十音順。読みの不明な戯号等は適宜推定し排列した。

粟生佩弦居士	92	石井信義（1837-1882）	38, 39
青柳高鞆（1840-1892）	47	石川舜台（1842-1931）	
青柳盛枝	108		86, 87, 88, 89, 113, 114
赤松繩	143	石川寧静（源仲甫葬）	32
秋野清露	135	葦洲清原	76
秋山光條（1843-1902）	76, 77	伊東孝二	105
秋山清聳	135	伊東貞	108
朝比奈寒楼	146	伊藤謙（1851-1879）	45, 46
朝吹英二（1849-1918）	111	伊能穎則（1805-1877）	48
渥美契縁（1840-1906）		井上鯤	139, 140, 141, 142, 143
	88, 113, 114, 125	井上寂英	88
渥美契華（1809-1878）	125	入江陳重（=穂積陳重）（1856-1926）	
天野徹	129		124
安藤愿立	123	岩津友好	101
安藤正胤（-1926）	119	植榎逕（=植木枝盛、→榎茂）	127
飯田二一朗	108	上野春風	127
猪飼麻二郎（=麻次郎・=麻治郎）		上山孝	140
（1856-1901）	111	鷗飼寛	92
伊川淵思	88	浮川福平	140, 142

宇喜多練要	64	小野方賢	77
牛場卓蔵 (1850-1922)	67	小野米吉	141
宇多晦蔵	45	小幡篤次郎 (篤二郎) (1842-1905)	19, 66, 67, 111
宇都宮三郎 (鉦之進・義綱) (1834-1902)	15	尾見季吉	84
烏有郷管窺生	100	慨癡人道	77
江上清風	132	楫里生	140
榎茂 (=植木枝盛、→植榎逕)	128	柏原謙益 (1827-1896)	123
大内青巒 (1845-1918)	85, 114	柏原孝章 (=学而) (1835-1910)	73, 74
大枝美福	108	梶原御楯	45
大岡良然	125	滑山隱史	65
大賀大八	129	加藤弘之 (1836-1916)	69, 70, 71, 72, 73
大洲石堂 (=鉄然) (1834-1902)	85, 86	金山鼎	45
		兼松成言	98
大塚浅吉	109	上條信次 (1846-1911)	100
大塚綏次郎	42, 43, 44	神谷大周 (1841-1920)	47
大橋反求斎	47	河津祐之 (1850-1894)	112, 113
岡玄卿 (1852-1925)	119	河瀬秀治 (1839-1928)	82
岳崎正鈍 (1836-1885)	125	川本清一	115
岡田可作	45	川本清次郎	115
岡田宗	46	神田孝平 (1830-1898)	15, 71, 72, 73, 74
岡田真	132	菅龍貫	88, 130
緒方少博士	21	記臆屋弘	98
岡部讓 (1849-1937)	47	岸田吟香 (1833-1905)	81, 82
岡本勘蔵	132	龜洲道人	91
岡本純	101	鬼水沃洲	47
小川駒橘 (1844-1923)	111	北地清一	118
沖野嘉太郎	45	北ノ新地小さん	140
奥山照子	47	喫霞仙史 (=柳川春三)	15
小栗蓮舶	86	木藤馨	105
尾崎三良 (三郎) (1842-1918)	94, 95, 96	木庭繁	129
小田清雄 (-1894)	77	木下春雄	102
乙骨太郎乙 (1842-1922)	115	牛山野史	98
小野敦善 (1847-1901)	120	清元新内	127
小野省吾	134	桐淵正文	45
小野正文	132	日下赫	106
小野正巳 (己)	63, 64, 65, 93	葛原清民	129

工藤晋平	45, 46	清水卯三郎 (1838-1910)	70, 72
久原躬弦 (1855-1919)	124	清水益溪 (= 島地黙雷)	89
久保惠綱	47	清水彦介	63
窪山谷也	100	蛇水	141
栗原亮一 (1855-1911)	139	松柏生	110
高良二	42, 43	白川慈撰	125
越智介	129	雌狸穴道人	99
小林儀秀 (= 小太郎) (1848-1904)		鎮西俠士 深山潛藏	136
	42, 43	醉醒舍半狂	140
小林恒	119	末広要	142
小藤南湖	110	菅沼弦八郎	111
小松原英太郎 (1852-1919)	102, 104	菅野順	120
小山小太郎	140	杉亨二 (1828-1917)	69, 70, 71, 72, 74
権田元吉	45	杉浦重剛 (1855-1924)	124
権田直助 (1808-1887)	47, 48	杉山由哲 (-1893)	45, 46
近藤鎮三 (-1894)	42, 43, 44	鈴木唯一 (1845-1909)	115
阪谷素 (1822-1881)	70, 71, 72, 73, 74, 75	生域 不開	143
坂本信	139	青霞子	30
相良正勝	83	静艸生	142
向坂兌 (1853-1881)	124	関薦	87, 88
桜井郁二郎 (1852-1915)	120	関谷清景 (1855-1896)	124
佐久良襲石	92	千賀鶴太郎 (1857-1929)	129
佐々木東洋 (1833-1918)	119	蘭鑑 (-1884)	115
佐治恵忍	130	高岡増隆 (1823-1893)	77
佐田介石 (1818-1882)	92, 146	高木怡荘 (1847-)	44
佐田拾穂	92	高室昌平	45
佐藤啓政	119	瀧脇信敏 (-1887)	94
佐藤義雄	129	武野亨	136
里見義恭	119	田代基徳 (1842-1898)	45, 46
澤井尚次	129	立花光臣 (= 古沢滋) (1847-1911)	
山東一郎 (直砥) (1840-1904)	18		80, 81
下口助兵衛	140	田中芳男 (1838-1916)	15, 17, 18
篠塚不着 (不著) (1843-1904)	89, 114	谷田鼎 (1853-)	111
忍岡隠士	99	民野真権	128
柴田 (= 柴田昌吉) (1841-1901)	70	民野清風	104
島地黙雷 (縮堂、→清水益溪) (1838-1911)	85, 86, 87, 88, 89, 113, 114	中目斎	81
		朝陽生	99

月岡信次郎（信治郎、信二郎）	139	名倉静雄	45
津田仙（1837-1908）	75, 139	那須香巖	86
津田真道（1829-1903）		南條神興（1814-1887）	65
	69, 70, 71, 72, 73, 74, 75	難波一	120
坪井信良（1823-1904）	49, 50, 55, 58, 60	仁賀保	82
坪井仙次郎（1854-1945）	67	西周（1829-1897）	
坪井仙太郎	111		69, 70, 71, 72, 73, 74, 75
土居光華（1847-1918）	84, 132	西川須賀雄（1838-1906）	
東井潔全	62		46, 47, 48, 65, 76, 77
東郷桃太郎	107	西濱正熙	122
東條才助	139	西村茂樹（1828-1902）	69, 73, 74, 75
同田與可楼	104	西村有隣	45
遠山翠	133	野村素介（1842-1927）	40, 43
榎森観了	87	萩原乙彦（1826-1886）	19, 20, 25, 26
轟信次郎	129	萩原常規	48
鳥居忱（1853-1917）	126	長谷川元良	119
東天野夫 鳥井	140	長谷川漣堂	119
鳥尾得菴（得菴, = 小弥太）		八萬太	140
（1847-1905）	88, 89	鼻毛長	143
那珂通世（1851-1908）	66	馬風亭瓢鯨	140
長井禁圍	108	林機	85
中尾武村	107	林茂吉（= 藤田茂吉）	66
中桐絢海（1851-1905）	123	林二峰	86
永坂周二（= 石球）（1845-1924）		林董（1850-1913）	112, 113
	119, 120	原坦山（鶴巢）（1819-1892）	
中島よしゑ	62		85, 86, 87, 88, 89, 130
中島勝義（1858-1932）	106	原田桁知	45
中島震卿	128	原田豊（-1894）	119
中島雄（1853-1910）	132	春野盛哉	126
中田敬義（1858-1943）	126	半眠舎夢三	141
中野松三郎	67, 111	日井霜太	142
中街閑人	139	干河岸貫一（東櫻所）	86, 87, 88, 89
中上川彦次郎（1854-1901）	66	樋口龍温（1800-1885）	125
中村真	142	日野照界	130
中村正直（1832-1891）		憑虚居士	99
	70, 71, 72, 73, 74	飄々亭々吉	141
中村良益（-1907）	119	広陵了榮（1819-1900）	125

広田静逸	123	元田永孚 (1818-1891)	94
福沢諭吉 (1834-1901)	66, 67, 72, 73, 111	元野助六郎	105
福田覚城	125	物部誠一郎	130
福羽美静 (1831-1907)	63	森有礼 (1847-1889)	69, 70, 71, 72, 73, 74
藤川敢次郎	129	森潜	132
藤田九二 (1850-)	84, 132	森下岩楠 (1852-1917)	111
藤田茂吉 (→林茂吉) (1852-1892)	67, 111	森島鼎三	123
總生寛 (1841-1894)	90	守屋貫造	129
文野進	142	安井則之	48
古沢滋→立花光臣		安田次郎吉	19
平木野平左エ門	108	柳川春三 (= 柳河墩、→喫霞仙史、→柳園外史) (1832-1870)	14
奉島常敏	47	矢野文雄 (1850-1931)	66
穂積陳重→入江陳重		山内徳三郎	113
堀秀成 (1819-1887)	77	山極吉哉	45
堀尾機一	45	山崎元脩	119, 120
本多公敏	78	山崎千仞	123
牧野大眼	64	山崎翠	123
馬越章造 (-1912)	139	山田精一郎	126
馬島讓 (1834-1902)	78	山本園衛	137, 138
松川修 (-1886)	46	山本與助	61, 62, 140
未開生	140, 141, 142	湯川頼二郎	111
松林了英 (1816-1880)	122	横瀬文彦	100
松山松斎	123	横山由清 (1826-1879)	94, 95
松山棟庵 (1839-1919)	111	吉島高尚	130
三浦義純	119	四屋純三郎 (1854-1884)	43, 44, 111
未開生	141, 143	米倉純一郎	45
彌堅外史	98	柳園外史 (= 柳川春三)	15
操	123	和田維四郎 (1856-1920)	125
満木清繁	105	和田義郎 (1840-1892)	111
箕作秋坪 (1825-1886)	70, 115	渡辺悌二郎	120
箕作麟祥 (1846-1897)	69, 70, 71, 115	アンデルソン (安埜兒孫)	
三瀨謙三 (1852-1894)	119	(Anderson, William Edwin (1842-1900))	116, 117
箕浦勝人 (1854-1929)	67	ジヨン・イトン	
武者小路実世 (1851-1887)	94	(Eaton, John (1829-1906))	43
無田口巖苗	99		
村岡範為馳 (1853-1929)	44		

ウアツテル		ヂエームス、ベーチエト	116
(Vattel, Emer de (1714-1767))	145	アーサーヘルプス	
ウハトソン	43	(Helps, Arthur, Sir (1813-1875))	115
依尼度列智		デキストル、エ、ホーキンス	
(Eldridge, James Stuart (1843-1901))	78	(Hawkins, Dexter Arnold (1825-1886))	42
越爾蔑嘩斯		抱独英	
(Ermerins, Christian Jacob (1841-1880))	130	(Bauduin, Anthonius Franciscus (1822-1885))	20
オスキンドルフ	42	カール、ボック	44
カンデンソン	116	ホフマン	
ジエー、エー、クーブル	40	(Hoffmann, Theodor Eduard (1837-1894))	38
フラン、ゲルーベル	40	ポルセン	144
ジエーシモンス	38	満任 (Manning, Charles James)	118
アタムスミット		マルチン	38
(Smith, Adam (1723-1790))	113	マンسف井ルド	
チャンブル	112, 113	(Mansfield, E,D,)	43, 44
チャレス、トムリンソン		スチユワルトミル (スチェワルトミル、彌兒)	
(Tomlinson, Charles (1808-1897))	113	(Mill, John Stuart (1806-1873))	
チャールスナイー	115		112, 113
ハヂソン	43	モルチソン	116
バックハム	42	ダウ井ッド、モルレー (ダビッド、モルレー)	
バツクル (ボツクル)		(Murray, David (1830-1905))	36, 39
(Buckle, Henry Thomas (1821-1862))	66, 84	モンテスキウ	
ジエー、バルドウ井ン (ジエー、バルドウ井ン)		(Montesquieu, Charles de Secondat baron de (1689-1755))	112, 113
(Baldwin, Joseph (1827-1899))	38, 39, 42	ユウル (Ure, Andrew (1778-1857))	
バルナルド (Barnard,)	44		112
イリザバスピーピーボデー女		ラホンテーヌ	
(Peabody, Elizabeth Palmer (1804-1894))	39	(La Fontaine, Jean de (1621-1695))	113
ヒユーム		ドクトルリーケ	40
(Hume, David (1711-1776))	112	(ふじもと なおき 収集部国内資料課)	
ピルツ	44		